2018.4

卒業認定･学位授与の方針(DP)
教育課程編成の方針(CP)
入学者受入の方針(AP)

九州保健福祉大学

社会福祉学部

スポーツ健康福祉学科

臨床福祉学科臨床福祉専攻

臨床福祉学科臨床心理専攻

保健科学部

作業療法学科

言語聴覚療法学科

視機能療法学科

臨床工学科

薬学部

薬学科

動物生命薬科学科

生命医科学部

生命医科学科

九州保健福祉大学　社会福祉学部　スポーツ健康福祉学科

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

スポーツ健康福祉学科(以下、「本学科」)では、本学の課程を修め、124単位の単位修得と必修等の条件を充たし、福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者、はり師きゆう師としての基礎学力に加え、人々の生活の質の向上に資する専門知識・技能・態度を修得し、社会に有為な人材として、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

(1)相手を慮り責任を持って行動できる力
福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者およびはり師きゆう師として、対象者がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域や多職種との連携・協働を行うことができる。

(2)社会や他者に能動的に貢献しようとする姿勢
福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者およびはり師きゆう師として、地域社会の動向をふまえ、福祉、スポーツ・健康運動および医療の現場において必要とされる実践力を身につけ、社会や他者のために自ら積極的に責任ある行動をとることができる。

(3)専門的知識・技能の活用力
福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者およびはり師きゆう師として、各領域で必要とされる福祉・健康・運動・医療分野の体系的・相互関連的知識の学修成果を、状況に応じて総合的に活用することができる。

(4)問題発見・解決力
福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者およびはり師きゆう師として、福祉、スポーツ・健康運動および医療の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用することで、問題解決のための実践的方法を選択・実行することができる。

II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、建学の理念および卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。

1 教育内容

(1)共通基礎科目を通して、社会人として基礎的な知識を身につけ、さまざまな場面におい

て必要とされる思考力、洞察力、判断力を養成します。また、支援対象者や協働する多機関、多職種等とスムーズにコミュニケーションを図り、適切な支援に結びつけるための基礎知識を学びます。

(2)社会福祉系科目を通して、福祉社会を担う者として、豊かな人間性と倫理観を身につけ、対人援助者としての使命感、責任感の育成を図ります。地域社会や支援対象者に対して、社会福祉の知識、技術を駆使して、課題の発見から解決方法を導き出していく実践力を身につけます。さらに、スペシフィック領域では、スクールソーシャルワークおよび医療ソーシャルワークに関する専門知識、技術について学びを深めます。

(3)スポーツ健康専門科目を通して、身心の健康の維持・増進を図り、すべての人々の生活の質の向上に役立てるために必要なスポーツ・健康運動に関する専門知識を修得し、実践力を養成します。

(4)鍼灸健康専門科目を通して、東西両医学からみた人体構造・機能の生理的・病理的状態に関する知識、ならびにそれらを基盤とした臨床医学の知識を修得します。実習を通して的確かつ安全な鍼灸治療技術を学び、人々の健康維持増進に貢献できる臨床態度および能力を獲得します。

(5)総合科目を通して、社会福祉、スポーツ・健康運動、鍼灸治療分野の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決力を獲得します。

2 教育方法

(6)専門領域の実習科目では、主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施します。

(7)専門教育科目においては、教室外学修の課題を課し、適宜形成的評価のためのフィードバックを行います。

(8)社会福祉士やはり師きゆう師、健康運動指導士等の国家資格や認定資格に必要な専門的知識の修得状況を、確認テストの実施によって継続的にモニタリングします。また、学科教員による国家試験・認定試験対策のための時間を開設し、段階を追ったプログラムを実施します。

(9)チューター教員との面談を適宜に設け、自己の学修成果と学生生活について「ふりかえり」を行います。

3 教育評価

(10) 2年生時のGPAおよび2年次までの修得単位数に基準を設け、スポーツ健康福祉学演習、卒業研究を履修する基礎レベルが修得できていることを求めます。

(11) 4年間の学修成果の評価は卒業研究(必修)によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し総括的評価を行います。

Ⅲ. 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。
(2) 社会福祉、スポーツ・健康運動指導、医療の専門性の高い仕事に就く意欲がある。
(3) 社会福祉、スポーツ・健康運動指導、医療の専門的な知識・技能を学修するための基盤となる文章読解力および表現力(文章を読んでまとめる力)を身につけている。
(4) 社会福祉、スポーツ・健康運動指導、医療に関する諸課題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。
(5) 課外活動・ボランティア活動等の経験があり、他の人達と協働して活動や学習をすることに進んで参加できる。また、グループワークなどで、他の人と協力しながら、課題をやり遂げる意欲がある。

＜求める人物像＞

（1） 「皆で生きていく」という共生の意識を持っている人
（2） 人とふれあうことが好きで、相手の立場に立って物事を考え、行動できる人
（3） 福祉、スポーツ、東洋医学に興味を持ち、新たな領域に挑戦する意欲と勇気を持っている人

＜学んできてほしいこと＞

将来仕事としてやっていくためには、プロフェッショナルとしての「知識」と「技術」が必要です。つまり、正しい知識を正しく使いこなせなければなりません。また、信頼できる指導者・支援者・治療者として認められるためには、豊かな人間性と協調性、柔軟な思考能力が求められます。

これだけは学んできてほしいというものは特にありませんが、自分に与えられた課題には責任をもって真摯に取り組み、そこから何かを学び取ろうとする姿勢を身につけておいてください。

九州保健福祉大学　臨床福祉学科　臨床福祉専攻

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

臨床福祉学科臨床福祉専攻(以下、「本専攻」という)では、本学の課程を修め、124単位の単位修得と必修等の条件を充たし、福祉現場のニーズに対応できる専門知識・技術を修得し、実践力を備えた福祉・教育人材として、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

（1） 社会貢献力
福祉を担う人材として、社会的に課題を抱えた地域・人々に対して貢献することができる。

（2） 行動力
福祉社会を担う者として、思考力、洞察力、判断力、豊かな人間性と倫理観を身につけ、社会や他者のために責任ある行動をとることができる。

（3） 福祉実践力
地域社会や支援対象者に対して、社会福祉の知識、技術を駆使し、課題の発見から解決を導き出していくことができる。

（4） コミュニケーション能力
社会的に課題を抱えた地域・人々、協働する多機関や多職種等とスムーズにコミュニケーションを図り、適切な支援に結び付けることができる。

（5） 教育能力
地域社会の福祉力および社会福祉現場の専門性を向上させるための教育をすることができる。

（6） 研究能力
社会や福祉の現場の課題を的確に把握し、情報を集め、分析し、考察することができる。

（7） 自己研鑽力
福祉の進歩と改善に対応するため、社会や福祉現場の動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。

II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専攻は、建学の理念および卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価

を行います。
福祉専門職に必要な基礎的知識・技能・態度に加えて、福祉現場に対応した実践的能力を身につけることを目的にカリキュラムを構成しています。
履修系統図およびモデルカリュラムを示し、個々の学生が目的とする資格取得のための道筋をわかりやすく明示します。

1 教育内容

（1） 4年間を通した学修の基礎となる共通教育においては、必修科目である「QOL概論と人間の尊厳」と「社会福祉の基礎」を中心に「英語共通」、「情報教育」、「総合教育」、「国際理解」、「人間と社会・文化」、「自然科学」、「健康教育」、「社会福祉の基礎」の8分野の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学びます。さらにそれらの学びを生かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学びます。

（2） 「英語共通」、「情報教育」、「総合教育」の3分野では、外国語科目、コンピュータ技術などを通して、情報収集を含むコミュニケーション能力育成をはかります。

（3） 「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」では、初年次教育をとおし、大学への適応をはかり、大学における基本的な学習スキルの獲得をはかります。

（4） 1・2年次において、地域における体験活動として「ボランティア活動」、「インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の履修を奨励し、積極的に地域へ貢献する学外活動に参加します。

（5） 入学時の専攻・コースで取得可能な資格・免許が取得できるよう、社会福祉士国家試験受験資格・精神保健福祉士国家試験受験資格・介護福祉士国家試験受験資格・高等学校教諭一種免許状（福祉）などの取得に必要な科目を、1年次から体系的・系統的に配置します。

（6） 国家試験合格に向けて希望者に対する学習機会を設け、各自の能力を分析し、主体的な学習を支援します。

（7） 社会福祉や教育等の現場で求められる知識・技能の修得のための専門教育科目を、1年次から4年次にかけて体系性・順序性を考えて配置します。

（8） 「臨床福祉学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」および社会福祉・精神保健福祉・介護福祉の演習、実習をとおして、地域社会や支援対象者に対して、社会福祉の知識、技術を駆使し、課題の発見から解決能力の育成をはかります。

（9） 「臨床福祉学科目」分野を設定し、「社会・集団・家族心理学」、「発達心理学」、「臨床心理学」、「福祉心理学」「教育心理学」などの心理系科目、「福祉住環境論」、「福祉施設とまちづくり」の福祉住環境科目、また、「運動療法」、「芸術療法」など、福祉周辺領域の科目を配置します。

2 教育方法

（10） 主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施します。

（11） 「ボランティア活動」「インターンシップ」などの学外活動では、福祉分野のみならず教育分野、環境分野、地域支援などの幅広い分野の中から自らが選択し、活動に参加します。参加時には活動目標を設定し、活動後には報告書を作成し担当の教員が添削します。報告書とともに報告会を実施し、気づきを深めます。

（12） 資格免許取得のための実習では、事前教育のなかで大学・実習施設・学生の3者で協議する場を設け個々の希望に合わせた実習教育内容を考えます。また、実習施設指導者や当事者を外部講師として招聘し、実習への動機づけを図ります。実習中は定期的に巡回指導を実施し個別の指導を徹底します。事後教育ではグループワークを中心とした実習の振り返りとともに、実習指導者や下級生の前での報告会を開催し、実習の成果を公表します。

（13） 社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士などの国家資格に必要な専門的知識や能力確認のために、本学教員による国家試験対策のための時間の開設と受験対策の実施、外部テストの受験など、1年次より段階を追ったプログラムを実施します。

3 教育評価

（14） 社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、高等学校教諭免許取得に必要な演習・実習の履修に当たっては、所定の科目の合格を求めます。

（15） 2年生終了時までの単位の取得状況を評価し、所定の条件を満たした学生には臨床福祉学演習の履修および卒業研究の着手を認めます。

（16） 4年間の学修成果は卒業研究（必修）によって行い、複数教員によって総括的評価を行います。

III. 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

（1） 高等学校の教育課程を幅広く修得している。

（2） 福祉のこころを大切にし、人の心の痛みを感じとることができる。

（3） 人を支援することに関心を持っている。

（4） 課外活動・ボランティア活動等に関心があり、他の人達と協働して活動や学習をする

ことに進んで参加できる。

(5) グループワークなどで、他の人と協力しながら、課題をやり遂げる意欲がある。

(6) 福祉、医療、教育領域の専門性の高い仕事に就く意欲がある。

＜求める人物像＞

(1) 福祉のこころを大切にしている人

(2) 人を支援することに関心を持つ人

(3) 心や行動に関心がある人

(4) 「福祉」の教科を教えることに関心のある人

＜学んできてほしいこと＞

本学科で学ぶ人たちの多くは「社会福祉士国家試験合格」を目指します。この合格に必要なものが文章の読解力や論理的思考です。まずは国語をしっかり勉強しましょう。そして、自分には少し難しいと思われる本などにもチャレンジして論理性を磨いてください。福祉に携わる人に欠かせないのがコミュニケーション能力です。教室ではなかなか教えてもらえないものですが、積極的にいろいろな人と話す態度を身につけて来てください。

九州保健福祉大学　臨床福祉学科　臨床心理専攻

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

臨床福祉学科臨床心理専攻(以下、「本専攻」という)では、本学の課程を修め、124単位の単位修得と必修等の条件を充たし、医療・福祉・教育・司法・産業領域の現場のニーズに対応できる専門知識・技術を修得し、実践力を備えた心理・福祉の人材として、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

(1)社会貢献力

心理・福祉を担う人材として、社会的に課題を抱えた地域・人々に対して貢献することができる。

(2)行動力

専門職として、思考力、洞察力、判断力、豊かな人間性と倫理観を身につけ、社会や他者のために責任ある行動をとることができる。

(3)心理・福祉実践力

地域社会や支援対象者に対して、心理・社会福祉の知識、技術を駆使し、課題の発見から解決を導き出していくことができる。

(4)コミュニケーション能力

社会的に課題を抱えた地域・人々、協働する多機関や多職種等とスムーズにコミュニケーションを図り、適切な支援に結び付けることができる。

(5)教育能力

地域社会の福祉力および医療・福祉・教育・司法・産業領域の現場の専門性を向上させるための教育をすることができる。

(6)研究能力

社会や医療・福祉・教育・司法・産業領域の現場の問題を的確に把握し、情報を集め、分析し、考察することができる。

(7)自己研鑽力

医療・福祉・教育・司法・産業領域の進歩と改善に対応するため、社会や各領域の現場の動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。

II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専攻は、建学の理念および卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた

目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。
心理専門職・福祉専門職としての業務に必要な基礎的知識・技能・態度に加えて、福祉現場をイメージした業務内容に対応した知識・技術・態度を身につけることを目的にカリキュラムを構成しています。
履修系統図およびモデルカリュラムを示し、個々の学生が目的とする資格取得のための道筋をわかりやすく明示します。

1 教育内容

(1) 4年間を通した学修の基礎となる共通教育においては、必修科目である「QOL概論と人間の尊厳」と「社会福祉の基礎」を中心に「英語共通」、「情報教育」、「総合教育」、「国際理解」、「人間と社会・文化」、「自然科学」、「健康教育」、「社会福祉の基礎」の8分野の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学びます。さらにそれらの学びを生かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学びます。

(2) 「英語共通」、「情報教育」、「総合教育」の3分野では、外国語科目、コンピュータ技術などを通して、情報収集を含むコミュニケーション能力育成をはかります。

(3) 「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」では、初年次教育をとおし、大学への適応をはかり、大学における基本的な学習スキルの獲得をはかります。

(4) 1・2年次において、地域における体験活動として「ボランティア活動」、「インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の履修を奨励し、積極的に地域へ貢献する学外活動に参加します。

(5) 入学時の専攻で取得可能な資格・免許が取得できるよう、公認心理師国家試験受験資格、社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格、認定心理士、レクリエーションインストラクターなどの取得に必要な科目を、1年次から体系的・系統的に配置します。

(6) 国家試験合格に向けて希望者に対する学習機会を設け、各自の能力を分析し、主体的な学習を支援します。

(7) 心理と社会福祉の現場で求められる知識・技能の修得のための専門教育科目を、1年次から4年次にかけて専攻やコースに体系性・順序性を考えて配置します。

(8) 「臨床福祉学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」および心理・社会福祉・精神保健福祉の演習、実習をとおして、地域社会や支援対象者に対して、心理学および社会福祉の知識、技術を駆使し、課題の発見から解決能力の育成をはかります。

(9) 「臨床心理学科目」と「アニマルセラピー系科目」分野を設定し、1年次から4年次にかけて体系性・順序性を考えて配置します。

2 教育方法

(1)主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施します。

(2)「ボランティア活動」「インターンシップ」などの学外活動では、福祉分野のみならず教育分野、環境分野、地域支援などの幅広い分野の中から自らが選択し、活動に参加します。参加時には活動目標を設定し、活動後には報告書の作成し担当の教員が添削します。報告書とともに報告会を実施し、気づきを深めます。

(3)資格免許取得のための実習では、分野の選択は学生の希望を優先し、巡回指導においては個別の指導を徹底します。

(4)公認心理師、社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格に必要な専門的知識や能力確認のために、学科教員による国家試験対策のための時間の開設、外部テストの受験、外部講師による受験対策の実施など、1年次より段階を追ったプログラムを実施します。

3 教育評価

(1)公認心理師、社会福祉士、精神保健福祉士に必要な演習・実習の履修に当たっては、所定の科目の合格を求めます。

(2)2年生終了時までの単位の取得状況を評価し、所定の条件を満たした学生には臨床福祉学演習の履修および卒業研究の着手を認めます。

(3)4年間の学修成果は卒業研究(必修)によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し総括的評価を行います。

III. 入学者受入の方針(アドミッション・ポリシー)

本学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。

(2) 福祉のこころを大切にし、人の心の痛みを感じとることができる。

(3) 人を支援することに関心を持っている。

(4) 課外活動・ボランティア活動等に関心があり、他の人達と協働して活動や学習をすることに進んで参加できる。

(5) グループワークなどで、他の人と協力しながら、課題をやり遂げる意欲がある。

(6) 心理、社会福祉、教育領域の専門性の高い仕事に就く意欲がある。

＜求める人物像＞

（1）人のこころを大切にしている人
（2）人を支援することに関心を持つこと
（3）人のこころや行動に関心がある人
（4）多角的に物事をとらえることができる人

＜学んできてほしいこと＞

本専攻で学ぶ人たちの多くは「公認心理師国家試験合格」、そしてそのための「大学院合格」を目指します。この合格に必要なものが文章の理解力や論理的思考です。まずは国語や英語をしっかり勉強しましょう。そして、自分には少し難しいと思われる本などにもチャレンジして論理性を磨いてください。支援に携わる人に欠かせないのがコミュニケーション能力です。教室ではなかなか教えてもらえないものですが、積極的にいろいろな人と話す態度を身につけて来てください。

九州保健福祉大学　保健科学部　作業療法学科

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

作業療法学科（以下「本学科」）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、有能な作業療法士として社会に貢献できうる実践力と、作業療法の発展に寄与できる研究能力を修得した人材として、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

（1） 人間活動の科学としての理解
人間活動を、身体・精神心理・認知・環境・社会等のあらゆる側面における現象として捉え、活動の技法や意味を科学的に理解している。

（2） 臨床コミュニケーション
対峙する対象者の真意を汲み取り、また、意志の自己表現が困難であってもその想いを推し量り、更に、理解が困難な場合は解りやすい手段を工夫して理解を得ようとする姿勢がある。

（3 共感
浅薄な同情や感情移入ではなく、障害を持ちながら生きていく対象者や家族の困難と悩みを客観的に理解し労わることができる。

（4） 倫理観と遵法精神
医療人としての高い倫理観と遵法精神を持ち、対象者や家族の人権を尊重し保護することができる。

（5） 医学的知識の理解と全人間的評価
種々の疾病についての医学的知識を理解・集積し、これを基に個々の対象者の障害（活動制限）となる医学的原因を特定し、その障害の質と程度および個人的・社会的背景を統合して全人間的な理解ができる。

（6） 作業療法の実践
個々の対象者の障害の本質を理解して問題点を焦点化し、生活を再建あるいは再構築するための作業療法プログラムを立案し、実践できる。

（7） 変化への対応
作業療法プログラム実施の過程における対象者の変化に気付き、それに応じてプログラムを再検討して修正できる。

（8） チーム医療
他職種の意義を理解し尊重し、良好な人間関係の維持に努め、対象者のためにリハビリテーションチームの一員として連携できる。

(9) 作業療法の進歩への貢献(研究)
知識や技術の集積に留まらず、常に疑問を持ち可能性を探り、研究のテーマを発見し、計画・実施ができる。

Ⅱ. 教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)

本学科は、建学の理念および卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。

1. 教育内容

(1) 基礎科目群では、医療人としての資質の基盤となる教養として「コミュニケーション論・医療英語」等を学びます。また、健康に関する諸問題を科学的に捉える視点の基盤として、「QOL と人間の尊厳・健康科学論」等を学びます。

(2) 専門教育科目のうちその基礎となる科目では、身体的・心理的な人間理解を目的に「解剖学・生理学・臨床心理学」等を学びます。また、障害の成り立ちとリハビリテーションを理解するために「一般臨床医学・リハビリテーション概論」等を学び、これらの科目の更なる理解を目的に「運動学・運動発達学」等を、疾病の理解を目的に「ハビリテーション医学・整形外科学・精神医学」等の臨床医学を学びます。

(3) 専門教育科目のうち作業療法に直結する科目では、人間活動の理解と作業療法技法の基礎として「作業活動分析学・日常生活活動学」等を学びます。更に、5 つの領域(身体・精神・老人・発達・地域)毎の障害についての理解と評価、および生活活動を主とした人間活動の再建や再構築を目的とした作業療法の実践について「身体障害作業療法学・精神障害作業療法学」等を学びます。ここでは、知識的・技術的側面だけでなく、形式だけに流れがちな「対象者を思いやる」ことや「尊厳を守る」といった重要な理念も具体的な行動として現し実践的に学びます。

(4) 各学年で学外臨床実習を行います。1 年次には「見学実習」を通して対象者の現実と作業療法部門の概要を学び、2 年次には「体験実習」を通して対象者との対峙を学び、3 年次には評価実習を通して障害評価の実践を学び、4 年次には総合実習を通して作業療法介入の実践を学びます。

(5) ゼミでは、将来の研究の契機とすることを目的に、卒業論文を作成し研究の全体像を学びます。

2. 教育方法

（1） 各科目はシラバスに記載された内容と教育方法で行います。

（2） 専門教育科目では、知識の定着と主体的な学び力および問題解決能力を向上させるために、アクティブ・ラーンニングを取り入れた教育方法を実施します。

（3） 対人関係能力を治療者患者関係能力に引き上げながら、作業療法士としての総合的臨床能力を養うために、学年毎に学外での臨床実習を取り入れます。

3. 教育評価

（1）各科目は、シラバスに記載された方法で評価し合否を判定します。

（2）各学年の専門教育科目（必修）で未取得科目が 3 科目以内である場合は，未修得科目の優先履修を求めます。

（3）臨床体験実習、臨床評価実習、総合臨床実習前には専門教育科目の修得を求めます。

Ⅲ．入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（DP）及び教育課程編成の方針（CP）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

（1） 高等学校の教育課程を幅広く修得している。

（2） 専門的知識学習の基盤となる国語の読解力と作文力を身につけている。

（3） 人と関わることに興味があり好きである。

（4） 相手の話に耳を傾け、その真意を推し量ろうとする意識を持っている。

（5） 目標のために努力することができる。

（6） 入学前教育として求められるリメディアル教育に最後まで取り組むことができる。

＜求める人物像＞

（1） 新しいことにも臆せず、挑戦する気持ちを持ち続ける人

（2） 人に優しく、相手の気持ちを大切にする人

（3） 親や兄弟、そして自分を大切にする人

＜学んできてほしいこと＞

これだけは学んできてほしいというものは特にありませんが、それまで学んだことのない

新しい学問（解剖学、生理学、医学、障害学、リハビリテーション学、作業療法学など）を学んでいきます。そうしたことへの心がまえをしっかりと持って入学してください。またたくさんの趣味を持ち、多くの人とふれあい、人は心と体が連動して生きているということに少しだけ意識を向けて生活をしてみましょう。入学してから作業療法学を学んでいくにつれ、あらためて多くの気づきが出てくると思います。

九州保健福祉大学　保健科学部　言語聴覚療法学科

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

言語聴覚療法学科（以下「本学科」）では、本学の課程を修め、126単位の単位修得と必修等の条件を充たし、豊かな人間性、コミュニケーション能力、柔軟な思考力の基礎と、コメディカルに携わる専門職（言語聴覚士）に必須の知識・技能を身に着けた人材として、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

（1） 専門職としての基本的態度
言語聴覚障害や、言語聴覚士の基本的役割を認識し、専門職としての素養と自覚、責任感及び倫理観を持つことができる。

（2） コミュニケーション能力
患者さんや家族、他職種の状況を把握、考慮したコミュニケーションができ、適切な人間関係を築くことができる。

（3） 言語聴覚障害者の評価
言語聴覚障害にかかわる知識・技能を用い、評価に必要なプロセス（情報収集・観察・正確な検査・検査の解釈・問題の抽出・全体像の把握）が遂行できる。

（4） 言語聴覚障害者への支援
評価から得た情報や言語聴覚障害にかかわる知識・技能を用い、適切な訓練目標を設定し、目標に基づいた訓練プログラムを実施し、その結果から考察ができる。

（5） 社会的貢献性
保健、医療、福祉、教育に参画・連携し、地域に根差した、生涯にわたる支援を行うことができる

（6） 生涯自律性
医療、特に言語聴覚療法をめぐる社会的動向を把握し、生涯にわたって自己研鑽を行うことができる

（7） 問題発見・解決力
常に問題意識を持ち、問題意識を解決するための視点を、研究を通じてもつことができる。

II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、建学の理念および卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。

1．教育内容

（1） 言語聴覚士養成校設置基準に基づき、豊かな人間性、コミュニケーション能力、柔軟な思考力の礎となる基礎科目と、コメディカルに携わる者にとって必須の知識を習得するための専門基礎科目、さらに、高い臨床的知識と技能を習得するための豊富な専門科目を学びます。

（2） 専門職としての基本的態度を学ぶ科目として、学部共通基礎科目「人間と生活」や、1年次からの専門教育科目「臨床実習」などを通じて、言語聴覚士として必要な素養と自覚、責任感及び倫理観を養います。

（3） コミュニケーション能力を向上するために、大学共通基礎科目「総合教育」、専門教育科目「言語聴覚障害基礎ゼミ」、「臨床実習」などを通じて、適切な人間関係を築くためのコミュニケーション能力や、リテラシー能力（読み書き能力）の獲得をはかります。

（4） 専門教育科目における各障害別の科目や「臨床実習」を通じて、言語聴覚障害の評価・支援にかかわる知識・技能の獲得をはかります。

（5） 専門教育科目の「学外評価・総合臨床実習」では、保健、医療、福祉、教育の現場を体験し、言語聴覚療法をめぐる社会的な動きを把握することで、地域に根差した支援について学び、かつ、生涯にわたる自己研鑽をするための姿勢を身に付けます。

（6） 言語聴覚障害専門ゼミでは、常に問題意識を持ち、問題を解決するための視点を、卒業研究を通じて学びます。

2．教育方法

（7） 主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を、専門教育科目で実施します。

（8） 専門教育科目においては、形成的評価のための期中のフィードバックを行います。

（9） 専門教育科目におけるｅラーニングによる学習として、1 年次の「言語聴覚障害基礎ゼミ」では、リテラシー能力を身に付け、4 年次の専門教育科目「言語聴覚障害特講」では、国家試験対策における自己学習の推進をはかります。

（10） 専門教育科目「臨床実習」においては、1年次より 4 年次まで、見学から評価・訓練の実践までの学内・外における段階的なプログラムを実施します。

（11） チューターとの面談を各年次で繰り返し行い、自己の学習や実習の「ふりかえり」を行います。

３．教育評価

（12） 各年次終了時には、それまでの基礎科目・専門教育科目の水準を習得し、言語聴覚士に必要な知識・技術が修得できているかを確認する「単位認定試験」を行い、不合格の場合は、再試験を課し、その合格を求めます。

（13） ４年間の学習成果は、学外総合臨床実習、卒業研究（言語聴覚障害専門ゼミⅢ）と重点模擬試験（言語聴覚障害特講Ⅱ）によって行い、複数の教員によって総合的な評価を行います。

Ⅲ. 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。
(2) 医療、保健、福祉、教育領域の専門性の高い仕事に就く意欲がある。
(3) 医療、保健、福祉、教育領域の専門的な知識・技能を学習するための基盤となる日本語運用力や表現力を身につけている。
(4) 乳幼児から高齢者までの医療・保健・福祉・教育にかかわる分野に興味、関心をもっている。
(5) 他人と協働して活動や学習をすることに、進んで参加できる。
(6) 入学前教育として求められるリメディアル教育に最後まで取り組むことができる。

＜求める人物像＞

（1） 障害を持った方々を支援する側に立つ責任の重大さを理解し、その責任を果たすために、必要な実力を身につけるための努力を続ける人
（2） 相手や周囲の人々の立場や状況を、「もし自分だったら」と自分の中で想像ができ、理解しようと努める人
（3） 何事にも、探求心をもって興味を持ち続けることができる人

＜学んできてほしいこと＞

言語聴覚士が必要とするコミュニケーションや思考の道具としての言語能力、すなわち、

聴いて理解する力、読んで理解する力、話して伝える力、書いて伝える力を、高校の学習だけでなく、友人との会話や文書を書くなど、日常生活を通じて身に付けてください。

　また、言語聴覚士は、乳幼児から高齢者までの幅広い世代の方々を治療の対象とします。保健・医療・福祉・教育に関わることはもちろん、各世代が興味を持つような話題（テレビ番組、歌など）やニュース、流行など、幅広い分野に興味、関心を持ってください。

九州保健福祉大学　保健科学部　視機能療法学科

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

視機能療法学科（以下「本学科」）では、本学の課程を修め、126単位の単位修得と必修等の条件を充たし、視能訓練士に求められる専門知識、技術および態度を修得し、眼科医療で活躍できうる実践力を身につけた人材として、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

（1）　視能訓練士としての倫理観
医療の担い手として、豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識をもち、人々の生命と生活の質を守る使命感、責任感および倫理観をもって視能訓練士業務ができる。

（2）　コミュニケーション能力
情報を適切に収集、理解、提供することができ、相手の立場を尊重した柔軟な人間関係を構築することができる。

（3）　自律的で意欲的な態度
医療従事者としての目標を明確に持ち、協調性、主体性、自律性を身につけている。

（4）　眼科医療における実践的能力
理論に基づいた実践的な専門知識・技術を有し、眼疾患、斜視、弱視など様々な視能障害をもつ患者の病態評価および訓練計画やリハビリテーション指導の立案ができる。

（5）　研究能力
眼科医療における諸課題について、問題を発見し、調査、実験を通して、解決を導き出し、発信することができる。

（6）　教育能力
指導的立場として次世代の人材育成に貢献する必要性を理解し、指導力とリーダーシップを発揮できる。

II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、建学の理念および卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。

視能訓練士に求められる専門知識、技術、態度および眼科医療で活躍できうる実践力を身につけることを目的にカリキュラムを構成しています。

1. 教育内容

(1) 「科学的思考の基盤」分野および「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」の履修を通して、視能訓練士としての専門性を身につけるための基盤となる基礎的な科学力を身につけます。

(2) 「英語共通」、「情報教育」分野の履修を通して、チーム医療に貢献するためのコミュニケーション能力や、医療の進歩に対応するための語学力と情報収集能力を身につけます。

(3) 「総合教育」、「人間と生活」、「健康教育」分野の履修を通して、医療の担い手として、人々の生命と生活の質を守る使命感、責任感および倫理観を身につけます。

(4) 視能訓練士に求められる専門知識、技術、態度および眼科医療で活躍できうる実践力を身につけるために、視能学を構成する 5 つの分野(「基礎医学大要」、「基礎視能矯正学」、「視能障害学」、「視能検査学」、「視能訓練学」)について、専門教育科目を1年次から4年次にかけて体系性・順序性を考えて配置しています。

① 1・2 年次は、「基礎医学大要」、「基礎視能矯正学」、「視能障害学」分野で、眼の構造と機能、視覚のメカニズム、眼疾患について学びます。また「視能検査学」分野では、視能検査の基本的知識と技術に加えて、視能訓練士に求められる基本的態度を身につけます。

② 3 年次は、「視能障害学」、「視能検査学」、「視能訓練学」分野で、2 年次までに習得した内容を土台にし、より専門的かつ実践的な内容の学習を行います。症例分析、シミュレーション実習を通して、眼疾患、斜視・弱視など様々な視能障害をもつ患者の病態評価、訓練計画やリハビリテーション指導の立案に必要な知識、技術、視能訓練士に求められる態度を身につけます。

③ 4 年次は、視能学を構成する 5 つの分野を統合し、演習科目を通して、3 年次までに習得した専門知識、技術の補完・統合を行います。

(5) 「臨地実習Ⅰ・Ⅱ」を通して、眼疾患、斜視・弱視など様々な視能障害をもつ患者の病態評価、訓練計画やリハビリテーション指導の立案に関わる実践的知識、技術を身につけます。また、視能訓練士として、人々の生命と生活の質を守る使命感、責任感および倫理観を身につけます。

(6) 「基礎ゼミⅢ」、「専門ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を通して、眼科医療の諸課題について、問題を発見し、調査、実験から得られた結果に基づき分析・考察を加えていく能力、発信する能力を身につけます。さらに、この一連の過程を通して、自主的にかつ共同して課題解決に取り組む態度、科学的、論理的思考力を身につけます。

2　教育方法

(7) 各科目はシラバス（一般目標、到達目標、評価方法、オフィスアワー、授業内容などを示したもの）記載の教育方法に沿って行います。

(8) 主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を基礎科目や専門教育科目で実施します。

(9) チューター（学生担当教員）制度を取り入れ、各科目の理解度について面談を通し、フィードバックを行います。

(10) 臨地実習の事前指導では、実習への動機づけをはかるとともに、学生の協調性、主体性、自律性を引き出しながら、臨地実習で求められる知識、技術および態度の強化を行います。実習中は巡回指導を実施し個別指導を徹底します。また、臨地実習Ⅰの終了後に行う中間指導では、評価表をもとに個別面談で実習フィードバックを行い、臨地実習Ⅱの対策を行います。事後指導では、評価表をもとに個別面談で実習フィードバックを行い、課題解決に向けた卒業までの取り組みを考えます。またグループワークを中心とした実習の振り返りを行うとともに、実習報告会を開催し、実習の成果を公表します。

(11) 視能訓練士国家資格取得に必要な専門知識の修得度を確認するために、本学教員による国家試験対策のための時間の開設と受験対策の実施など、3年次より段階を追ったプログラムを実施します。

3　教育評価

(12) 学期末には、各科目の修得度を確認するために、シラバスに記載した評価方法に沿って合否を判定します。不合格者には再試験を課します。

(13) 4 年間の学修成果は卒業研究（必修）によって行い、共通の評価スキルを用いて総括的評価を行います。

九州保健福祉大学　保健科学部 臨床工学科

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

臨床工学科（以下「本学科」）では、本学の課程を修め、126単位の単位修得と必修等の条件を満たし、医療職の一員である臨床工学技士として求められる下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

(1) 自律性
医療者として必要な倫理観や責任感をもち、臨床工学技士の業務及び法令を遵守するとともに、医療の発展に貢献ができる。

(2) コミュニケーション能力
医療従事者として、他職種、患者様ならびにご家族と、医療を遂行する上で必要となるコミュニケーション力を発揮することができる。

(3) 問題発見・解決能力
臨床工学の立場から、治療方針に対する提言ができる。

(4) 多様性の理解
医療職の一員として他職種の考えを理解し、連携・協働ができる。

(5) 専門的知識・技能の活用力
医療と工学の専門的知識をもとに、医療における安全管理体制を構築し実践できる。

II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、建学の理念および卒業判定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。

1. 教育内容

(1) 基礎学力構築
人間として必要となる倫理観、生命観を学ぶ。また、臨床工学技士としての心構えや責任感をもち、臨床工学技士の業務及び法令を遵守するとともに、医療発展に貢献するための自己研鑽能力の獲得をはかる。

(2) 医療基礎分野教育
医学および医療の基礎となる人体の構造と機能ならびに病態生理を学ぶ。

(3) 医工学基礎分野教育

医療機器の原理・構造の基盤となる医工学の基礎を学習し、医用治療機器ならびに生命維持管理装置の理解や操作につなげる。また、他の医療職に対して医工学全般の説明ができる能力の獲得をはかる。

(4) 医用治療機器分野教育

医療現場において実際に使用される治療機器の原理・構造・操作について学ぶ。

(5) 生命維持管理装置分野教育

呼吸・循環・代謝に関わる生命維持を管理する装置の原理・構造・操作について学ぶ。また、修得した専門知識を4年次の臨床病院実習につなげる。

(6) 医療機器安全管理分野教育

臨床現場で使用される機器全般の安全管理技術を学習し、それを遂行する方法を学ぶ。

(7) チーム医療教育・総合学習

チーム医療の一員として、積極的にチームに参画できる総合的な能力を獲得する。すなわち、患者さんや病院のスタッフに対し、積極的にコミュニケーションをはかる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、最終的に卒業研究や学会で発表することができる。その際、卒業研究を通して自ら考え、実験、考察し、卒業後は臨床工学的観点にもとづいた治療展開が提言できることを目指す。一部の学生については海外の大学との交換留学制度を利用し、4年次に半年間海外で卒業研究を行うことができる。

2. 教育方法

(8) 新入生のモチベーション向上のため、早期体験臨床学習を実施する。

(9) 主体的な学びの力を高めるため、アクティブラーニングを取り入れた教育方法をすべての科目で実施する。

(10) 報告・連絡・相談が適切に行えるよう、Word、Excel、PowerPointが活用できるプログラムを実施する。

(11) 多くの科目において臨床に則した実験実習を取り入れ、自学自習ができる環境を提供する。

(12) 臨床工学技士国家資格に必要な専門的知識の能力確認のため、学内、学術団体検定試験および全国統一模擬試験を活用し、自己学習の推進や結果の継続的なモニタリングを行う。

3. 教育評価

(13) 各年度末には学習の習熟度を個別に把握し、習熟度が不十分と判断した場合には十分な理解が得られるよう、さらなる学習を求める。

(14) 最終的な専門教育科目の到達確認は全国統一模擬試験により行い、合格を求める。

III. 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

本学科は、卒業認定・単位授与の方針（DP）および教育課程編成の方針（CP）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。
(2) 医療専門職である臨床工学技士の仕事に就く意欲がある。
(3) 医療とともに科学全般に興味を持っている。
(4) どんなことにも果敢にチャレンジし、努力を継続できる。
(5) 円滑なコミュニケーションができる。
(6) 国際的な活動に興味がある。
(7) 入学前教育として求められるリメディアル教育に最後まで取り組むことができる。

＜求める人物像＞

(1) 慢性疾患患者さん、とくに高齢者に対するコミュニケーション能力を向上させたい人、
(2) 医療とともに科学全般に興味を持っている人
(3) どんなことにも果敢にチャレンジし、努力を継続できる人

＜学んできてほしいこと＞

数学と物理は必須ですが、高校で物理を履修していない場合は、入学前教育で学習し、基本的なことは習得してきてください。

九州保健福祉大学　薬学部　薬学科

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

薬学科（以下、「本学科）では、本学の課程を修め、186単位の単位修得と必修等の条件を満たし、地域医療や社会の期待に応え、個々の患者や生活者のニーズに対応できる薬剤師となる資質をもった人材として、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

(1) 薬剤師としての倫理観
医療人として高い倫理観と豊かな人間性を持ち、患者、家族、生活者の人権や尊厳に配慮して、人の命と健康な生活を守るために行動できる。

(2) 患者を中心としたチーム医療への参画
常に患者の立場に立ち、コミュニケーション能力をもって患者・患者家族・他の医療職種と相互の立場を尊重した人間関係を構築してチーム医療へ参画できる。

(3) 最適な薬物療法の実践
医薬品・化学物質等の生体及び環境に対する影響を理解した上で、適切に管理・供給し、個々の患者に適した安全で効果的な薬物療法を実践できる。

(4) 地域の保健医療への貢献
地域住民の視点に立ち、地域の保健医療のニーズを理解した上で、他職種と連携して人々の健康増進と公衆衛生の向上に貢献できる。

(5) 医療の進歩への貢献
自己研鑽に努め、問題点や社会的動向を把握し、解決に向けて取り組む姿勢を持つとともに、次世代を担う人材の養成を行い、薬学・医療の進歩と改善に貢献できる。

II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、建学の理念および卒業認定・学位授与の方針（ディプローマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。

１　教育内容

(1) 基礎学力構築
最適な薬物療法を実践するための基礎的な科学力を修得します。

(2) 語学・情報教育
患者を中心としたチーム医療へ参画するためのコミュニケーション能力や、医療の進歩

へ貢献するための語学力と情報収集能力を修得します。

(3) 使命感・倫理観構築

薬剤師としての倫理観を獲得するための人権・尊厳・法令を配慮・遵守して行動する能力や、患者を中心としたチーム医療へ参画するためのコミュニケーション能力を修得します。

(4) 化学・物理系専門教育

最適な薬物療法を実践するための医薬品や化学物質等に関する薬学専門知識を修得します。

(5) 生物系専門教育

最適な薬物療法を実践するための生体メカニズムに関する医学・薬学専門知識を修得します。

(6) 医療系専門教育

最適な薬物療法を実践するための医薬品の作用機序等に関する知識や、地域の保健医療へ貢献するための公衆衛生に関する知識を修得します。

(7) 薬剤系専門教育

最適な薬物療法を実践するための医薬品の特性や使用法等に関する知識・技能・態度を修得します。

(8) 薬事関係法規教育

患者の人権を守り、薬剤師に必要な倫理観を持って、最適な薬物療法を実践するための各種法令に関する知識を修得します。

(9) 統合薬学教育

薬剤師としての倫理観、患者を中心としたチーム医療へ参画する能力、最適な薬物療法を実践する能力、地域の保健医療へ貢献する能力、医療の進歩へ貢献する能力を統括的に修得します。

2 教育方法

(10) 各科目はシラバス(一般目標、到達目標、評価方法、オフィスアワー、授業内容などを示したもの)記載の教育方法に沿って行います。

(11) チューター(学生担当教員)制度を取り入れ、各科目の理解度について面談を通し、フィードバックを行います。

(12) 主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を学科基礎科目や専門教育科目で実施します。

(13) 薬剤師としての実践能力を養うためにフィジカルアセスメントを基盤とするアドバンスト教育を実施します。

(14) 薬剤師国家資格に必要な専門的知識・能力の確認のために、段階を追ったプログラ

ムを実施します。

３　教育評価

（15）　学期末には、各科目の修得度を確認するために、シラバスに記載の評価方法に沿って合否を判定します。不合格者には再試験を課します。

（16）　４年次終了時には、「薬学共用試験（CBT、OSCE）」の合格を求めます。

III. 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

本学科では、卒業認定・学位授与の方針（DP）及び教育課程の編成・実施の方針（CP）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

⑴　高等学校の教育課程を幅広く修得している。

⑵　専門的な知識・技能を学習するための基盤となる文章読解力および表現力(文章を読んでまとめる力)を身につけている。

⑶　「信頼される有能な薬剤師」になりたいという強い意志・向学心を持つ。

⑷　豊かな人間性と医療人として高い潜在能力を持つ。

＜求める人物像＞

・強い意志を持ち、向学心に燃え、他の人と良好な人間関係を構築できる人

＜学んできてほしいこと＞

「数学（特に、指数対数計算）」「英語」「国語（特に、文書の意味を読解する力）」が必要です。さらに「化学」「生物」「物理」も必須です。履修していない人や不得意な人のためのリメディアル科目もありますが、高校生のうちに勉強しておくと後が楽になります。読解力を付けるために、新聞、小説などの読書をしておいてください。

九州保健福祉大学　薬学部　動物生命薬科学科

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

動物生命薬科学科(以下、「本学科」)では、本学の課程を修め、124単位の単位修得と必修等の条件を充たし、動物及び薬の専門職としての基礎的学力と、臨床、研究等の職業的現場に対応した知識・技能・態度を修得することができた人材として、下記の力を身に付けた人に対して学位を授与します。

(1) 問題発見・解決能力
動物及び薬の専門職に関する現場において、問題解決学習法（Problem-based Learning：以下PBL）の手法を用いて、問題を発見したうえで解決する能力を身に付けることができる。

(2) 論理的構築能力
動物及び薬の専門職に関する現場において、目的・目標、方法及び計画について、策定し説明する能力を修得している。

(3) 協調性を伴うコミュニケーション能力
動物及び薬の専門職に関する現場において、他者の立場を尊重しながらコミュニケーションを働きかけ、チームとして協働する能力を修得している。

(4) 専門的知識・技能に関する実践能力
動物及び薬の専門職に関する現場において、策定した計画をチームとして実際に行動する能力を修得している。

(5) グローバル化に対応する能力
動物及び薬の専門職に関する現場において、国の内外からの情報を入手し考察して、国際社会に対応する能力を修得している。

II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、建学の理念および卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

1 教育内容

(1) カリキュラムは、いわゆる学士力を高める基礎科目と本学科の専門を身に付ける専門教育科目から構成される。基礎科目は、さらに、本学の学生及び卒業者として修得すべき大学共通基礎科目と本学科の専門教育科目を理解するための学科基礎科目からなる。専門教育科目は、上級学年や留学に必要な専門基礎科目と本学科固有の専門科目からなる。

(2) 動物を活用したPBL及びPBLの手法を用いた授業により、問題発見・解決能力を修得します。

(3) 目的・目標、方法及び計画について、策定し説明する能力を身に付ける演習及び実習授業により、論理的構築能力を修得します。

(4) コミュニケーション・スキルを養いチームとして課題を処理する授業により、協調性を伴うコミュニケーション能力を修得します。

(5) 実際に計画を策定し、チームとして結果を出す演習及び実習授業により、専門的知識・技能に関する実践能力を修得します。
なお、動物関連資格及び食品衛生資格については、初年次から4年次まで、学芸員資格については3年次及び4年次に当該科目が配置されています。

(6) 初年次及び2年次に多くの外国語科目等を取得することにより、留学を含めたキャリアを形成し、国の内外からの情報を入手し考察して、国際社会に対応する能力を修得します。

2 教育方法

(7) 多くの授業において、SGD(small group discussion)、小テスト、ワークショップ等を導入するアクティブラーニングの授業を実施します。

(8) 問題解決スキル、グループ・スキル、学習スキル及び評価スキルの4スキルにわたった体系的なPBLの手法により、演習及び実習授業を実施します。

(9) エンカレッジ・キャリア教育により、自らを励ましながら学習し社会と自己の関係を考察するキャリア・マインドにより、就職、資格取得、留学等を視野に入れた授業を実施します。

(10) eラーニング、英語村(English Village)等による自己学習を通して、学習や生活に関する自己管理を習慣化します。

(11) 多様なフィールドワークに参加する実習授業やインターンシップにより、社会性を育みながら、動物及び薬の専門職を理解します。

(12) 筆記及び実技についての模擬試験等により、資格取得に必要な専門知識・技能・態度に関する能力を確認する授業を実施します。

3 教育評価

(13) 期末には、各科目の修得度を確認するために、シラバスに記載の評価方法に沿って合否を判定します。

(14) 資格養成科目の中間時（実験動物資格は2年次末、学芸員資格は3年次前期末、動物看護資格は4年次初頭）において、「到達確認試験」の合格を求めます。

(15) 4年間の学修成果は、必修科目である卒業研究及びGPAによって行います。卒業研究の評価は、卒業研究レポートによって行います。また、4年次修了時におけるGPAの最高点を取得した者は、「薬学部奨励賞」を授与します。

III. 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（DP）及び教育課程編成の方針（CP）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

（1）高等学校までの教育課程を幅広く修得している。

(2)動物と薬に関する専門性の高い職業に就く意欲がある。

(3)グループによる活動において、積極的に行動し、他者と協働することができる。

(4)標準的な日本語の文章を理解するとともに、自分の考えや主張を文章で表現する能力を身に付けている。

(5)基本的な英語の4技能（「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」）を身に付けている。

(6)生物学に関する基本的な知識を身に付けているとともに、生物学的な現象を説明することができる。

＜求める人物像＞

・薬に興味をもつとともに、動物愛護や動物の福祉の理念に基づいた強い意志により、動物と接することができる人

＜学んできてほしいこと＞

本学科ではグループ学習が多いので、他人とのコミュニケーション能力および協調性を学んできてください。また、日々、自らが進んで勉学するという習慣を身につけてきてください。

九州保健福祉大学　生命医科学部　生命医科学科

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

生命医科学科（以下「本学科」）では、本学の過程を修め、124単位以上の単位修得と必修等の条件を充たし、インターナショナルでグローバルな視野に立った教養と生命医科学の専門性の高い知識および技術を修得し、医療専門職たる細胞検査士、臨床検査技師または生命医科学者として活躍できうる実践力を有し、下記の力を身に付けた人に対して学位を授与します。

(1) 自律的行動力
細胞検査士、臨床検査技師または生命医科学者として、自らの目標を明確に掲げ、医療・科学をはじめとした諸問題を、主体的かつ自律的に取り組める。

(2) 人間力
豊かな人間性を持つと共に、医療行政や地域社会の動向をふまえ、医療・科学に必要とされる倫理観を身につけ、社会や他者のために責任ある行動を取れる。

(3) 汎用的能力
細胞検査士、臨床検査技師または生命医科学者として、ジェネリックスキル（汎用的能力）を駆使して、対象（例えば医療現場では患者やその家族など）がもつ背景や属性、価値観ほかの多様性を理解し、相手の立場を尊重できる。

(4) 問題解決能力
細胞検査士、臨床検査技師または生命医科学者として、医療・科学現場における諸課題について、様々な問題を発見し、理解できる。その上で問題解決に必要な論理的・実践的知識を活用し、また、独創的創造力を背景として、適切な研究・実践方法を選択、計画し、行動することができる。アウトカムズアセスメントを検証できるスキルを汎用的に活用できる。

(5) コミュニケーション能力
細胞検査士、臨床検査技師または生命医科学者として、円滑なコミュニケーション能力を用いて、相手の立場を尊重した人間関係を構築できる。

(6) プレゼンテーション能力
細胞検査士、臨床検査技師または生命医科学者として、諸課題の本質を的確にとらえ、情報を収集・分析・考察した上で、それらを効果的にプレゼンテーションできる。

(7) 自己研鑽力
細胞検査士資格認定試験・臨床検査技師国家試験を受験するに値する十分な学力を有し、生命科学者として必要とされる統合的な学習経験と高度な専門知識、学修成果

を状況に応じ総合的に活用できる。加えて、医学・医療の現状を認識しつつ、生涯にわたり、自己研鑽を継続できる。

(8) チーム医療推進実践力

細胞検査士、臨床検査技師として他職種(例えば医療従事者全般)の特性を理解し、連携・協働できる。

II. 教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)

本学科は、建学の理念および卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。

1. 教育内容

(1) 4年間を通した学修の基礎となる大学共通基礎教育においては、必修科目「QOL概論」、「人間の尊厳」を中心に総合教育、情報教育、外国語(英語)の3領域の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学び、汎用的技能を培います。さらに、本学科の学修の基礎となる学科基礎教育においては、必修科目「生命倫理学」、「基礎免疫学」、「分子生物学」、「情報科学概論」を中心に生命倫理、基礎医学、情報科学の3領域の履修を通して、生命医科学の基盤となる科目を学び、創造的思考力を培います。

(2) 英語教育ではアクティブラーニングを実践しながら、学生一人ひとりの習熟度を確認し、学生自身の学修進度にあった英語を活用したコミュニケーション能力の育成をはかります。

(3) 医療・生命科学の分野で求められる知識・技能の修得のための専門教育科目においては、必修科目「生命医科学概論Ⅰ・Ⅱ」、「医学概論」、「公衆衛生学」を中心に、1年次から3年次は専門知識または思考力、技術の基礎を固めることを通して、自身の将来の進路について目標を探る期間と位置づけ、4年次は専門知識、思考力、技術を深化させ応用力を修得しながら将来の進路目標を実現することを目指します。

(4) 癌の早期発見または早期診断を目的とした細胞診断学の分野で求められる知識・技能の修得のための専門教育科目においては、「臨床細胞学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を1年次から3年次にかけて修学します。加えて、「細胞診断学特論Ⅰ・Ⅱ」、「臨床細胞学演習Ⅰ・Ⅱ」を通して、身体各部に発現する癌細胞だけでなく異型細胞や前癌病変を顕微鏡で鑑別できる知識と技能を、アクティブラーニングを実践しながら習得します。

(5) 医学または臨床検査学の分野で求められる知識・技能の修得のための専門教育科目においては、必修科目「病理学Ⅰ・Ⅱ」、「臨床生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「臨床免疫学Ⅰ・

Ⅱ・Ⅲ」、「臨床血液学Ⅰ・Ⅱ」、「臨床化学Ⅰ・Ⅱ」、「微生物学Ⅰ・Ⅱ」ほかを1年次から3年次にかけて専門性と順序性、合理性、効率性、生産性を考慮した上で修学します。加えて、即自的レリバンスを形成しながら、前述の各科目に関係する実習を通して、臨床検査の目的・方法・評価などが実践できる技能を習得します。「臨床実習」では実際の医療現場で臨床検査を体験します。4年次で開講される「臨床検査学演習Ⅰ・Ⅱ」では臨床検査技師国家試験取得を前提とした総合的な学習を実践します。

(6) 現代の細胞検査士、臨床検査技師または生命医科学者には日常業務への従事以外に、研究活動を遂行するスキルが求められます。4年次で開講される「生命医科学卒業研究Ⅰ・Ⅱ」では担当教員の指導の下、学生が自ら研究を計画し、それを遂行できるようになることを目的として、アクティブラーニングを実践しながら、科学技術リテラシーを培います。加えて、アウトカムズアセスメントをイメージさせながら、関係論文の検索から、研究実験、研究成果の発表に至る各手順を習得します。

(7) 1,2年次、様々なEarly Exposure(早期体験臨床実習)を導入することで、学生一人ひとりに自分自身の将来像を提示し、ジェネリックスキルの育成をはかります。

2. 教育方法

(8) 専門教育科目においては、教育の質の確保および向上のためのPDCA cycleの実践に取組みながら、専門性の高い知識や技術の伝達を徹底します。加えて、自ら学びたいという学生の意欲に応えるような学習環境を提供します。

(9) 実習および演習の科目においては、学生の主体的な学びの力を高めるために、可能な範囲でアクティブラーニングを取り入れた教育を実施します。

(10) 学生一人ひとりの学習習得度を評価するための評価試験、小テスト、レポートほかを積極的に実施し、それらを適正に評価した上で、期中にそれらを学生一人ひとりにフィードバックします。

(11) 学科教員は学生一人ひとりの修学状況を的確に把握し、細胞検査士または臨床検査技師の資格取得に対するアドバイスを適正かつ積極的に行います。

(12) 臨床検査技師国家試験に必要な専門的知識の能力確認のために、学内試験および学外模試の受験ほかを通して学生一人ひとりの修学状況のモニタリングを行い、適宜、資格取得に向けたアドバイスを行います。そのためのプログラムを計画的に実施します。

(13) 学生の授業評価の結果を真摯に受け止め、教育の質の確保および向上のためのPDCA cycleの実践に積極的に取組みます。

3. 教育評価

(14) 生命医科学科が開講する諸科目において、科目担当教員は学生一人ひとりの修得度を厳格に評価します。

(15) 3年次の臨地実習前に履修済み専門教育科目の修得度を総合的に評価します。

(16) 4年間の学修成果は「生命医科学卒業研究I・II」によって総括的に評価します。

III. 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

本学科は卒業認定・学位授与の方針(DP)および教育課程編成の方針(CP)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。

(2) 生命医科学分野として、細胞検査士・臨床検査技師などの専門性の高い仕事に就きたい、または、それらに関する知識や技術を学びたいという強固な学習意欲がある。

(3) 様々な課題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明する能力を身に付けている。

(4) 基本的なコミュニケーションを取ることができる能力を身に付けている。

(5) 大学教育を享受できる語彙力、読解力、言語力、表記力、文法活用力などの日本語リテラシーを身に付けている。

＜求める人物像＞

(1) 細胞検査士・臨床検査技師の資格を取得し、病院や検査センターなど医療機関で活躍したい人

(2) 細胞検査士・臨床検査技師の資格を取得し、大学院進学など高度医療を支える研究者として活躍したい人

＜学んできてほしいこと＞

・高等学校卒業程度の学力を有していること

・生物・化学の基礎知識を有していること

・英語の基礎知識を有していること

九州保健福祉大学　通信教育部社会福祉学部臨床福祉学科

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

通信教育部社会福祉学部臨床福祉学科(以下、「本学科」という)では、本学の課程を修め、124単位（内スクーリング単位30単位）の単位修得の条件を充たし、福祉現場のニーズに対応できる専門知識・技術を修得し、専門職として活躍できうる実践力を有する福祉・教育人材として、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

（1） 社会貢献力
福祉を担う人材として、社会的に課題を抱えた地域・人々に対して貢献することができる。

（2） 行動力
福祉社会を担う者として、思考力、洞察力、判断力、豊かな人間性と倫理観を身につけ、社会や他者のために責任ある行動をとることができる。

（3） 福祉実践力
地域社会や支援対象者に対して、社会福祉の知識、技術を駆使し、課題の発見から解決を導き出していくことができる。

（4） コミュニケーション能力
社会的に課題を抱えた地域・人々、協働する多機関や多職種等とスムーズにコミュニケーションを図り、適切な支援に結び付けることができる。

（5） 教育能力
地域社会の福祉力および社会福祉現場の専門性を向上させるための教育をすることができる。

（6） 研究能力
社会や福祉の現場の課題を的確に把握し、情報を集め、分析し、考察することができる。

（7） 自己研鑽力
福祉の進歩と改善に対応するため、社会や福祉現場の動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。

II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、建学の理念および卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。
福祉専門職に必要な基礎的知識・技能・態度に加えて、福祉現場に対応した実践的能力を身につけることを目的にカリキュラムを構成しています。
履修系統図およびモデルカリュラムを示し、個々の学生が目的とする資格取得のための道筋をわかりやすく明示します。

1 教育内容

(1) 社会福祉士国家試験受験資格、高等学校教諭一種免許状（福祉）、認定心理士などの取得に必要な科目を、1年次から体系的・系統的に配置します。
(2) 国家試験合格に向けて希望者に対する学習機会を設け、各自の能力を分析し、主体的な学習を支援します。
(3) 社会福祉や教育等の現場で求められる知識・技能の修得のための専門教育科目を、1年次から4年次にかけて体系性・順序性を考えて配置します。
(4) 「総合福祉研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を通して、地域社会などの諸問題に対して、課題の発見から解決能力の育成をはかります。
(5) 「心理学科目」分野を設定し、1年次から4年次にかけて体系性・順序性を考えて配置します。

2 教育方法

(6) 添削科目については、1単位につき1課題の添削課題を与えます。
(7) スクーリング科目では、土日を中心に講義を実施し、テキストでは補えない部分の学習を集中型で実施します。
(8) 社会福祉士国家試験受験資格取得のための実習では、事前教育のなかで大学側実習指導教員と学生との個々の面談を実施し、実習に臨むにあたっての意思確認をおこなったうえで、あらかじめ実習の許可を受けた者が指定の施設等において24日間以上かつ180時間以上の実習をおこないます。実習中は定期的に巡回指導と帰校指導を実施し個別の指導を徹底します。

3 教育評価

(9) 社会福祉士国家試験受験資格に必要な実習の履修に当たっては、所定の科目の添削課題の合格を求めます。

(10) 科目単位認定試験の受験は、所定の添削課題の合格を求めます。
(11) 各科目の評価は、科目単位認定試験の結果によって評価を行います。

III. 入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

（1）高等学校の教育課程を幅広く修得している。
（2）福祉のこころを大切にし、人の心の痛みを感じとることができる。
（3）人を支援することに関心を持っている。
（4）ボランティア活動に関心があり、他の人達と協働して活動や学習をすることに進んで参加できる。
（5）グループワークなどで、他の人と協力しながら、課題をやり遂げる意欲がある。
（6）福祉、医療、教育領域の専門性の高い仕事に就く意欲がある。

社会福祉学部　スポーツ健康福祉学科

【ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】
①相手を慮り責任を持って行動できる力
福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者およびはり師きゆう師として、対象者がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域や多職種との連携・協働を行うことができる。
②社会や他者に能動的に貢献しようとする姿勢
福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者およびはり師きゆう師として、地域社会の動向をふまえ、福祉、スポーツ・健康運動および医療の現場において必要とされる実践力を身につけ、社会や他者のために自ら積極的に責任ある行動をとることができる。
③専門的知識・技能の活用力
福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者およびはり師きゆう師として、各領域で必要とされる福祉・健康・運動・医療分野の体系的・相互関連的知識の学修成果を、状況に応じて総合的に活用することができる。
④問題発見・解決力
福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者およびはり師きゆう師として、福祉、スポーツ・健康運動および医療の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用することで、問題解決のための実践的方法を選択・実行することができる。

分野別		科目	開講年	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】◎特に重要、○重要、△望ましい ①	②	③	④	備考
大学共通基礎科目	共通英語	英語Ⅰ	1		2		前	30	○	○	○	○	各分野から最低1科目以上修得 大学共通基礎科目の中から10単位以上修得 鍼灸健康福祉コースの学生は「コミュニケーション論」は必修
		英語Ⅱ	1		2		後	30	△	△	△	△	
	教育情報	情報処理入門	1		2		後	30	○	○	○	○	
		情報処理演習	2		2		前	30	△	△	△	△	
	総合教育	キャリア教育	1		2		前	30	△	△	△	△	
		コミュニケーション論	1		2		後	30	◎	◎	◎	◎	
		ＱＯＬ概論と人間の尊厳	1	2			前	30	◎	◎	◎	◎	
		日向国地域論	1		2		後	30	△	△	△	△	
		国際保健福祉論	2		2		前	30	△	△	△	△	
		ボランティア活動	1		2		通	30	△	△	△	△	
学部共通基礎科目	国際理解	英語コミュニケーション	2		2		前	30	○	○	○	○	各分野から最低１科目以上修得 学部共通基礎科目の中から14単位以上修得
		中国語Ⅰ	1		2		前	30	△	△	△	△	
		中国語Ⅱ	1		2		後	30	△	△	△	△	
		日本語Ⅰ	1		2		前	30	△	△	△	△	
		日本語Ⅱ	1		2		後	30	△	△	△	△	
		日本語Ⅲ	2		2		前	30	△	△	△	△	
		日本語Ⅳ	2		2		後	30	△	△	△	△	
		日本語総合講座Ⅰa	1		2		前	30	△	△	△	△	
		日本語総合講座Ⅰb	1		2		後	30	△	△	△	△	
		日本語総合講座Ⅱa	1		2		前	30	△	△	△	△	
		日本語総合講座Ⅱb	1		2		後	30	△	△	△	△	
	人間と社会・文化	哲学	1		2		後	30	○	○	△	△	
		倫理学	2		2		後	30	○	○	△	△	
		人間論	1		2		前	30	△	△	△	△	
		美術	2		2		後	30	△	△	△	△	
		音楽	1		2		後	30	△	△	△	△	
		日本国憲法	2		2		前	30	○	○	△	△	
		経済学	2		2		前	30	△	△	△	△	
		地域人権支援論	2		2		後	30	△	△	△	△	
		インターンシップⅠ	1		1		後	30	△	△	△	△	
		インターンシップⅡ	2		1		前	30	△	△	△	△	
		インターンシップⅢ	2		1		後	30	△	△	△	△	
	自然科学	生物学	1		2		後	30	△	△	○	○	
		生理学	1		2		前	30	△	△	◎	○	
		基礎統計学	2		2		前	30	△	△	△	△	
	健康教育	生涯スポーツ実習Ⅰ	1		1		前	30	○	○	○	○	
		生涯スポーツ実習Ⅱ	1		1		後	30	○	○	○	○	
		健康科学論	2		2		後	30	○	○	○	○	
	社会福祉の基礎	社会福祉の基礎	1	2			前	30	◎	◎	◎	◎	
		基礎演習Ⅰ	1	1			前	30	◎	◎	◎	◎	
		基礎演習Ⅱ	1	1			後	30	◎	◎	◎	◎	
専門教育科目	社会福祉系科目	社会学	1		2		前	30	◎	◎	◎	◎	5科目10単位以上修得
		心理学	1		2		前	30	◎	◎	◎	◎	
		人体の構造と機能及び疾病	1		2		後	30	○	○	◎	○	
		児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	1		2		前	30	○	○	◎	○	
		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	1		2		後	30	○	○	◎	○	
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	1		2		前	30	○	○	◎	○	
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	1		2		後	30	○	○	◎	○	
		相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1		2		前	30	◎	○	○	○	
		相談援助の基盤と専門職Ⅱ	1		2		後	30	◎	○	○	○	
		現代社会と福祉Ⅰ	1		2		前	30	○	◎	○	○	
		現代社会と福祉Ⅱ	1		2		後	30	○	◎	○	○	
		低所得者に対する支援と生活保護制度	2		2		前	30	○	○	◎	○	
		地域福祉の理論と方法Ⅰ	2		2		前	30	○	○	○	◎	
		地域福祉の理論と方法Ⅱ	2		2		後	30	○	○	○	◎	
		社会保障Ⅰ	2		2		前	30	○	○	○	◎	
		社会保障Ⅱ	2		2		後	30	○	○	○	◎	
		相談援助の理論と方法Ⅰ	2		2		前	30	△	△	△	○	
		相談援助の理論と方法Ⅱ	2		2		後	30	△	△	△	○	
		相談援助の理論と方法Ⅲ	3		2		前	30	△	△	△	○	
		相談援助の理論と方法Ⅳ	3		2		後	30	△	△	△	○	
		権利擁護と成年後見制度	2		2		後	30	△	△	○	△	
		社会調査の基礎	2		2		後	30	△	△	○	△	
		保健医療サービス	2		2		後	30	△	△	○	△	
		福祉行財政と福祉計画	3		2		前	30	△	△	○	△	
		就労支援サービス	3		1		前	15	△	△	○	△	
		福祉サービスの組織と経営	3		2		前	30	△	△	○	△	
		更生保護制度	3		1		前	15	△	△	○	△	
		相談援助演習Ⅰ	2		1		前	30	△	△	△	○	
		相談援助演習Ⅱ	2		1		後	30	△	△	△	○	
		相談援助演習Ⅲ	3		1		前	30	△	△	△	○	
		相談援助演習Ⅳ	3		1		後	30	△	△	△	○	
		相談援助演習Ⅴ	4		1		前	30	△	△	△	○	
		相談援助実習指導Ⅰ	2		1		後	30	△	△	△	○	
		相談援助実習指導Ⅱ	3		1		前	30	△	△	△	○	
		相談援助実習指導Ⅲ	3		1		後	30	△	△	△	○	
		相談援助実習	3		4		前	180	△	△	△	○	
		時事福祉学	4		2		前	30	△	△	△	△	
		福祉関係法規	4		2		前	30	△	△	△	△	
		連携実践演習	4		1		前	30	△	△	△	△	
		認知症の理解Ⅰ	3		2		前	30	△	△	△	△	
		認知症の理解Ⅱ	3		2		後	30	△	△	△	△	
	スポーツヘルスケア領域	スクールソーシャルワーク論	3		2		前	30	△	△	△	△	
		スクールソーシャルワーク演習	3		1		後	30	△	△	△	△	
		医療ソーシャルワーク論	3		2		後	30	△	△	△	△	
		チーム医療概論	3		2		後	30	△	△	△	△	
		医療ソーシャルワーク実習指導	4		1		前	30	△	△	△	△	社会福祉士国家試験受験資格取得見込者のみ履修可
		医療ソーシャルワーク実習	4		1		前	45	△	△	△	△	

ナンバリング 学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番Ⅰ	通番２	備考
9	C	C	1	2	1	B	0	1	
9	C	C	1	2	2	B	0	1	
9	C	C	1	2	2	B	0	2	
9	C	C	2	2	1	B	0	1	
9	C	C	1	2	1	B	0	2	
9	C	C	1	2	2	B	0	3	
9	C	C	1	1	1	B	0	1	
9	C	C	1	2	2	B	0	4	
9	C	C	2	2	1	B	0	2	
9	C	C	1	2	3	B	0	1	
1	C	C	2	2	1	B	0	1	
1	C	C	1	2	1	B	0	1	
1	C	C	1	2	2	B	0	1	
1	C	C	1	2	1	B	0	2	
1	C	C	1	2	2	B	0	2	
1	C	C	2	2	1	B	0	2	
1	C	C	2	2	2	B	0	1	
1	C	C	1	2	1	B	0	3	
1	C	C	1	2	2	B	0	3	
1	C	C	1	2	1	B	0	4	
1	C	C	1	2	2	B	0	4	
1	C	C	1	2	2	B	0	5	
1	C	C	2	2	2	B	0	2	
1	C	C	1	2	1	B	0	5	
1	C	C	2	2	2	B	0	3	
1	C	C	1	2	2	B	0	6	
1	C	C	2	2	1	B	0	3	
1	C	C	2	2	1	B	0	4	
1	C	C	2	2	2	B	0	4	
1	C	C	1	2	2	B	0	7	
1	C	C	2	2	1	B	0	5	
1	C	C	2	2	2	B	0	5	
1	C	C	1	2	2	B	0	8	
1	C	C	1	2	1	B	0	6	
1	C	C	2	2	1	B	0	6	
1	C	C	1	2	1	B	0	7	
1	C	C	1	2	2	B	0	9	
1	C	C	2	2	2	B	0	6	
1	C	C	1	1	1	B	0	1	
1	C	C	1	1	1	B	0	2	
1	C	C	1	1	2	B	0	1	
1	C	C	1	2	1	P	0	1	
1	C	C	1	2	1	P	0	2	
1	C	C	1	2	2	P	0	1	
1	C	C	1	2	1	P	0	3	
1	C	C	1	2	2	P	0	2	
1	C	C	1	2	1	P	0	4	
1	C	C	1	2	2	P	0	3	
1	C	C	1	2	1	P	0	5	
1	C	C	1	2	2	P	0	4	
1	C	C	1	2	1	P	0	6	
1	C	C	1	2	2	P	0	5	
1	C	C	2	2	1	P	0	1	
1	C	C	2	2	1	P	0	2	
1	C	C	2	2	2	P	0	1	
1	C	C	2	2	1	P	0	3	
1	C	C	2	2	2	P	0	2	
1	C	C	2	2	1	P	0	4	
1	C	C	2	2	2	P	0	3	
1	C	C	3	2	1	P	0	1	
1	C	C	3	2	2	P	0	1	
1	C	C	2	2	2	P	0	4	
1	C	C	2	2	2	P	0	5	
1	C	C	2	2	2	P	0	6	
1	C	C	3	2	1	P	0	2	
1	C	C	3	2	1	P	0	3	
1	C	C	3	2	1	P	0	4	
1	C	C	3	2	1	P	0	5	
1	C	C	2	2	1	P	0	5	
1	C	C	2	2	2	P	0	7	
1	C	C	3	2	1	P	0	6	
1	C	C	3	2	2	P	0	2	
1	C	C	4	2	1	P	0	1	
1	C	C	2	2	2	P	0	8	
1	C	C	3	2	1	P	0	7	
1	C	C	3	2	2	P	0	3	
1	C	C	3	2	1	P	0	8	
1	C	C	4	2	1	P	0	2	
1	C	C	4	2	1	P	0	3	
1	C	C	4	2	1	P	0	4	
1	C	C	3	2	1	P	0	9	
1	C	C	3	2	2	P	0	4	
1	C	C	3	2	1	P	1	0	
1	C	C	3	2	2	P	0	5	
1	C	C	3	2	2	P	0	6	
1	C	C	3	2	2	P	0	7	
1	C	C	4	2	1	P	0	5	
1	C	C	4	2	1	P	0	6	

分野別		科目	開講年	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】◎特に重要、○重要、△望ましい ①	②	③	④	備考	ナンバリング 学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番1	通番2	備考
専門教育科目	スポーツ健康専門科目	スポーツマネジメント	4		2		後	30	○	○	◎	○		1	4	C	4	2	2	P	0	1	
		スポーツ心理学Ⅰ	2		2		前	30	○	○	◎	○		1	4	C	2	2	1	P	0	1	
		スポーツ心理学Ⅱ	2		2		後	30	○	○	○	○		1	4	C	2	2	2	P	0	1	
		スポーツ社会学	3		2		前	30	○	○	◎	○		1	4	C	3	2	1	P	0	1	
		運動学	3		2		後	30	△	△	○	○		1	4	C	3	2	2	P	0	1	
		スポーツ・レクリエーション演習	3		1		後	30	○	○	○	○		1	4	C	3	2	2	P	0	2	
		運動生理学	2		2		後	30	△	△	◎	○		1	4	C	2	2	2	P	0	2	
		スポーツ栄養学Ⅰ	2		2		後	30	△	△	◎	○		1	4	C	2	2	2	P	0	3	
		スポーツ栄養学Ⅱ	4		2		前	30	△	△	○	○		1	4	C	4	2	1	P	0	1	
		バイオメカニクス	1		2		前	30	△	△	◎	○		1	4	C	1	2	1	P	0	1	
		トレーニング論	4		2		後	30	△	△	◎	○		1	4	C	4	2	2	P	0	2	
		体力学	2		2		後	30	△	△	◎	○		1	4	C	2	2	2	P	0	4	
		スポーツ医学Ⅰ	3		2		前	30	△	△	◎	○		1	4	C	3	2	1	P	0	2	
		スポーツ医学Ⅱ	3		2		後	30	△	△	○	○		1	4	C	3	2	2	P	0	3	
		公衆衛生学	3		2		前	30	△	△	○	○		1	4	C	3	2	1	P	0	3	
		スポーツファーストエイド	3		2		前	30	○	○	◎	○		1	4	C	3	2	1	P	0	4	
		アダプテッドスポーツ論	4		2		後	30	○	○	○	○		1	4	C	4	2	2	P	0	3	
		コーチング論	4		2		後	30	○	○	◎	○		1	4	C	4	2	2	P	0	4	
		運動器の解剖と機能Ⅰ	2		2		前	30	△	△	○	○		1	4	C	2	2	1	P	0	2	
		運動器の解剖と機能Ⅱ	2		2		後	30	△	△	○	○		1	4	C	2	2	2	P	0	5	
		スポーツ科学	4		2		前	30	△	△	○	○		1	4	C	4	2	1	P	0	2	
		トレーニング科学	4		2		前	30	△	△	○	○		1	4	C	4	2	1	P	0	3	
		スポーツ原理	1		2		前	30	△	○	○	○		1	4	C	1	2	1	P	0	2	
		スポーツ健康福祉論	1		2		前	30	○	○	◎	○		1	4	C	1	2	1	P	0	3	
		運動処方論	3		2		前	30	△	△	◎	○		1	4	C	3	2	1	P	0	5	
		体力学演習	3		1		前	30	△	△	◎	○		1	4	C	3	2	1	P	0	6	
		学校保健	3		2		前	30	△	△	○	○		1	4	C	3	2	1	P	0	7	
		生活習慣病予防学	4		2		前	30	△	△	○	○		1	4	C	4	2	1	P	0	4	
		健康スポーツ実習Ⅰ	1		2		後	60	○	○	○	○		1	4	C	1	2	2	P	0	1	
		健康スポーツ実習Ⅱ	2		2		前	60	○	○	○	○		1	4	C	2	2	1	P	0	3	
		健康スポーツ現場実習	3		2		通	60	○	○	○	○		1	4	C	3	2	3	P	0	1	
		高齢者・障害者スポーツ実習	3		1		前	30	○	○	○	○		1	4	C	3	2	1	P	0	8	
		スポーツ実習Ⅰ(器械体操)	1		1		後	30	△	△	○	○		1	4	C	1	2	2	P	0	2	
		スポーツ実習Ⅱ(屋外球技)	2		1		後	30	△	△	○	○		1	4	C	2	2	2	P	0	6	
		スポーツ実習Ⅲ(屋内球技)	1		1		後	30	△	△	○	○		1	4	C	1	2	2	P	0	3	
		スポーツ実習Ⅳ(陸上)	2		1		後	30	△	△	○	○		1	4	C	2	2	2	P	0	7	
		スポーツ実習Ⅴ(水泳)	2		1		前	30	△	△	○	○		1	4	C	2	2	1	P	0	4	
		スポーツ実習Ⅵ(ダンス)	2		1		前	30	△	△	○	○		1	4	C	2	2	1	P	0	5	
		スポーツ実習Ⅶ(柔道)	2		1		前	30	△	△	○	○		1	4	C	2	2	1	P	0	6	
		スポーツ実習Ⅷ(野外スポーツ実習)	1		1		前	30	△	△	○	○		1	4	C	1	2	1	P	0	4	
		レクリエーション論	2		2		前	30	○	○	○	○		1	4	C	2	2	1	P	0	7	
		レクリエーション実技	2		1		後	30	○	○	○	○		1	4	C	2	2	2	P	0	8	
		健康運動指導論Ⅰ	3		2		後	30	△	△	○	○		1	4	C	3	2	2	P	0	4	
		健康運動指導論Ⅱ	4		2		前	30	△	△	○	○		1	4	C	4	2	1	P	0	5	
		健康運動指導論Ⅲ	4		2		後	30	△	△	○	○		1	4	C	4	2	2	P	0	5	
		教育原論	2		2		後	30	△	△	○	○		1	C	C	2	2	2	P	0	9	
		教育心理学	3		2		前	30	△	△	○	○		1	C	C	3	2	1	P	1	1	
		教育相談	3		2		後	30	△	△	○	○		1	C	C	3	2	2	P	0	8	
専門教育科目	鍼灸健康専門科目	医学概論	1		2		後	30	◎	○	△	△	鍼灸健康福祉コースの学生は必修。鍼灸健康福祉コース以外の学生は履修できません。	1	4	S	1	2	2	P	0	1	
		社会保障制度および職業倫理	4		1		前	15	◎	○	△	△		1	4	S	4	2	1	P	0	1	
		解剖学Ⅰ	1		2		後	30	△	△	◎	△		1	4	S	1	2	2	P	0	2	
		解剖学Ⅱ	2		2		前	30	△	△	◎	△		1	4	S	2	2	1	P	0	1	
		解剖学Ⅲ	2		2		後	30	△	△	◎	△		1	4	S	2	2	2	P	0	1	
		運動学概論	2		1		前	30	△	○	◎	△		1	4	S	2	2	1	P	0	2	
		身体の働きⅠ	2		2		前	30	△	△	◎	△		1	4	S	2	2	1	P	0	3	
		身体の働きⅡ	2		2		後	30	△	△	◎	△		1	4	S	2	2	2	P	0	2	
		リハビリテーション	3		2		前	30	△	△	◎	△		1	4	S	3	2	1	P	0	1	
		病理学概論	2		2		後	30	△	△	◎	△		1	4	S	2	2	2	P	0	3	
		衛生学Ⅰ	3		2		前	30	△	△	◎	△		1	4	S	3	2	1	P	0	2	
		衛生学Ⅱ	3		2		後	30	△	△	◎	△		1	4	S	3	2	2	P	0	1	
		臨床医学総論Ⅰ	2		1		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	2	2	1	P	0	4	
		臨床医学総論Ⅱ	2		1		後	30	△	◎	◎	△		1	4	S	2	2	2	P	0	4	
		臨床医学各論Ⅰ	2		1		後	30	△	◎	◎	△		1	4	S	2	2	2	P	0	5	
		臨床医学各論Ⅱ	3		1		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	3	2	1	P	0	3	
		臨床医学各論Ⅲ	3		1		後	30	△	◎	◎	△		1	4	S	3	2	2	P	0	2	
		臨床医学各論Ⅳ	4		1		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	4	2	1	P	0	2	
		病態生理学	3		1		後	30	△	◎	◎	△		1	4	S	3	2	2	P	0	3	
		鍼灸理論	3		2		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	3	2	1	P	0	4	
		東洋医学概論Ⅰ	1		2		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	1	2	1	P	0	1	
		東洋医学概論Ⅱ	1		1		後	15	△	◎	◎	△		1	4	S	1	2	2	P	0	3	
		経絡経穴学Ⅰ	1		1		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	1	2	1	P	0	2	
		経絡経穴学Ⅱ	1		1		後	30	△	◎	◎	△		1	4	S	1	2	2	P	0	4	
		経絡経穴学Ⅲ	2		1		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	2	2	1	P	0	5	
		東洋医学臨床論Ⅰ	2		2		後	30	△	◎	◎	△		1	4	S	2	2	2	P	0	6	
		東洋医学臨床論Ⅱ	3		2		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	3	2	1	P	0	5	
		東洋医学臨床論Ⅲ	3		2		後	30	△	◎	◎	△		1	4	S	3	2	2	P	0	4	
		東洋医学臨床論Ⅳ	4		2		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	4	2	1	P	0	3	
		東洋医学臨床論Ⅴ	4		1		後	15	△	◎	◎	△		1	4	S	4	2	2	P	0	1	
		物理療法学	3		2		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	3	2	1	P	0	6	
		鍼灸治療の安全と適応判断	4		1		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	4	2	1	P	0	4	
		鍼灸診断演習	3		1		後	30	△	◎	◎	△		1	4	S	3	2	2	P	0	5	
		社会鍼灸学	4		2		前	30	△	○	◎	△		1	4	S	4	2	1	P	0	5	
		基礎鍼灸実習	1		1		後	30	△	◎	◎	△		1	4	S	1	2	2	P	0	5	
		臨床鍼実技Ⅰ	2		1		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	2	2	1	P	0	6	
		臨床鍼実技Ⅱ	2		1		後	30	△	◎	◎	△		1	4	S	2	2	2	P	0	7	
		臨床鍼実技Ⅲ	3		1		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	3	2	1	P	0	7	
		臨床鍼実技Ⅳ	3		1		後	30	△	◎	◎	△		1	4	S	3	2	2	P	0	6	
		臨床鍼実技Ⅴ	4		1		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	4	2	1	P	0	6	
		臨床鍼実技Ⅵ	4		1		後	30	△	◎	◎	△		1	4	S	4	2	2	P	0	2	
		臨床灸実技Ⅰ	2		1		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	2	2	1	P	0	7	
		臨床灸実技Ⅱ	2		1		後	30	△	◎	◎	△		1	4	S	2	2	2	P	0	8	
		臨床灸実技Ⅲ	3		1		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	3	2	1	P	0	8	
		臨床灸実技Ⅳ	3		1		後	30	△	◎	◎	△		1	4	S	3	2	2	P	0	7	
		臨床灸実技Ⅴ	4		1		前	30	△	◎	◎	△		1	4	S	4	2	1	P	0	7	
		臨床灸実技Ⅵ	4		1		後	30	△	◎	◎	△		1	4	S	4	2	2	P	0	3	
		臨床鍼灸評価実習Ⅰ	2		1		後	30	△	△	◎	△		1	4	S	2	2	2	P	0	9	
		臨床鍼灸評価実習Ⅱ	3		1		後	30	△	△	◎	△		1	4	S	3	2	2	P	0	8	
		臨床鍼灸実習Ⅰ(治療所)	3		2		通	90	○	◎	◎	◎		1	4	S	3	2	3	P	0	1	
		臨床鍼灸実習Ⅱ(治療所)	4		2		通	90	○	◎	◎	◎		1	4	S	4	2	3	P	0	1	
		スポーツ健康鍼灸学	3		2		後	30	△	◎	○	△		1	4	S	3	2	2	P	0	9	
総合科目		スポーツ健康福祉学演習Ⅰ	3	1			前	30	◎	◎	◎	◎		1	4	C	3	1	1	P	0	1	
		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ	3	1			後	30	◎	◎	◎	◎		1	4	C	3	1	2	P	0	1	
		スポーツ健康福祉学演習Ⅲ	4	1			前	30	◎	◎	◎	◎		1	4	C	4	1	1	P	0	1	
		スポーツ健康福祉学演習Ⅳ	4	1			後	30	◎	◎	◎	◎		1	4	C	4	1	2	P	0	1	
		卒業研究Ⅰ	4	2			前	30	◎	◎	◎	◎		1	4	C	4	1	1	P	0	2	
		卒業研究Ⅱ	4	2			後	30	◎	◎	◎	◎		1	4	C	4	1	2	P	0	2	

分野別		科目	開講年	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】◎特に重要、○重要、△望ましい ①	②	③	④	備考
専門教育科目	アスレティックトレーナーに関する科目	アスレティックトレーナー概論	2			1	前	30	△	△	△	△	アスレティックトレーナーに関する科目は卒業要件の単位に含まれません。
		スポーツ外傷・障害の基礎知識Ⅰ	2			1	前	30	△	△	△	△	
		スポーツ外傷・障害の基礎知識Ⅱ	2			1	後	30	△	△	△	△	
		健康管理とスポーツ医学	2			1	前	30	△	△	△	△	
		検査・測定と評価Ⅰ	2			1	後	30	△	△	△	△	
		検査・測定と評価Ⅱ	3			1	前	30	△	△	△	△	
		予防とコンディショニングⅠ	3			1	前	30	△	△	△	△	
		予防とコンディショニングⅡ	3			1	後	30	△	△	△	△	
		予防とコンディショニングⅢ	4			1	前	30	△	△	△	△	
		アスレティックリハビリテーションⅠ	3			1	後	30	△	△	△	△	
		アスレティックリハビリテーションⅡ	4			1	前	30	△	△	△	△	
		アスレティックリハビリテーションⅢ	4			1	後	30	△	△	△	△	
		アスレティックトレーナー実習Ⅰ	3			1	前	30	△	△	△	△	
		アスレティックトレーナー実習Ⅱ	3			1	前	30	△	△	△	△	
		アスレティックトレーナー実習Ⅲ	3			1	後	30	△	△	△	△	
		アスレティックトレーナー実習Ⅳ	3			1	後	30	△	△	△	△	
		アスレティックトレーナー実習Ⅴ	4			1	前	30	△	△	△	△	
		アスレティックトレーナー実習Ⅵ	4			1	後	30	△	△	△	△	
教職に関する科目		教職論	1			2	前	30	△	△	△	△	教職に関する科目は卒業要件の単位に含まれない。
		教育行政学	2			2	後	30	△	△	△	△	
		教育課程論	2			2	後	30	△	△	△	△	
		保健体育科教育法Ⅰ	3			4	前	60	△	△	△	△	
		保健体育科教育法Ⅱ	3			4	後	60	△	△	△	△	
		道徳教育の指導法	2			2	前	30	△	△	△	△	
		特別活動の指導法	2			2	後	30	△	△	△	△	
		教育方法論	3			2	後	30	△	△	△	△	
		生徒・進路指導論	2			2	前	30	△	△	△	△	
		教職実践演習（中・高）	4			2	後	30	△	△	△	△	
		教育実習指導	3			1	後	30	△	△	△	△	
		教育実習Ⅰ	4			2	前	60	△	△	△	△	
		教育実習Ⅱ	4			2	前	60	△	△	△	△	
		介護等体験	2			1	後	45	△	△	△	△	

ナンバリング 学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番1	通番2	備考
1	4	C	2	3	1	P	0	1	
1	4	C	2	3	1	P	0	2	
1	4	C	2	3	2	P	0	1	
1	4	C	2	3	1	P	0	3	
1	4	C	2	3	2	P	0	2	
1	4	C	3	3	1	P	0	1	
1	4	C	3	3	1	P	0	2	
1	4	C	3	3	2	P	0	1	
1	4	C	4	3	1	P	0	1	
1	4	C	3	3	2	P	0	2	
1	4	C	4	3	1	P	0	2	
1	4	C	4	3	2	P	0	1	
1	4	C	3	3	1	P	0	3	
1	4	C	3	3	1	P	0	4	
1	4	C	3	3	2	P	0	3	
1	4	C	3	3	2	P	0	4	
1	4	C	4	3	1	P	0	3	
1	4	C	4	3	2	P	0	2	
1	C	C	1	3	1	T	0	1	
1	C	C	2	3	2	T	0	1	
1	C	C	2	3	2	T	0	2	
1	4	C	3	3	1	T	0	1	
1	4	C	3	3	2	T	0	1	
1	C	C	2	3	1	T	0	1	
1	C	C	2	3	2	T	0	3	
1	C	C	3	3	2	T	0	2	
1	C	C	2	3	1	T	0	2	
1	C	C	4	3	2	T	0	1	
1	C	C	3	3	2	T	0	3	
1	C	C	4	3	1	T	0	1	
1	C	C	4	3	1	T	0	2	
1	C	C	2	3	2	T	0	4	

【卒業要件】
卒業要件として、基礎科目の中から24単位以上修得すること。
（基礎科目の日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、日本語総合講座Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱbは外国人留学生対象科目）
卒業要件として、専門教育科目の中から100単位以上修得すること。
また、基礎科目、専門教育科目を合わせて124単位以上修得すること。
その他、備考に記載の要件を満たすこと。

社会福祉学部　臨床福祉学科　臨床福祉専攻

【ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】
①社会貢献力：福祉を担う人材として、社会的に課題を抱えた地域・人々に対して貢献することができる。
②行動力：福祉社会を担う者として、思考力、洞察力、判断力、豊かな人間性と倫理観を身につけ、社会や他者のために責任ある行動をとることができる。
③福祉実践力：地域社会や支援対象者に対して、社会福祉の知識、技術を駆使し、課題の発見から解決を導き出していくことができる。
④コミュニケーション能力：社会的に課題を抱えた地域・人々、協働する多機関や多職種等とスムーズにコミュニケーションを図り、適切な支援に結び付けることができる。
⑤教育能力：地域社会の福祉力および社会福祉現場の専門性を向上させるための教育をすることができる。
⑥研究能力：社会や福祉の現場の課題を的確に把握し、情報を集め、分析し、考察することができる。
⑦自己研鑽力：福祉の進歩と改善に対応するため、社会や福祉現場の動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。

分野別		科目	開講年	単位数 必修	選択	自由	開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】◎特に重要、○重要、△望ましい ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	備考
大学共通基礎科目	共通英語	英語Ⅰ	1		2		前	30				○			○	各分野から最低１科目以上修得 大学共通基礎科目の中から10単位以上修得
		英語Ⅱ	1		2		後	30				○			○	
	教育情報	情報処理入門	1		2		後	30						○		
		情報処理演習	2		2		前	30						○		
	総合教育	キャリア教育	1		2		前	30							○	
		コミュニケーション論	1		2		後	30			○	◎				
		ＱＯＬ概論と人間の尊厳	1	2			前	30		◎	○					
		日向国地域論	1		2		後	30		◎	○					
		国際保健福祉論	2		2		前	30		◎	○					
		ボランティア活動	1		2		通	30	◎	○						
学部共通基礎科目	国際理解	英語コミュニケーション	2		2		前	30				○			○	各分野から最低１科目以上修得 学部共通基礎科目の中から14単位以上修得
		中国語Ⅰ	1		2		前	30				○			○	
		中国語Ⅱ	1		2		後	30				○			○	
		日本語Ⅰ	1		2		前	30				○			○	
		日本語Ⅱ	1		2		後	30				○			○	
		日本語Ⅲ	2		2		前	30				○			○	
		日本語Ⅳ	2		2		後	30				○			○	
		日本語総合講座Ⅰa	1		2		前	30				○			○	
		日本語総合講座Ⅰb	1		2		後	30				○			○	
		日本語総合講座Ⅱa	1		2		前	30				○			○	
		日本語総合講座Ⅱb	1		2		後	30				○			○	
	人間と社会・文化	哲学	1		2		後	30		◎	△					
		倫理学	2		2		後	30		◎	△					
		人間論	1		2		前	30		◎	△					
		美術	2		2		後	30							○	
		音楽	1		2		後	30							○	
		日本国憲法	2		2		前	30		◎						
		経済学	2		2		前	30		◎						
		地域人権支援論	2		2		後	30	◎	○						
		インターンシップⅠ	1		1		後	30	○	○		○				
		インターンシップⅡ	2		1		前	30	○	○		○				
		インターンシップⅢ	2		1		後	30	○	○		○				
	自然科学	生物学	1		2		後	30		◎						
		生理学	1		2		前	30		◎						
		基礎統計学	2		2		前	30		◎						
	健康教育	生涯スポーツ実習Ⅰ	1		1		前	30		◎	○					
		生涯スポーツ実習Ⅱ	1		1		後	30		◎	○					
		健康科学論	2		2		後	30		◎	○					
	社会福祉の基礎	社会福祉の基礎	1	2			前	30		◎	○					
		基礎演習Ⅰ	1	1			前	30		◎				◎		
		基礎演習Ⅱ	1	1			後	30		◎				◎		
専門教育科目	社会福祉系科目	社会学	1		2		前	30		◎						5科目10単位以上修得
		心理学	1		2		前	30		△	○	◎				
		人体の構造と機能及び疾病	1		2		後	30		◎	○					
		児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	1		2		前	30		○	◎					
		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	1		2		後	30		○	◎					
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	1		2		前	30		○	◎					
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	1		2		後	30		○	◎					
		相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1		2		前	30		○	◎					
		相談援助の基盤と専門職Ⅱ	1		2		後	30		○	◎					
		現代社会と福祉Ⅰ	1		2		前	30		○	◎					
		現代社会と福祉Ⅱ	1		2		後	30		○	◎					
		低所得者に対する支援と生活保護制度	2		2		前	30		○	◎					
		地域福祉の理論と方法Ⅰ	2		2		前	30		○	◎					
		地域福祉の理論と方法Ⅱ	2		2		後	30		○	◎					
		社会保障Ⅰ	2		2		前	30		○	◎					
		社会保障Ⅱ	2		2		後	30		○	◎					
		相談援助の理論と方法Ⅰ	2		2		前	30		△	◎	○				
		相談援助の理論と方法Ⅱ	2		2		後	30		△	◎	○				
		相談援助の理論と方法Ⅲ	3		2		前	30		△	◎	○				
		相談援助の理論と方法Ⅳ	3		2		後	30		△	◎	○				
		権利擁護と成年後見制度	2		2		後	30		△	◎	○				
		社会調査の基礎	2		2		後	30		△	○			◎		
		保健医療サービス	2		2		後	30		○	◎					
		福祉行財政と福祉計画	3		2		前	30		△	◎	○				
		就労支援サービス	3		1		前	15		△	◎	○				
		福祉サービスの組織と経営	3		2		前	30		△	◎	○				
		更生保護制度	3		1		前	15		△	◎	○				
		相談援助演習Ⅰ	2		1		前	30		◎	◎			○		
		相談援助演習Ⅱ	2		1		後	30		◎	◎			○		
		相談援助演習Ⅲ	3		1		前	30		◎	◎			○		
		相談援助演習Ⅳ	3		1		後	30		◎	◎			○		
		相談援助演習Ⅴ	4		1		前	30		◎	◎			○		
		相談援助実習指導Ⅰ	2		1		後	30		◎	◎			○		
		相談援助実習指導Ⅱ	3		1		前	30		◎	◎			○		
		相談援助実習指導Ⅲ	3		1		後	30		◎	◎			○		
		相談援助実習	3		4		前	180		◎	◎			○		
		時事福祉学	4		2		前	30		○	◎				○	
		関係行政論	4		2		前	30		△	◎	○			○	
		連携実践演習	4		1		前	30								
		認知症の理解Ⅰ	3		2		前	30			◎					介護福祉ｺｰｽは必修
		認知症の理解Ⅱ	3		2		後	30			◎					
	フィールド領域	スクールソーシャルワーク論	3		2		前	30			◎					
		スクールソーシャルワーク演習	3		1		後	30		◎	◎			○		
		医療ソーシャルワーク論	3		2		後	30			◎					
		チーム医療概論	3		2		後	30			◎					
		医療ソーシャルワーク実習指導	4		1		前	30		◎	◎			○		社会福祉士国家試験受験資格取得見込者のみ履修可
		医療ソーシャルワーク実習	4		1		前	45		◎	◎			○		

ナンバリング 学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番1	通番2	備考
9	C	C	1	2	1	B	0	1	
9	C	C	1	2	2	B	0	1	
9	C	C	1	2	2	B	0	2	
9	C	C	2	2	1	B	0	1	
9	C	C	1	2	1	B	0	2	
9	C	C	1	2	2	B	0	3	
9	C	C	1	1	1	B	0	1	
9	C	C	1	2	2	B	0	4	
9	C	C	2	2	1	B	0	2	
9	C	C	1	2	3	B	0	1	
1	C	C	2	2	1	B	0	1	
1	C	C	1	2	1	B	0	1	
1	C	C	1	2	2	B	0	1	
1	C	C	1	2	1	B	0	2	
1	C	C	1	2	2	B	0	2	
1	C	C	2	2	1	B	0	2	
1	C	C	2	2	2	B	0	1	
1	C	C	1	2	1	B	0	3	
1	C	C	1	2	2	B	0	3	
1	C	C	1	2	1	B	0	4	
1	C	C	1	2	2	B	0	4	
1	C	C	1	2	2	B	0	5	
1	C	C	2	2	2	B	0	2	
1	C	C	1	2	1	B	0	5	
1	C	C	2	2	2	B	0	3	
1	C	C	1	2	2	B	0	6	
1	C	C	2	2	1	B	0	3	
1	C	C	2	2	1	B	0	4	
1	C	C	2	2	2	B	0	4	
1	C	C	1	2	2	B	0	7	
1	C	C	2	2	1	B	0	5	
1	C	C	2	2	2	B	0	5	
1	C	C	1	2	2	B	0	8	
1	C	C	1	2	1	B	0	6	
1	C	C	2	2	1	B	0	6	
1	C	C	1	2	1	B	0	7	
1	C	C	1	2	2	B	0	9	
1	C	C	2	2	2	B	0	6	
1	C	C	1	1	1	B	0	1	
1	C	C	1	1	1	B	0	2	
1	C	C	1	1	2	B	0	1	
1	C	C	1	2	1	P	0	1	
1	C	C	1	2	1	P	0	2	
1	C	C	1	2	2	P	0	1	
1	C	C	1	2	1	P	0	3	
1	C	C	1	2	2	P	0	2	
1	C	C	1	2	1	P	0	4	
1	C	C	1	2	2	P	0	3	
1	C	C	1	2	1	P	0	5	
1	C	C	1	2	2	P	0	4	
1	C	C	1	2	1	P	0	6	
1	C	C	1	2	2	P	0	5	
1	C	C	2	2	1	P	0	1	
1	C	C	2	2	1	P	0	2	
1	C	C	2	2	2	P	0	1	
1	C	C	2	2	1	P	0	3	
1	C	C	2	2	2	P	0	2	
1	C	C	2	2	1	P	0	4	
1	C	C	2	2	2	P	0	3	
1	C	C	3	2	1	P	0	1	
1	C	C	3	2	2	P	0	1	
1	C	C	2	2	2	P	0	4	
1	C	C	2	2	2	P	0	5	
1	C	C	2	2	2	P	0	6	
1	C	C	3	2	1	P	0	2	
1	C	C	3	2	1	P	0	3	
1	C	C	3	2	1	P	0	4	
1	C	C	3	2	1	P	0	5	
1	C	C	2	2	1	P	0	5	
1	C	C	2	2	2	P	0	7	
1	C	C	3	2	1	P	0	6	
1	C	C	3	2	2	P	0	2	
1	C	C	4	2	1	P	0	1	
1	C	C	2	2	2	P	0	8	
1	C	C	3	2	1	P	0	7	
1	C	C	3	2	2	P	0	3	
1	C	C	3	2	1	P	0	8	
1	C	C	4	2	1	P	0	2	
1	C	C	4	2	1	P	0	3	
1	C	C	4	2	1	P	0	4	
1	C	C	3	2	1	P	0	9	
1	C	C	3	2	2	P	0	4	
1	C	C	3	2	1	P	1	0	
1	C	C	3	2	2	P	0	5	
1	C	C	3	2	2	P	0	6	
1	C	C	3	2	2	P	0	7	
1	C	C	4	2	1	P	0	5	
1	C	C	4	2	1	P	0	6	

分野別		科目	開講年	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】◎特に重要、○重要、△望ましい ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	備考
専門教育科目	精神保健福祉系科目	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	1		2		後	30	△	○	◎					
		精神疾患とその治療Ⅰ	2		2		前	30			◎					
		精神疾患とその治療Ⅱ	2		2		後	30			◎					
		精神保健の課題と支援Ⅰ	3		2		前	30			◎					
		精神保健の課題と支援Ⅱ	3		2		後	30			◎					
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	3		2		前	30		○	◎			△		
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3		2		後	30		○	◎			△		
		精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	2		2		前	30			◎					
		精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	2		2		後	30			◎					
		精神障害者の生活支援システムⅢ	3		2		前	30			◎					
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	4		2		前	30		○	◎			△		
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	4		2		後	30		○	◎			△		
		精神保健福祉援助演習Ⅰ	3		1		後	30		◎	◎			○		
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	4		1		前	30		◎	◎			○		
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3		1		後	30		◎	◎			○		
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4		1		前	30		◎	◎			○		
		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4		1		後	30		◎	◎			○		
		精神保健福祉援助実習	4		4		前	210		◎	◎			○		
専門教育科目	介護福祉系科目	介護の基本Ⅰ	1		2		前	30			◎					介護福祉ｺｰｽの学生は「介護福祉系科目」はすべて必修
		介護の基本Ⅱ	1		2		後	30			◎					
		介護の基本Ⅲ	2		2		前	30			◎					
		介護の基本Ⅳ	2		2		後	30			◎					
		介護福祉学Ⅰ	4		2		前	30			◎					
		介護福祉学Ⅱ	4		2		後	30			◎					
		コミュニケーション技術Ⅰ	3		1		前	30			◎	◎				
		コミュニケーション技術Ⅱ	3		1		後	30			◎	◎				
		生活支援技術演習（基本Ⅰ）	1		1		前	30		○	◎			△		
		生活支援技術演習（基本Ⅱ）	1		1		後	30		○	◎			△		
		生活支援技術演習（応用Ⅰ）	2		1		前	30		○	◎			△		
		生活支援技術演習（応用Ⅱ）	2		1		後	30		○	◎			△		
		生活支援技術演習（終末期）	3		2		前	30		○	◎			△		
		生活支援技術演習（家事Ⅰ）	1		1		前	30		○	◎			△		
		生活支援技術演習（家事Ⅱ）	1		1		後	30		○	◎			△		介護福祉ｺｰｽの学生のみ履修可能
		生活支援技術演習（環境Ⅰ）	4		2		前	30		○	◎			△		
		生活支援技術演習（環境Ⅱ）	4		2		後	30		○	◎			△		
		生活支援技術演習（総括）	4		1		前	30		○	◎			△		
		介護過程Ⅰ	2		1		後	30		◎	◎			○		
		介護過程Ⅱ	3		1		前	30		◎	◎			○		
		介護過程Ⅲ	3		2		後	60		◎	◎			○		
		介護過程Ⅳ	4		1		前	30		◎	◎			○		
		介護総合演習Ⅰ	2		1		前	30		◎	◎			○		
		介護総合演習Ⅱ	2		1		後	30		◎	◎			○		
		介護総合演習Ⅲ	3		1		前	30		◎	◎			○		
		介護総合演習Ⅳ	4		1		前	30		◎	◎			○		
		介護実習Ⅰ	2		3		前	135		◎	◎			○		
		介護実習Ⅱ	2		3		後	135		◎	◎			○		
		介護実習Ⅲ	3		4		後	180		◎	◎			○		
		医療的ケアⅠ	3		2		前	60			◎					
		医療的ケアⅡ	3		1		後	30			◎					
		こころとからだのしくみⅠ	1		2		後	30			◎					
		こころとからだのしくみⅡ	2		2		前	30			◎					
		発達と老化の理解Ⅰ	3		2		前	30			◎					
		発達と老化の理解Ⅱ	3		2		後	30			◎					
		障害の理解	2		2		後	30			◎					
	臨床福祉学科目	社会・集団・家族心理学	1		2		後	30		○	◎					
		発達心理学	1		2		前	30		○	◎					
		臨床心理学概論	1		2		後	30		○	◎					
		福祉心理学	3		2		後	30		○	◎					
		運動療法	2		2		後	30		○	◎					
		芸術療法	2		2		後	30		○	◎					
		レクリエーション論	2		2		前	30			◎					
		レクリエーション実技	2		1		後	30			◎					
		公衆衛生学	3		2		前	30		◎	○					
		福祉住環境論	3		2		前	30		○	◎					
		福祉住環境デザイン	3		2		後	30		○	◎					
		福祉施設とまちづくり	3		2		後	30		○	◎					
		介護概論	2		2		前	30		○	◎					
		教育原論	2		2		前			○	◎		○			
		教育心理学	3		2		前	30			◎		○			
		教育相談	3		2		後	30			◎		○			
	総合科目	臨床福祉学演習Ⅰ	3	1			前	30		△	○			◎		
		臨床福祉学演習Ⅱ	3	1			後	30		△	○			◎		
		臨床福祉学演習Ⅲ	4	1			前	30		△	○			◎		
		臨床福祉学演習Ⅳ	4	1			後	30		△	○			◎		
		卒業研究Ⅰ	4	2			前	30		△	○			◎		
		卒業研究Ⅱ	4	2			後	30		△				◎		
教職に関する科目		教職論	1			2	後	30					◎			教職に関する科目は卒業要件の単位に含まれない。
		教育行政学	2			2	後	30					◎			
		教育課程論	2			2	後	30					◎			
		福祉科教育法	3			4	通	60					◎			
		特別活動の指導法	2			2	後	30					◎			
		教育方法論	3			2	後	30					◎			
		生徒指導等の研究	2			2	前	30					◎			
		教職実践演習（中・高）	4			2	後	30					◎			
		教育実習の研究	3			1	後	30					◎			
		教育実習Ⅰ	4			2	前	60			◎		◎	○		
		教育実習Ⅱ	4			2	前	60			◎		◎	○		
		介護等体験	2			1	後	45			◎		◎	○		

ナンバリング 学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番1	通番2	備考
1	3	C	1	2	2	P	0	1	
1	3	C	2	2	1	P	0	1	
1	3	C	2	2	2	P	0	1	
1	3	C	3	2	1	P	0	1	
1	3	C	3	2	2	P	0	1	
1	3	C	3	2	1	P	0	2	
1	3	C	3	2	2	P	0	2	
1	3	C	2	2	1	P	0	2	
1	3	C	2	2	2	P	0	2	
1	3	C	3	2	1	P	0	3	
1	3	C	4	2	1	P	0	1	
1	3	C	4	2	2	P	0	1	
1	3	C	3	2	2	P	0	3	
1	3	C	4	2	1	P	0	2	
1	3	C	3	2	2	P	0	4	
1	3	C	4	2	1	P	0	3	
1	3	C	4	2	2	P	0	2	
1	3	C	4	2	1	P	0	4	
1	3	K	1	2	1	P	0	1	
1	3	K	1	2	2	P	0	1	
1	3	K	2	2	1	P	0	1	
1	3	K	2	2	2	P	0	1	
1	3	K	4	2	1	P	0	1	
1	3	K	4	2	2	P	0	1	
1	3	K	3	2	1	P	0	1	
1	3	K	3	2	2	P	0	1	
1	3	K	1	2	1	P	0	2	
1	3	K	1	2	2	P	0	2	
1	3	K	2	2	1	P	0	2	
1	3	K	2	2	2	P	0	2	
1	3	K	3	2	1	P	0	2	
1	3	K	1	2	1	P	0	3	
1	3	K	1	2	2	P	0	3	
1	3	K	4	2	1	P	0	2	
1	3	K	4	2	2	P	0	2	
1	3	K	4	2	1	P	0	3	
1	3	K	2	2	2	P	0	3	
1	3	K	3	2	1	P	0	3	
1	3	K	3	2	2	P	0	2	
1	3	K	4	2	1	P	0	4	
1	3	K	4	2	1	P	0	5	
1	3	K	2	2	1	P	0	4	
1	3	K	2	2	2	P	0	5	
1	3	K	3	2	2	P	0	3	
1	3	K	3	2	1	P	0	5	
1	3	K	3	2	2	P	0	4	
1	3	K	1	2	2	P	0	4	
1	3	K	2	2	1	P	0	5	
1	3	K	3	2	1	P	0	6	
1	3	K	3	2	2	P	0	5	
1	3	K	2	2	2	P	0	6	
1	3	W	1	2	2	P	0	1	
1	3	W	1	2	1	P	0	1	
1	3	W	1	2	2	P	0	2	
1	3	W	3	2	2	P	0	1	
1	3	W	2	2	2	P	0	2	
1	3	W	2	2	2	P	0	3	
1	3	W	3	2	2	P	0	2	
1	3	W	3	2	2	P	0	3	
1	3	W	2	2	1	P	0	2	
1	3	W	2	2	1	P	0	3	
1	3	W	3	2	1	P	0	3	
1	3	W	3	2	2	P	0	4	
1	3	W	3	1	1	P	0	1	
1	3	W	3	1	2	P	0	1	
1	3	W	4	1	1	P	0	1	
1	3	W	4	1	2	P	0	1	
1	3	W	4	1	1	P	0	2	
1	3	W	4	1	2	P	0	2	
1	C	C	1	3	2	T	0	1	
1	C	C	2	3	2	T	0	1	
1	C	C	2	3	2	T	0	2	
1	3	C	3	3	3	T	0	1	
1	C	C	2	3	2	T	0	3	
1	C	C	3	3	2	T	0	1	
1	C	C	2	3	1	T	0	1	
1	C	C	4	3	2	T	0	1	
1	C	C	3	3	2	T	0	2	
1	C	C	4	3	1	T	0	1	
1	C	C	4	3	1	T	0	2	
1	C	C	2	3	2	T	0	4	

【卒業要件】
卒業要件として、基礎科目の中から24単位以上修得すること。
（基礎科目の日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、日本語総合講座Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱbは外国人留学生対象科目）
卒業要件として、専攻別専門教育科目の中から100単位以上修得すること。
また、基礎科目、専攻別専門教育科目を合わせて124単位以上修得すること。
その他、備考に記載の要件を満たすこと。

社会福祉学部　臨床福祉学科　臨床心理専攻

【ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】
①社会貢献力：心理・福祉を担う人材として、社会的に課題を抱えた地域・人々に対して貢献することができる。
②行動力：専門職として、思考力、洞察力、判断力、豊かな人間性と倫理観を身につけ、社会や他者のために責任ある行動をとることができる。
③心理・福祉実践力：地域社会や支援対象者に対して、心理・社会福祉の知識、技術を駆使し、課題の発見から解決を導き出していくことができる。
④コミュニケーション能力：社会的に課題を抱えた地域・人々、協働する多機関や多職種等とスムーズにコミュニケーションを図り、適切な支援に結び付けることができる。
⑤教育能力：地域社会の福祉力および医療・福祉・教育・司法・産業領域の現場の専門性を向上させるための教育をすることができる。
⑥研究能力：社会や医療・福祉・教育・司法・産業領域の現場の問題を的確に把握し、情報を集め、分析し、考察することができる。
⑦自己研鑽力：医療・福祉・教育・司法・産業領域の進歩と改善に対応するため、社会や現場の動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。

分野別		科目	開講年	単位数			開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】◎特に重要、○重要、△望ましい							備考
				必修	選択	自由			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
大学共通基礎科目	共英通語	英語Ⅰ	1		2		前	30						○		各分野から最低１科目以上修得 大学共通基礎科目の中から10単位以上修得
		英語Ⅱ	1		2		後	30						○		
	教育情報	情報処理入門	1		2		後	30						○		
		情報処理演習	2		2		前	30						○		
	総合教育	キャリア教育	1		2		前	30		△						
		コミュニケーション論	1		2		後	30				△				
		ＱＯＬ概論と人間の尊厳	1	2			前	30	○							
		日向国地域論	1		2		後	30	△							
		国際保健福祉論	2		2		前	30	△							
		ボランティア活動	1		2		通	30	△							
学部共通基礎科目	国際理解	英語コミュニケーション	2		2		前	30				○		△		各分野から最低１科目以上修得 学部共通基礎科目の中から14単位以上修得
		中国語Ⅰ	1		2		前	30							△	
		中国語Ⅱ	1		2		後	30							△	
		日本語Ⅰ	1		2		前	30			○					
		日本語Ⅱ	1		2		後	30			○					
		日本語Ⅲ	2		2		前	30			○					
		日本語Ⅳ	2		2		後	30			○					
		日本語総合講座Ⅰa	1		2		前	30			○					
		日本語総合講座Ⅰb	1		2		後	30			○					
		日本語総合講座Ⅱa	1		2		前	30			○					
		日本語総合講座Ⅱb	1		2		後	30			○					
	人間と社会・文化	哲学	1		2		後	30							△	
		倫理学	2		2		後	30		△						
		人間論	1		2		前	30		△						
		美術	2		2		後	30		△						
		音楽	1		2		後	30		△						
		日本国憲法	2		2		前	30		△						
		経済学	2		2		前	30		△						
		地域人権支援論	2		2		後	30	△							
		インターンシップⅠ	1		1		後	30	△							
		インターンシップⅡ	2		1		前	30	△							
		インターンシップⅢ	2		1		後	30	△							
	自然科学	生物学	1		2		後	30		△						
		生理学	1		2		前	30		△						
		基礎統計学	2		2		前	30		△						
	健康教育	生涯スポーツ実習Ⅰ	1		1		前	30							△	
		生涯スポーツ実習Ⅱ	1		1		後	30							△	
		健康科学論	2		2		後	30							△	
	社会福祉の基礎	社会福祉の基礎	1	2			前	30			○					
		基礎演習Ⅰ	1	1			前	30	○							
		基礎演習Ⅱ	1	1			後	30	○							
専門教育科目	社会福祉系科目	社会学	1		2		前	30			○					5科目10単位以上修得
		心理学	1		2		前	30			○					
		人体の構造と機能及び疾病	1		2		後	30			○					
		児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	1		2		前	30			○					
		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	1		2		後	30			○					
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	1		2		前	30			○					
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	1		2		後	30			○					
		相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1		2		前	30			○					
		相談援助の基盤と専門職Ⅱ	1		2		後	30			○					
		現代社会と福祉Ⅰ	1		2		前	30			○					
		現代社会と福祉Ⅱ	1		2		後	30			○					
		低所得者に対する支援と生活保護制度	2		2		前	30			○					
		地域福祉の理論と方法Ⅰ	2		2		前	30			○					
		地域福祉の理論と方法Ⅱ	2		2		後	30			○					
		社会保障Ⅰ	2		2		前	30			○					
		社会保障Ⅱ	2		2		後	30			○					
		相談援助の理論と方法Ⅰ	2		2		前	30			○		○			
		相談援助の理論と方法Ⅱ	2		2		後	30			○		○			
		相談援助の理論と方法Ⅲ	3		2		前	30			○		○			
		相談援助の理論と方法Ⅳ	3		2		後	30			○		○			
		権利擁護と成年後見制度	2		2		後	30			○					
		社会調査の基礎	2		2		後	30			○			○		
		保健医療サービス	2		2		後	30			○					
		福祉行財政と福祉計画	3		2		前	30			○					
		就労支援サービス	3		1		前	15			○					
		福祉サービスの組織と経営	3		2		前	30			○					
		更生保護制度	3		1		前	15			○					
		相談援助演習Ⅰ	2		1		前	30			○	○	○			
		相談援助演習Ⅱ	2		1		後	30			○	○	○			
		相談援助演習Ⅲ	3		1		前	30			○	○	○			
		相談援助演習Ⅳ	3		1		後	30			○	○	○			
		相談援助演習Ⅴ	4		1		前	30			○	○	○			
		相談援助実習指導Ⅰ	2		1		後	30			○					
		相談援助実習指導Ⅱ	3		1		前	30			○				○	
		相談援助実習指導Ⅲ	3		1		後	30			○				○	
		相談援助実習	3		4		前	180	○	○	◎	○		○	○	
		時事福祉学	4		2		前	30							○	
		関係行政論	4		2		前	30			○					
		連携実践演習	4		1		前	30	○		○	○	○	○	○	
		認知症の理解Ⅰ	3		2		前	30			○					
		認知症の理解Ⅱ	3		2		後	30			○					

ナンバリング									
学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番1	通番2	備考
9	C	C	1	2	1	B	0	1	
9	C	C	1	2	2	B	0	1	
9	C	C	1	2	2	B	0	2	
9	C	C	2	2	1	B	0	1	
9	C	C	1	2	1	B	0	2	
9	C	C	1	2	2	B	0	3	
9	C	C	1	1	1	B	0	1	
9	C	C	1	2	2	B	0	4	
9	C	C	2	2	1	B	0	2	
9	C	C	1	2	3	B	0	1	
1	C	C	2	2	1	B	0	1	
1	C	C	1	2	1	B	0	1	
1	C	C	1	2	2	B	0	1	
1	C	C	1	2	1	B	0	2	
1	C	C	1	2	2	B	0	2	
1	C	C	2	2	1	B	0	2	
1	C	C	2	2	2	B	0	1	
1	C	C	1	2	1	B	0	3	
1	C	C	1	2	2	B	0	3	
1	C	C	1	2	1	B	0	4	
1	C	C	1	2	2	B	0	4	
1	C	C	1	2	2	B	0	5	
1	C	C	2	2	2	B	0	2	
1	C	C	1	2	1	B	0	5	
1	C	C	2	2	2	B	0	3	
1	C	C	1	2	2	B	0	6	
1	C	C	2	2	1	B	0	3	
1	C	C	2	2	1	B	0	4	
1	C	C	2	2	2	B	0	4	
1	C	C	1	2	2	B	0	7	
1	C	C	2	2	1	B	0	5	
1	C	C	2	2	2	B	0	5	
1	C	C	1	2	2	B	0	8	
1	C	C	1	2	1	B	0	6	
1	C	C	2	2	1	B	0	6	
1	C	C	1	2	1	B	0	7	
1	C	C	1	2	2	B	0	9	
1	C	C	2	2	2	B	0	6	
1	C	C	1	1	1	B	0	1	
1	C	C	1	1	1	B	0	2	
1	C	C	1	1	2	B	0	1	
1	C	C	1	2	1	P	0	1	
1	C	C	1	2	1	P	0	2	
1	C	C	1	2	2	P	0	1	
1	C	C	1	2	1	P	0	3	
1	C	C	1	2	2	P	0	2	
1	C	C	1	2	1	P	0	4	
1	C	C	1	2	2	P	0	3	
1	C	C	1	2	1	P	0	5	
1	C	C	1	2	2	P	0	4	
1	C	C	1	2	1	P	0	6	
1	C	C	1	2	2	P	0	5	
1	C	C	2	2	1	P	0	1	
1	C	C	2	2	1	P	0	2	
1	C	C	2	2	2	P	0	1	
1	C	C	2	2	1	P	0	3	
1	C	C	2	2	2	P	0	2	
1	C	C	2	2	1	P	0	4	
1	C	C	2	2	2	P	0	3	
1	C	C	3	2	1	P	0	1	
1	C	C	3	2	2	P	0	1	
1	C	C	2	2	2	P	0	4	
1	C	C	2	2	2	P	0	5	
1	C	C	2	2	2	P	0	6	
1	C	C	3	2	1	P	0	2	
1	C	C	3	2	1	P	0	3	
1	C	C	3	2	1	P	0	4	
1	C	C	3	2	1	P	0	5	
1	C	C	2	2	1	P	0	5	
1	C	C	2	2	2	P	0	7	
1	C	C	3	2	1	P	0	6	
1	C	C	3	2	2	P	0	2	
1	C	C	4	2	1	P	0	1	
1	C	C	2	2	2	P	0	8	
1	C	C	3	2	1	P	0	7	
1	C	C	3	2	2	P	0	3	
1	C	C	3	2	1	P	0	8	
1	C	C	4	2	1	P	0	2	
1	C	C	4	2	1	P	0	3	
1	C	C	4	2	1	P	0	4	
1	C	C	3	2	1	P	0	9	
1	C	C	3	2	2	P	0	4	

分野別		科目	開講年	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	開講期	時間数	①特に重要、○重要、△望ましい ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	備考	ナンバリング 学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番1	通番2	備考
専門教育科目	スペシフィック領域	スクールソーシャルワーク論	3		2		後	30			○						1	C	C	3	2	2	P	0	5	
		スクールソーシャルワーク演習	3		1		後	30	○	○	○	○					1	C	C	3	2	2	P	0	6	
		医療ソーシャルワーク論	3		2		後	30			○						1	C	C	3	2	2	P	0	7	
		チーム医療概論	3		2		後	30			○						1	C	C	3	2	2	P	0	8	
		医療ソーシャルワーク実習指導	4		1		前	30			○	○		○		社会福祉士国家試験受験資格取得見込者のみ履修可	1	C	C	4	2	1	P	0	5	
		医療ソーシャルワーク実習	4		1		前	45			○	○		○			1	C	C	4	2	1	P	0	6	
	精神保健福祉系科目	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	1		2		後	30			○						1	3	C	1	2	2	P	0	1	
		精神疾患とその治療Ⅰ	2		2		前	30			○						1	3	C	2	2	1	P	0	1	
		精神疾患とその治療Ⅱ	2		2		後	30			○						1	3	C	2	2	2	P	0	1	
		精神保健の課題と支援Ⅰ	3		2		前	30			○						1	3	C	3	2	1	P	0	1	
		精神保健の課題と支援Ⅱ	3		2		後	30			○						1	3	C	3	2	2	P	0	1	
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	3		2		前	30			○		○				1	3	C	3	2	1	P	0	2	
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3		2		後	30			○		○				1	3	C	3	2	2	P	0	2	
		精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	2		2		前	30			○						1	3	C	2	2	1	P	0	2	
		精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	2		2		後	30			○						1	3	C	2	2	2	P	0	2	
		精神障害者の生活支援システム	3		2		前	30			○						1	3	C	3	2	1	P	0	3	
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	4		2		前	30			○		○				1	3	C	4	2	1	P	0	1	
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	4		2		後	30			○		○				1	3	C	4	2	2	P	0	1	
		精神保健福祉援助演習Ⅰ	3		1		後	30			○						1	3	C	3	2	2	P	0	3	
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	4		1		前	30			○						1	3	C	4	2	1	P	0	2	
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3		1		後	30			○				○		1	3	C	3	2	2	P	0	4	
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4		1		前	30			○				○		1	3	C	4	2	1	P	0	3	
		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4		1		後	30			○				○		1	3	C	4	2	2	P	0	2	
		精神保健福祉援助実習	4		5		前	210	○	○	◎	○		○	○		1	3	C	4	2	1	P	0	4	
	公認心理師系科目	公認心理師の職責	4		2		前	30		○	○						1	3	P	4	2	2	P	0	2	
		心理学概論	1		2		後	30			○						1	3	P	1	2	1	P	0	1	
		臨床心理学概論	1		2		後	30			○						1	3	P	1	2	2	P	0	1	
		心理学研究法	1		2		後	30			○			○			1	3	P	1	2	2	P	0	2	
		心理学統計法	1		2		前	30			○			○			1	3	P	1	2	1	P	0	2	
		心理学実験	2		2		通	60			○			○			1	3	P	2	2	1	P	0	1	
		知覚・認知心理学	2		2		前	30			○						1	3	P	2	2	1	P	0	2	
		学習・言語心理学	2		2		前	30			○						1	3	P	2	2	1	P	0	3	
		人格・感情心理学	3		2		後	30			○						1	3	P	3	2	3	P	0	1	
		神経・生理心理学	2		2		後	30			○						1	3	P	2	2	3	P	0	1	
		社会・集団・家族心理学	1		2		後	30			○						1	3	P	1	2	2	P	0	3	
		発達心理学	1		2		前	30			○						1	3	P	1	2	1	P	0	3	
		障害者・障害児心理学	2		2		後	30			○						1	3	P	2	2	1	P	0	4	
		心理的アセスメント	2		2		後	30			○			○	○		1	3	P	2	2	2	P	0	1	
		心理学的支援法	3		2		前	30			○			○	○		1	3	P	3	2	2	P	0	3	
		健康・医療心理学	3		2		前	30	○		○						1	3	P	3	2	2	P	0	5	
		福祉心理学	3		2		後	30	○		○						1	3	P	3	2	1	P	0	6	
		教育・学校心理学	3		2		前	30	○		○						1	3	P	3	2	2	P	0	4	
		司法・犯罪心理学	3		2		後	30	○		○						1	3	P	3	2	2	P	0	6	
		産業・組織心理学	3		2		後	30	○		○						1	3	P	3	2	1	P	0	3	
		心理演習Ⅰ	3		1		前	30	○	○	○	○	○	○	○		1	3	P	3	2	3	P	0	1	
		心理演習Ⅱ	3		1		後	30	○	○	○	○	○	○	○		1	3	P	3	2	1	P	0	5	
		心理実習	4		2		通	90	○	○	◎	○	○	○	○		1	3	P	4	2	1	P	0	6	
	アニマルセラピー系科目 関連科目	心理尺度検査法実習	4		1		前	30			○			○			1	3	P	4	2	1	P	0	1	
		動物人間関係学	1		2		前	30	○	○	○						1	3	P	1	2	1	P	0	4	
		動物生態学	1		2		後	30			○						1	3	P	2	2	2	P	0	2	
		動物介在教育学	2		2		後	30			○	○	○				1	3	P	1	2	2	P	0	4	
		動物適正飼養・トレーニング学	2		2		前	30			○						1	3	P	2	2	1	P	0	5	
		動物トレーニング実習	2		1		後	30			○	○					1	3	P	2	1	2	P	0	1	
		アニマルセラピー概論	2		2		前	30			○						1	3	P	1	2	1	P	0	5	
		アニマルセラピー演習Ⅰ	3		1		前	30			○	○	○				1	3	P	2	1	1	P	0	1	
		アニマルセラピー演習Ⅱ	3		1		後	30			○	○	○				1	3	P	2	1	2	P	0	1	
		レクリエーション論	2		2		前	30			○	○					1	3	P	1	2	1	P	0	6	
		レクリエーション実技	2		1		後	30			○	○					1	3	P	1	1	2	0	0	1	
		公衆衛生学	4		2		前	30			○						1	3	P	1	2	1	P	0	7	
		福祉住環境論	4		2		前	30			○						1	3	P	1	2	1	P	0	8	
		教育原論	2		2		前	30			○		○				1	3	P	1	2	1	P	0	9	
		教育相談	3		2		後	30			○		○				1	3	P	1	2	2	P	0	5	
		芸術療法	2		2		前	30		○	○						1	3	P	1	2	1	P	1	0	
		キャリアカウンセリング	4		2		前	30			○						1	3	P	1	2	1	P	1	1	
	総合科目	臨床福祉学演習Ⅰ	3	1			前	30						○	○		1	3	P	3	1	1	P	0	1	
		臨床福祉学演習Ⅱ	3	1			後	30						○	○		1	3	P	3	1	2	P	0	1	
		臨床福祉学演習Ⅲ	4	1			前	30						○	○		1	3	P	4	1	1	P	0	1	
		臨床福祉学演習Ⅳ	4	1			後	30						○	○		1	3	P	4	1	2	P	0	1	
		卒業研究Ⅰ	4	2			前	30						○	○		1	3	P	4	1	1	P	0	2	
		卒業研究Ⅱ	4	2			後	30						○	○		1	3	P	4	1	2	P	0	2	

【卒業要件】
卒業要件として、基礎科目の中から24単位以上修得すること。
（基礎科目の日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、日本語総合講座Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱbは外国人留学生対象科目）
卒業要件として、専攻別専門教育科目の中から100単位以上修得すること。
また、基礎科目、専攻別専門教育科目を合わせて124単位以上修得すること。
その他、備考に記載の要件を満たすこと。

社会福祉学部　子ども保育福祉学科

＜教育課程の編成・実施方針：カリキュラムポリシー＞
本学の建学の理念「学生一人ひとりの能力を最大限に引き出し、引き伸ばし社会に有為な人材を養成する」に基づき、保育士、幼稚園教諭、社会福祉士など、将来児童分野の専門職者として貢献できるよう、専門的知識・技能・態度をバランスよく身につけ、子どもに関わることの喜びと福祉的で豊かな人間性を培い、保育の本質をしっかり理解することを目的にカリキュラムが構成されています。

【教育目標（学習成果）】
①専門的な理論と知識に基礎づけられた保育：保育・幼児教育の業務に携わる上で、保育所や幼稚園の保育の本質と目的や理論および保育・幼児教育の仕組みと制度についての理解を有し、保育者としての倫理観と使命感を有する。
②子どもの総合的理解に基づく保育の実践能力：保育・幼児教育の実践において、子どもの心理的な特性や発達、心身の健康、食生活、家庭生活など総合的な面で子どもについて理解を有する。
③保育・幼児教育の内容、方法の理解：保育、教育課程をもとに様々な保育や幼児教育の内容、方法について演習を通して学び、知識と技術を身につける。
④保育・幼児教育の表現技術の能力：保育や幼児教育で必要となる専門職者としての表現技術を身につけ、保育の中に活かすことができる能力を有する。
⑤保育・幼児教育の実践や研究：保育、幼児教育現場で実践力を身につけ、自己の適性を含めた質の高い研究を遂行する意欲と課題発見・問題解決能力を有する。
⑥家族支援、地域子育て支援の理解：保育・幼児教育の現場における保護者を含めた家族への子育て支援や教育相談、また地域における専門職者としての社会的援助の能力を有する。
⑦基礎的な学力：社会人として、基礎的な知識を身につけ、様々な場面において必要とされる思考力、洞察力、判断力を有する。
⑧コミュニケーション能力：支援対象者や協働する多機関、多職種等とスムーズにコミュニケーションを図り、適切な支援に結び付けられる態度、能力を有する。
⑨福祉社会を担う者としての心構え：豊かな人間性と倫理観を身につけ、対人援助者としての使命感、責任感を有する。
⑩福祉実践力：地域社会や支援対象者に対して、社会福祉の知識、技術を駆使し、課題の発見から解決を導き出していく能力を有する。

＜学位授与方針：ディプロマポリシー＞
保育・幼児教育分野の専門職者としての基礎学力に加え、子どもへの愛情と他者を思いやる感性を持ち、保育現場のニーズに対応した知識・技能・態度を充分に身につけることができた学生には、修了が認定されるとともに学位が授与されます。

分野別		科目	開講年	単位数 必修	単位数 選択	時間数	【教育目標(学習成果)】◎特に重要、○重要、△望ましい ①	②	③	①	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	備考
大学共通基礎科目	共通英語	英語Ⅰ	1		2	30							◎	△			各分野から最低１科目以上修得 大学共通基礎科目の中から10単位以上修得
		英語Ⅱ	1		2	30							◎	△			
	教育情報	メディアリテラシー	1		2	30							◎				
		情報処理入門	1		2	30							◎				
		情報処理演習	2		2	30							◎				
	総合教育	エンカレッジ教育	1		2	30									◎		
		キャリア教育	1		2	30									◎		
		コミュニケーション論	1		2	30						△		◎			
		ＱＯＬ概論	1	1		15									◎		
		人間の尊厳	1	1		15									◎		
		日向国地域論	1		2	30										◎	
		国際保健福祉論	2		2	30										◎	
		国際人道援助論	2		2	30									◎		
		ボランティア活動	1		2	30									◎	◎	
学部共通基礎科目	国際理解	英語コミュニケーション	2		2	30								○			各分野から最低１科目以上修得 学部共通基礎科目の中から26単位以上修得
		中国語Ⅰ	1		2	30								○			
		中国語Ⅱ	1		2	30								○			
		日本語Ⅰ	1		2	30								○			
		日本語Ⅱ	1		2	30								○			
		日本語Ⅲ	2		2	30								○			
		日本語Ⅳ	2		2	30								○			
		日本語総合講座Ⅰa	1		2	30								○			
		日本語総合講座Ⅰb	1		2	30								○			
		日本語総合講座Ⅱa	1		2	30								○			
		日本語総合講座Ⅱb	1		2	30								○			
	人間と社会・文化	哲学	1		2	30							◎				
		心理学	1		2	30		◎									
		倫理学	2		2	30							○		△		
		人間論	1		2	30							○				
		美術	2		2	30				○							
		音楽	1		2	30				○							
		日本国憲法	2		2	30							◎		○	○	
		社会学	1		2	30							○			◎	
		経済学	2		2	30										○	
	自然科学	生物学	1		2	30		○									
		生理学	1		2	30		○									
		基礎統計学	2		2	30							○			○	
	健康教育	生涯スポーツ論	2		2	30		○	○								
		生涯スポーツ実習Ⅰ	1		1	30		○	○								
		生涯スポーツ実習Ⅱ	1		1	30		○	○								
		健康科学論	2		2	30		◎									
	社会福祉の基礎	社会福祉の基礎	1	2		30									◎		
		基礎演習Ⅰ	1	1		30							◎	◎			
		基礎演習Ⅱ	1	1		30							◎	◎			
		基礎演習Ⅲ	2	1		30							◎	◎			
		基礎演習Ⅳ	2	1		30							◎	◎			

分野別		科目	開講年	単位数 必修	単位数 選択	時間数	【教育目標(学習成果)】◎特に重要、○重要、△望ましい ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	備考
専門教育科目	社会福祉系科目	医学概論	1		2	30		◎	○					○		○	9科目18単位以上修得
		社会福祉概論Ⅰ	1	2		30	◎				○		○		○		
		社会福祉概論Ⅱ	1	2		30	◎				○		○		○		
		社会福祉援助技術総論Ⅰ	1		2	30					○	◎		◎	◎	◎	
		社会福祉援助技術総論Ⅱ	1		2	30					○	◎		◎	◎	◎	
		地域福祉の理論と方法Ⅰ	2		2	30					○	◎		◎		◎	
		地域福祉の理論と方法Ⅱ	2		2	30					○	◎		◎		◎	
		社会保障論Ⅰ	2		2	30						◎	○	○		○	
		社会保障論Ⅱ	2		2	30						◎	○	○		○	
		高齢者福祉と介護Ⅰ	1		2	30						○	△	○		◎	
		高齢者福祉と介護Ⅱ	1		2	30						○	△	○		◎	
		障害児・者福祉論	1		2	30	◎	◎	○		○			○		○	
		児童・家庭福祉論	1		2	30	◎	○	○		◎	◎		○		○	
		生活保護制度	2		2	30					○	◎		○		○	
		保健医療サービス論	2		2	30	○	◎	○		○			○		○	
		社会調査法	2		2	30					◎					◎	
		社会福祉援助技術論Ⅰ	2		2	30					○	◎		◎		◎	
		社会福祉援助技術論Ⅱ	2		2	30					○	◎		◎		◎	
		社会福祉援助技術論Ⅲ	3		2	30					○	◎		◎		◎	
		社会福祉援助技術論Ⅳ	3		2	30					○	◎		◎		◎	
		福祉行財政と福祉計画	3		2	30	◎						○			○	
		社会福祉経営論	3		2	30	○						○			○	
		就労支援サービス論	3		1	15	◎					◎	○			○	
		権利擁護と成年後見制度	2		2	30						○	○	○		○	
		更生保護制度	3		1	15							○	△		○	
		社会福祉援助技術演習Ⅰ	2		1	30					○	◎		◎		◎	
		社会福祉援助技術演習Ⅱ	2		1	30					○	◎		◎		◎	
		社会福祉援助技術演習Ⅲ	3		1	30					○	◎		◎		◎	
		社会福祉援助技術演習Ⅳ	3		1	30					○	◎		◎		◎	
		社会福祉援助技術演習Ⅴ	4		1	30					○	◎		◎		◎	
		社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ	2		1	30						○		◎		◎	
		社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	3		1	30						○		◎		◎	
		社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ	3		1	30						○		◎		◎	
		社会福祉援助技術現場実習	3		4	180						○		◎		◎	
		時事福祉学	4		2	30	○						○	○			
		福祉関係法規	4		2	30	○						○				
	保育・幼児教育系専門科目	保育原理	1		2	30	◎										
		保育者論	1		2	30	◎										
		社会的養護	3		2	30	◎										
		教育原論	2		2	30	◎										
		保育の心理学	1		1	30		◎									
		教育心理学	2		2	30		◎									
		子どもの保健ⅠA	3		2	30		◎									
		子どもの保健ⅠB	3		2	30		◎									
		子どもの保健Ⅱ	4		1	30		◎									
		子どもの食と栄養Ⅰ	2		1	30		◎									
		子どもの食と栄養Ⅱ	2		1	30			◎								
		障害児保育Ⅰ	4		1	30		◎									
		障害児保育Ⅱ	4		1	30		◎									
		家庭支援論	4		2	30						◎					
		保育内容（総合）	1		1	30	◎										
		保育内容（言語）	1		1	30					◎						
		保育内容（表現）	2		1	30					◎						
		保育内容（環境）	2		1	30					◎						
		保育内容（健康）	1		1	30					◎						
		保育内容（人間関係）	2		1	30								◎			
		乳児保育Ⅰ	2		1	30	◎										
		乳児保育Ⅱ	2		1	30	◎										
		養護内容	3		2	30	◎										
		保育相談支援	4		1	30								◎			
		基礎技能（体育Ⅰ）	1		1	30					◎						
		基礎技能（体育Ⅱ）	1		1	30					◎						
		基礎技能（体育Ⅲ）	2		1	30					◎						
		基礎技能（美術Ⅰ）	1		1	30				◎							
		基礎技能（美術Ⅱ）	1		1	30				◎							
		基礎技能（美術Ⅲ）	2		1	30				◎							
		基礎技能（音楽Ⅰ）	2		1	30				◎							
		基礎技能（音楽Ⅱ）	2		1	30				◎							
		基礎技能（音楽Ⅲ）	3		1	30				◎							

分野別		科目	開講年	単位数 必修	単位数 選択	時間数	【教育目標(学習成果)】◎特に重要、○重要、△望ましい ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	備考
専門教育科目	保育・幼児教育系専門科目	基礎技能（言　語）	1		1	30		◎		◎							
		保育実習指導Ⅰ	2		2	30		◎			◎						
		保育実習指導Ⅱ	3		2	30		◎			◎						
		保育実習Ⅰ（保育所）	2		2	90		◎			◎						
		保育実習Ⅰ（施設）	3		2	90		◎			◎						
		保育実習Ⅱ（保育所）	3		2	90		◎			◎						
		基礎カウンセリング	2		2	30								◎			
		家族社会学	3		2	30							◎				
		芸術療法入門	1		2	30				○							
		音楽療法	3		2	30				○							
		絵画療法	3		2	30				○							
		芸術療法演習	3		2	30				○							
	幼児教育系専門科目	児童と文学	3		2	30			◎	○							
		器楽活用法	2		2	30			○	◎							
		児童社会学	1		2	30	◎					○					
		障害児教育	2		2	30		◎	○								
		子育て支援論	2		2	30		○				◎					
		動物介在教育学	3		2	30		◎	○								
		子どもと生活	3		2	30		◎	○								
		障害児の心理	2		2	30		◎									
		教職論	2		2	30	◎				○						
		教育行政学	4		2	30	◎					○					
		教育課程論	3		2	30		○	◎								
		教育方法論	2		2	30		○	◎								
		幼児理解	3		2	30		◎							○		
		教育相談	4		2	30		○				◎					
		教職実践演習(幼稚園)	4		2	30			○		◎						
		教育実習の研究	3		2	30	○				◎						
		幼稚園教育実習	4		4	120				○	◎			○			
	総合科目	子ども保育福祉学演習Ⅰ	3	2		60					◎		◎			◎	
		子ども保育福祉学演習Ⅱ	4	2		60					◎		◎			◎	
		卒業研究	4	4		60					◎		◎			◎	

【卒業要件】
基礎科目の中から36単位以上修得すること。
（基礎科目の日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、日本語総合講座Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱbは外国人留学生対象科目）
専門教育科目の中から88単位以上修得すること。
基礎科目、専門教育科目を合わせて124単位以上修得すること。
その他、備考に記載の要件を満たすこと。

保健科学部　作業療法学科

【ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】

①人間活動の科学としての理解：　人間活動を、身体・精神心理・認知・環境・社会等のあらゆる側面における現象として捉え、活動の技法や意味を科学的に理解している。

②臨床コミュニケーション：　対峙する対象者の真意を汲み取り、また、意志の自己表現が困難であってもその想いを推し量り、更に、理解が困難な場合は解りやすい手段を工夫して理解を得ようとする姿勢がある。

③共感：　浅薄な同情や感情移入ではなく、障害を持ちながら生きていく対象者や家族の困難と悩みを客観的に理解し労わることができる。

④倫理観と遵法精神：　医療人としての高い倫理観と遵法精神を持ち、対象者や家族の人権を尊重し保護することができる。

⑤医学的知識の理解と全人間的評価：　種々の疾病についての医学的知識を理解・集積し、これを基に個々の対象者の障害（活動制限）となる医学的原因を特定し、その障害の質と程度および個人的・社会的背景を統合して全人間的な理解ができる。

⑥作業療法の実践：　個々の対象者の障害の本質を理解して問題点を焦点化し、生活を再建あるいは再構築するための作業療法プログラムを立案し、実践できる。

⑦変化への対応：　作業療法プログラム実施の過程における対象者の変化に気付き、それに応じてプログラムを再検討して修正できる。

⑧チーム医療：　他職種の意義を理解し尊重し、良好な人間関係の維持に努め、対象者のためにリハビリテーションチームの一員と

分野別		科目	【ディプロマポリシー実現のために】◎特に重要、○重要、△望ましい									備考	ナンバリング									
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨		学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番1	通番2	備考
大学共通基礎科目	共通英語	英語Ⅰ	◎									大学共通基礎科目の中から10単位以上修得	9	C	C	1	1	1	B	0	1	
		英語Ⅱ	○										9	C	C	1	2	2	B	0	1	
	教育情報	情報処理入門	◎										9	C	C	1	1	2	B	0	1	
		情報処理演習	○										9	C	C	2	2	1	B	0	1	
	総合教育	キャリア教育	○										9	C	C	2	2	2	B	0	1	
		コミュニケーション論	○	○									9	C	C	1	2	1	B	0	1	
		ＱＯＬ概論と人間の尊厳	◎										9	C	C	1	1	1	B	0	2	
		日向国地域論	○										9	C	C	1	2	2	B	0	2	
		国際保健福祉論	○										9	C	C	2	2	1	B	0	2	
		ボランティア活動	○	○	○								9	C	C	1	2	3	B	0	1	
学部共通基礎科目	人間と生活	保健科学	◎	◎	◎							学部共通基礎科目の中から14単位以上修得	2	C	C	1	2	1	B	0	1	
		医学概論	◎				○						2	C	C	1	1	1	B	0	1	
		生命倫理学	◎	◎									2	C	C	1	2	2	B	0	1	
		医療経済学	△										2	C	C	1	2	1	B	0	2	
	健康教育	健康科学論	◎	◎	○								2	C	C	1	1	1	B	0	2	
		生涯スポーツ論		◎	○								2	C	C	1	2	1	B	0	3	
		生涯スポーツ実習		◎	○								2	C	C	1	2	3	B	0	1	
	科学的思考の基盤	医療統計学演習	◎										2	C	C	2	2	1	B	0	1	
		英語コミュニケーション	○										2	C	C	2	2	1	B	0	2	
		医療英語	◎										2	C	C	1	1	2	B	0	1	
		社会福祉学	○	○									2	C	C	1	2	1	B	0	4	
		哲学	△										2	C	C	1	2	2	B	0	2	
		社会学	△										2	C	C	1	2	2	B	0	3	
		生物学	△										2	C	C	1	2	2	B	0	4	
		心理学	△										2	C	C	1	1	2	B	0	2	
		教育学	△										2	C	C	2	2	1	B	0	3	
専門教育科目		解剖学	◎				◎						2	1	C	1	1	3	P	0	1	
		解剖学実習	◎				◎						2	1	C	1	1	3	P	0	2	
		生理学	◎				◎						2	1	C	1	1	1	P	0	1	
		生理学実習	◎				◎						2	1	C	1	1	2	P	0	1	
		運動学	◎				◎						2	1	C	2	1	3	P	0	1	
		運動学実習	◎				◎						2	1	C	2	1	3	P	0	2	
		人間・運動発達学	◎				◎						2	1	C	2	1	1	P	0	1	
		病理学	◎				◎						2	1	C	1	2	1	P	0	1	
		一般臨床医学	◎				◎						2	1	C	1	1	1	P	0	2	
		内科学	◎				◎						2	1	C	2	1	2	P	0	1	
		整形外科学	◎				◎						2	1	C	2	1	2	P	0	2	
		神経内科学	◎				◎						2	1	C	2	1	1	P	0	2	
		小児科学	◎				◎						2	1	C	2	1	2	P	0	3	
		精神医学Ⅰ	◎				◎						2	1	C	1	1	2	P	0	2	
		精神医学Ⅱ	◎				◎						2	1	C	2	1	1	P	0	3	
		老年医学	◎				◎						2	1	C	2	1	2	P	0	4	
		神経科学特論	◎				◎						2	1	C	1	1	2	P	0	3	
		リハビリテーション医学	◎	◎	◎	○	◎			○			2	1	C	2	1	1	P	0	4	
		公衆衛生学	◎				◎						2	1	C	1	2	1	P	0	2	
		臨床心理学	◎	○	○		◎						2	1	C	1	2	2	P	0	1	
		薬理学	◎				◎						2	1	C	1	2	1	P	0	3	
		カウンセリング論	◎	◎			◎						2	1	C	1	2	1	P	0	4	
		園芸論	○										2	1	C	1	2	1	P	0	5	
		園芸療法論	○										2	1	C	1	2	2	P	0	2	
		園芸療法実習	○										2	1	C	2	2	1	P	0	1	
		ガーデニングⅠ	○										2	1	C	2	2	2	P	0	1	
		ガーデニングⅡ	○										2	1	C	4	2	3	P	0	1	
		言語・聴覚障害概論	◎							○			2	1	C	3	2	2	P	0	1	
		視覚障害概論	△							△			2	1	C	3	2	1	P	0	1	
		理学療法概論	◎							◎			2	1	C	3	2	2	P	0	2	
		レクリエーション論	◎	◎									2	1	C	2	2	2	P	0	2	
		レクリエーション演習	◎	◎									2	1	C	3	2	1	P	0	2	
		作業療法概論Ⅰ	◎	◎									2	1	C	1	1	1	P	0	3	
		作業療法概論Ⅱ	○		○								2	1	C	1	2	2	P	0	3	
		作業活動分析学・演習	◎					◎	◎	◎			2	1	C	2	1	3	P	0	3	
		作業療法研究法	◎								◎		2	1	C	3	1	1	P	0	1	
		管理運営学	◎	◎									2	1	C	4	2	1	P	0	1	
		作業療法評価Ⅰ	◎	◎			◎	◎	◎				2	1	C	2	1	1	P	0	5	
		作業療法評価Ⅱ	◎	◎			◎	◎	◎				2	1	C	2	1	3	P	0	4	
		作業療法評価Ⅲ	◎	◎			◎	◎	◎				2	1	C	3	1	1	P	0	2	
		作業療法評価Ⅳ	◎	◎			◎	◎	◎				2	1	C	3	1	2	P	0	1	
		身体障害作業療法Ⅰ	◎	◎				◎	◎	◎			2	1	C	3	1	3	P	0	1	
		身体障害作業療法Ⅱ	◎	◎				◎	◎	◎			2	1	C	3	1	3	P	0	2	
		精神障害作業療法Ⅰ	◎	◎				◎	◎	◎			2	1	C	3	1	3	P	0	3	
		精神障害作業療法Ⅱ	◎	◎				◎	◎	◎			2	1	C	3	1	3	P	0	4	
		発達障害作業療法Ⅰ	◎	◎				◎	◎	◎			2	1	C	3	1	3	P	0	5	
		発達障害作業療法Ⅱ	◎	◎				◎	◎	◎			2	1	C	3	1	3	P	0	6	
		老年期障害作業療法Ⅰ	◎	◎				◎	◎	◎			2	1	C	3	1	3	P	0	7	
		老年期障害作業療法Ⅱ	◎	◎				◎	◎	◎			2	1	C	3	1	3	P	0	8	
		機能代償Ⅰ	◎					◎					2	1	C	3	1	1	P	0	3	
		機能代償Ⅱ	◎					◎					2	1	C	3	1	2	P	0	2	
		日常生活活動概論	◎					◎					2	1	C	1	1	2	P	0	4	
		日常生活活動技能Ⅰ	◎					◎					2	1	C	2	1	1	P	0	6	
		日常生活活動技能Ⅱ	◎					◎					2	1	C	2	1	2	P	0	5	
		地域作業療法学Ⅰ	◎					◎					2	1	C	3	1	1	P	0	4	
		地域作業療法学Ⅱ	◎					◎					2	1	C	4	1	1	P	0	1	
		地域作業療法学演習	◎					◎					2	1	C	3	1	2	P	0	3	
		高次脳機能障害作業療法	◎					◎					2	1	C	3	1	2	P	0	4	
		臨床特論			◎	◎		◎		◎			2	1	C	4	2	1	P	0	2	
		生活環境論						◎	◎				2	1	C	3	2	1	P	0	3	
		臨床見学実習Ⅰ	◎	◎	◎	◎							2	1	C	1	1	2	P	0	5	
		臨床見学実習Ⅱ	◎	◎	◎	◎							2	1	C	1	1	2	P	0	6	
		臨床体験実習	◎	◎	◎	◎							2	1	C	2	1	1	P	0	7	
		臨床評価実習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				2	1	C	3	1	2	P	0	5	
		総合臨床実習Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			2	1	C	4	1	4	P	0	1	
		総合臨床実習Ⅱ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			2	1	C	4	1	4	P	0	2	
		研究特論									◎		2	1	C	3	2	3	P	0	1	
		特別課題研究Ⅰ	◎								◎		2	1	C	3	2	3	P	0	2	
		特別課題研究Ⅱ	◎								◎		2	1	C	4	2	3	P	0	2	

【卒業要件】

大学共通基礎科目の中から10単位以上、学部共通基礎科目の中から14単位以上修得すること。

専門教育科目の中から102単位以上修得すること。

基礎科目、専門教育科目を合わせて126単位以上修得すること。

保健科学部　言語聴覚療法学科

【ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】
①専門職としての基本的態度：言語聴覚障害や、言語聴覚士の基本的役割を認識し、専門職としての素養と自覚、責任感及び倫理観を持つことができる。
②コミュニケーション能力：患者さんや家族、他職種の状況を把握、考慮したコミュニケーションができ、適切な人間関係を築くことができる。
③言語聴覚障害者の評価：言語聴覚障害にかかわる知識・技能を用い、評価に必要なプロセス（情報収集・観察・正確な検査・検査の解釈・問題の抽出・全体像の把握）が遂行できる。
④言語聴覚障害者への支援：評価から得た情報や言語聴覚障害にかかわる知識・技能を用い、適切な訓練目標を設定し、目標に基づいた訓練プログラムを実施し、その結果から考察ができる。
⑤社会的貢献性：保健、医療、福祉、教育に参画・連携し、地域に根差した、生涯にわたる支援を行うことができる
⑥生涯自律性：医療、特に言語聴覚療法をめぐる社会的動向を把握し、生涯にわたって自己研鑽を行うことができる
⑦問題発見・解決力：常に問題意識を持ち、問題意識を解決するための視点を、研究を通じてもつことができる。

分野別		科目	開講年	単位数 必修	単位数 選択	開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】◎特に重要、○重要、△望ましい ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	備考
大学共通基礎科目	共通 英語	英語Ⅰ	1	2		前	30		○				○		大学共通基礎科目の中から10単位以上修得
		英語Ⅱ	1	2		後	30		○				○		
	教育 情報	情報処理入門	1		2	前	30					○	○		
		情報処理演習	2		2	後	30					○	○		
	総合教育	キャリア教育	2		2	後	30	◎				○			
		コミュニケーション論	1		2	前	30	○	◎						
		ＱＯＬ概論と人間の尊厳	1	2		前	30	◎							
		日向国地域論	1		2	後	30		○						
		国際保健福祉論	2		2	前	30		○						
		ボランティア活動	1		2	通	30		○						
学部共通基礎科目	人間と生活	保健科学	1		2	前	30	○	○						学部共通基礎科目の中から14単位以上修得
		医学概論	1	2		前	30		○						
		生命倫理学	1		2	後	30	◎							
		医療経済学	1		2	前	30		○						
	健康教育	健康科学論	1	2		前	30		○						
		生涯スポーツ論	1		2	前	30		○						
		生涯スポーツ実習	1		2	通	60		○						
	科学的思考の基盤	医療統計学演習	2	2		前	30			○			○	○	
		英語コミュニケーション	2		2	前	30		○						
		医療英語	1		2	後	30		○				○		
		社会福祉学	1	2		前	30	○							
		哲学	1		2	後	30	◎							
		社会学	1	2		後	30		○						
		生物学	1	2		後	30		○						
		心理学	1		2	後	30		○	△	△				
		教育学	2		2	前	30		○						
専門教育科目		解剖学	1	2		前	30			○	○				
		生理・病理学	1	2		後	30			○	○				
		臨床医学	2	2		後	30			○	○				
		精神医学	3	2		後	30			○	○				
		リハビリテーション医学	2	2		後	30			○	○				
		耳鼻咽喉科学	2	2		後	30			○	○				
		臨床歯科医学	3	2		後	30			○	○				
		呼吸発声発語系の構造、機能、病態	2	2		後	30			○	○				
		聴覚系の構造、機能、病態	2	2		後	30			○	○				
		神経系の構造、機能、病態	2	2		前	30			○	○				
		臨床心理学	3	2		前	30			△	△				
		生涯発達心理学	1	2		前	30			△	△				
		生涯発達心理学演習	2	1		後	30			△	△				
		学習・認知心理学	2	2		前	30			△	△				
		学習・認知心理学演習	2	1		後	30			△	△				
		心理測定法演習	2	1		後	30			△	△				
		言語学	1	2		前	30			○	○				
		音声学	1	2		前	30			○	○				
		音声科学演習	2	1		後	30			○	○				
		音響学演習	2	1		前	30			○	○				
		聴覚心理学演習	2	1		後	30			○	○				
		言語発達学	1	2		後	30			○	○				
		リハビリテーション概論	1	1		後	15			○	○				
		公衆衛生学	4	2		前	30			○	○				
		言語聴覚障害概論	1	2		前	30	◎	○	○	○				
		言語聴覚障害診断学演習Ⅰ	1	1		前	30	◎	○	○	○				
		言語聴覚障害診断学演習Ⅱ	2	1		前	30	○	◎	○	○				
		失語症	1	2		後	30		○	○	○	○	○		
		失語症演習Ⅰ	2	1		前	30		○	○	○	○	○		
		失語症演習Ⅱ	3	1		前	30		○	○	○	○	○		
		高次脳機能障害演習Ⅰ	2	1		前	30		○	○	○	○	○		
		高次脳機能障害演習Ⅱ	3	1		前	30		○	○	○	○	○		
		言語発達障害Ⅰ	1	2		後	30		○	○	○	○	○		
		言語発達障害Ⅱ	2	2		前	30		○	○	○	○	○		
		言語発達障害演習Ⅰ	2	1		後	30		○	○	○	○	○		
		言語発達障害演習Ⅱ	3	1		前	30		○	○	○	○	○		
		構音障害	2	2		前	30		○	○	○	○	○		
		スピーチ・リハビリテーション	2	2		後	30		○	○	○	○	○		
		スピーチ・リハビリテーション演習Ⅰ	3	1		前	30		○	○	○	○	○		
		スピーチ・リハビリテーション演習Ⅱ	3	1		前	30		○	○	○	○	○		
		嚥下障害	2	2		前	30		○	○	○	○	○		
		嚥下障害演習Ⅰ	2	1		後	30		○	○	○	○	○		
		嚥下障害演習Ⅱ	3	1		前	30		○	○	○	○	○		
		聴覚障害	1	2		後	30		○	○	○	○	○		
		聴覚障害演習Ⅰ	2	1		前	30		○	○	○	○	○		
		聴覚障害演習Ⅱ	3	1		前	30		○	○	○	○	○		
		聴覚検査	2	2		後	30		○	○	○	○	○		
		聴覚検査演習	3	1		前	30		○	○	○	○	○		
		臨床実習Ⅰ	1	1		後	45	◎							
		臨床実習Ⅱ	2	1		前	45	○	◎	○					
		臨床実習Ⅲ	2	1		後	45	○	○	◎					
		臨床実習Ⅳ	3	1		前	45	○	○	◎					
		保健科学概論	2	1		後	30	○	○	○			○		
		学外評価臨床実習	3	4		後	180	○	○	◎					
		学外総合臨床実習	4	8		前	360	○	○	◎	◎				
		言語聴覚障害基礎ゼミⅠ	1	1		前	30	◎	○						
		言語聴覚障害基礎ゼミⅡ	1	1		後	30	◎	○						
		言語聴覚障害基礎ゼミⅢ	2	1		前	30	○	◎				○		
		言語聴覚障害基礎ゼミⅣ	2	1		後	30	○	◎				○		
		言語聴覚障害専門ゼミⅠ	3	1		前	30					○	◎	◎	
		言語聴覚障害専門ゼミⅡ	3	1		後	30					○	◎	◎	
		言語聴覚障害専門ゼミⅢ	4	1		前	30					○	◎	◎	
		言語聴覚障害特講Ⅰ	3	1		前	30					○	◎	◎	
		言語聴覚障害特講Ⅱ	4	1		後	30					○	◎	◎	
		高齢障害演習	2		1	後	30		◎				○		
		新生児障害演習	2		1	前	30		◎				○		
		言語聴覚療法管理運営学演習	4		1	前	30	○	○			○	○		
		コミュニケーション機器論演習	3	1		前	30				◎		○		
		言語聴覚障害社会支援演習	3		1	前	30	○	◎		○				
		言語聴覚障害家族支援演習	3	1		前	30	○	◎		○				

ナンバリング 学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番1	通番2	備考
9	C	C	1	1	1	B	0	1	
9	C	C	1	1	2	B	0	1	
9	C	C	1	2	1	B	0	1	
9	C	C	2	2	2	B	0	1	
9	C	C	2	2	2	B	0	1	
9	C	C	1	2	1	B	0	2	
9	C	C	1	1	1	B	0	2	
9	C	C	1	2	2	B	0	1	
9	C	C	2	2	1	B	0	2	
9	C	C	1	2	3	B	0	1	
2	C	C	1	2	1	B	0	1	
2	C	C	1	1	1	B	0	1	
2	C	C	1	2	2	B	0	1	
2	C	C	1	2	1	B	0	2	
2	C	C	1	1	1	B	0	2	
2	C	C	1	2	1	B	0	3	
2	C	C	1	2	3	B	0	1	
2	C	C	2	1	1	B	0	1	
2	C	C	2	2	1	B	0	1	
2	C	C	1	2	2	B	0	2	
2	C	C	1	1	1	B	0	3	
2	C	C	1	2	2	B	0	3	
2	C	C	1	1	2	B	0	1	
2	C	C	1	1	2	B	0	2	
2	C	C	1	2	2	B	0	4	
2	C	C	2	2	1	B	0	2	
2	2	C	1	1	1	P	0	1	
2	2	C	1	1	2	P	0	1	
2	2	C	2	1	2	P	0	1	
2	2	C	3	1	2	P	0	1	
2	2	C	2	1	2	P	0	2	
2	2	C	2	1	2	P	0	3	
2	2	C	3	1	2	P	0	2	
2	2	C	2	1	2	P	0	4	
2	2	C	2	1	2	P	0	5	
2	2	C	2	1	1	P	0	1	
2	2	C	3	1	1	P	0	1	
2	2	C	1	1	1	P	0	2	
2	2	C	2	1	2	P	0	6	
2	2	C	2	1	1	P	0	2	
2	2	C	2	1	2	P	0	7	
2	2	C	2	1	2	P	0	8	
2	2	C	1	1	1	P	0	3	
2	2	C	1	1	1	P	0	4	
2	2	C	2	1	2	P	0	9	
2	2	C	2	1	1	P	0	3	
2	2	C	2	1	2	P	1	0	
2	2	C	1	1	2	P	0	2	
2	2	C	1	1	2	P	0	3	
2	2	C	4	1	1	P	0	1	
2	2	C	1	1	1	P	0	5	
2	2	C	1	1	1	P	0	6	
2	2	C	2	1	1	P	0	4	
2	2	C	1	1	2	P	0	4	
2	2	C	2	1	1	P	0	5	
2	2	C	3	1	1	P	0	2	
2	2	C	2	1	1	P	0	6	
2	2	C	3	1	1	P	0	3	
2	2	C	1	1	2	P	0	5	
2	2	C	2	1	1	P	0	7	
2	2	C	2	1	2	P	1	1	
2	2	C	3	1	1	P	0	4	
2	2	C	2	1	1	P	0	8	
2	2	C	2	1	2	P	1	2	
2	2	C	3	1	1	P	0	5	
2	2	C	3	1	1	P	0	6	
2	2	C	2	1	1	P	0	9	
2	2	C	2	1	2	P	1	3	
2	2	C	3	1	1	P	0	7	
2	2	C	1	1	2	P	0	6	
2	2	C	2	1	1	P	1	0	
2	2	C	3	1	1	P	0	8	
2	2	C	2	1	2	P	1	4	
2	2	C	3	1	1	P	0	9	
2	2	C	1	1	2	P	0	7	
2	2	C	2	1	1	P	1	1	
2	2	C	2	1	2	P	1	5	
2	2	C	3	1	1	P	1	0	
2	2	C	2	1	2	P	1	6	
2	2	C	3	1	2	P	0	3	
2	2	C	4	1	1	P	0	2	
2	2	C	1	1	1	P	0	7	
2	2	C	1	1	2	P	0	8	
2	2	C	2	1	1	P	1	2	
2	2	C	2	1	2	P	1	7	
2	2	C	3	1	1	P	1	1	
2	2	C	3	1	2	P	0	4	
2	2	C	4	1	1	P	0	3	
2	2	C	3	1	1	P	1	2	
2	2	C	4	1	2	P	0	1	
2	2	C	2	2	2	P	0	1	
2	2	C	2	2	1	P	0	1	
2	2	C	4	2	1	P	0	1	
2	2	C	3	1	1	P	1	3	
2	2	C	3	2	1	P	0	1	
2	2	C	3	1	1	P	1	4	

【卒業要件】
大学共通基礎科目の中から10単位以上、学部共通基礎科目の中から14単位以上修得すること。
専門教育科目の中から102単位以上修得すること。
基礎科目、専門教育科目を合わせて126単位以上修得すること。

保健科学部　視機能療法学科

【ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】

①視能訓練士としての倫理観：医療の担い手として、豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識をもち、人々の生命と生活の質を守る使命感、責任感および倫理観をもって視能訓練士業務ができる。

②コミュニケーション能力：情報を適切に収集、理解、提供することができ、相手の立場を尊重した柔軟な人間関係を構築することができる。

③自律的で意欲的な態度：医療従事者としての目標を明確に持ち、協調性、主体性、自律性を身につけている。

④眼科医療における実践的能力：理論に基づいた実践的な専門知識・技術を有し、眼疾患、斜視、弱視など様々な視能障害をもつ患者の病態評価および訓練計画やリハビリテーション指導の立案ができる。

⑤研究能力：眼科医療における諸課題について、問題を発見し、調査、実験を通して、解決を導き出し、発信することができる。

⑥教育能力：指導的立場として次世代の人材育成に貢献する必要性を理解し、指導力とリーダーシップを発揮できる。

分野別		科目	開講年	単位数		開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】◎特に重要、○重要、△望ましい						備考
				必修	選択			①	②	③	④	⑤	⑥	
大学共通基礎科目	英語	英語Ⅰ	1	2		前	30		◎					大学共通基礎科目の中から10単位以上修得
	英語	英語Ⅱ	1		2	後	30		○					
	情報教育	情報処理入門	1		2	後	30		○					
	情報教育	情報処理演習	2		2	前	30		○					
	総合教育	キャリア教育	2		2	前	30	○						
	総合教育	コミュニケーション論	1		2	前	30		○					
	総合教育	ＱＯＬ概論と人間の尊厳	1		2	前	30	◎						
	総合教育	日向国地域論	1		2	後	30		△					
	総合教育	国際保健福祉論	2		2	前	30		△					
	総合教育	ボランティア活動	1		2	通	30	○	○	○				
学部共通基礎科目	人間と生活	保健科学	1		2	前	30	◎						学部共通基礎科目の中から14単位以上修得
	人間と生活	医学概論	1		2	前	30	◎						
	人間と生活	生命倫理学	1		2	後	30	◎						
	人間と生活	医療経済学	1		2	前	30				△			
	健康教育	健康科学論	1		2	前	30		△					
	健康教育	生涯スポーツ論	1		2	前	30		△					
	健康教育	生涯スポーツ実習	1		2	通	60		△					
	科学的思考の基盤	医療統計学演習	2	2		前	30		◎					
	科学的思考の基盤	英語コミュニケーション	2		2	前	30		◎					
	科学的思考の基盤	医療英語	1		2	後	30		◎					
	科学的思考の基盤	社会福祉学	1		2	前	30	○	○					
	科学的思考の基盤	哲学	1		2	後	30	△						
	科学的思考の基盤	社会学	1		2	後	30		△					
	科学的思考の基盤	生物学	1	2		後	30				○			
	科学的思考の基盤	心理学	1		2	後	30		△		○			
	科学的思考の基盤	教育学	2		2	前	30				○		○	
専門教育科目		解剖学	1	2		前	30				◎			
		生理学	1	2		前	30				◎			
		臨床心理学	2	2		後	30		△		◎			
		発達心理学	2	2		前	30		△		◎			
		病理学	1	2		後	30				◎			
		内科学	2	2		後	30				◎			
		公衆衛生学	2	2		後	30				◎			
		臨床医学	2	2		前	30				◎			
		基礎医学演習	1	1		後	30			○	◎			
		視能学基礎演習Ⅰ	1		1	前	30	◎		○				
		視能学基礎演習Ⅱ	1		1	後	30	◎		○	○			
		視器の解剖生理学演習	1	2		後	60			○	◎			
		屈折学基礎演習Ⅰ	1	1		後	30				◎			
		屈折学基礎演習Ⅱ	2	1		前	30				◎			
		屈折学評価実習Ⅰ	2	2		前	60	△	△	○	◎			
		屈折学評価実習Ⅱ	2	1		後	60	△	△	○	◎			
		屈折学特論演習	4	1		後	30	○	○	○	◎			
		保育	3	2		前	30				◎			
		保健・医療・福祉と関係法規	1	2		後	30	○			◎			
		リハビリテーション概論	3	1		前	15	○			◎			
		外眼筋の作用と眼球運動	2	2		前	30				◎			
		両眼視の基礎	2	2		前	30				◎			
		視覚生理学	2	2		後	30				◎			
		眼科薬理学	3	2		前	30				◎			
		斜視・弱視の基本的知識	2	2		後	30				◎			
		視能検査学実習Ⅰ	2	3		前	90	△	△	○	◎			
		視能検査学実習Ⅱ	2	3		後	90	△	△	○	◎			
		視能検査学実習Ⅲ	3	2		前	60	△	△	○	◎			
		視能検査学実習Ⅳ	3	2		後	60	○	○	◎	◎			
		視能検査学総合実習Ⅰ	3	2		前	60	○	○	◎	◎			
		視能検査学総合実習Ⅱ	3	2		後	60	○	○	◎	◎			
		視能障害学Ⅰ	1	2		後	30				◎			
		視能障害学Ⅱ	2	2		前	30				◎			
		視能障害学Ⅲ	2	2		後	30				◎			
		視能障害学Ⅳ	3	4		後	60				◎			
		視能リハビリテーション学演習	3	2		前	60	○	△	△	◎			
		視能矯正・訓練学演習Ⅰ	3	3		前	90				◎			
		視能矯正・訓練学演習Ⅱ	3	2		後	60				◎			
		屈折学各論実習Ⅰ	3	2		前	60	△	△	◎	◎			
		屈折学各論実習Ⅱ	3	2		後	60	○	○	◎	◎			
		臨地実習Ⅰ	4	7		前	315	◎	◎	◎	◎			
		臨地実習Ⅱ	4	7		前	315	◎	◎	◎	◎			
		基礎ゼミⅠ	1		2	前	60		○	◎	○			
		基礎ゼミⅡ	1		2	後	60		○	◎	○			
		基礎ゼミⅢ	2		1	後	30		○	◎	○	◎		
		専門ゼミⅠ	3	2		前	60		○	◎	◎	◎	△	
		専門ゼミⅡ	3	2		後	60		○	◎	◎	◎	○	
		専門ゼミⅢ	4	2		後	60		○	◎	◎	◎	○	
		視能学総合演習Ⅰ	3	2		後	60			◎	◎			
		視能学総合演習Ⅱ	4	4		後	120			◎	◎			

ナンバリング									
学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番1	通番2	備考
9	C	C	1	1	1	B	0	1	
9	C	C	1	2	2	B	0	1	
9	C	C	1	2	2	B	0	2	
9	C	C	2	2	1	B	0	1	
9	C	C	2	2	1	B	0	2	
9	C	C	1	2	1	B	0	1	
9	C	C	1	2	1	B	0	2	
9	C	C	1	2	2	B	0	3	
9	C	C	2	2	1	B	0	3	
9	C	C	1	2	3	B	0	1	
2	C	C	1	2	1	B	0	1	
2	C	C	1	2	1	B	0	2	
2	C	C	1	2	2	B	0	1	
2	C	C	1	2	1	B	0	3	
2	C	C	1	2	1	B	0	4	
2	C	C	1	2	1	B	0	5	
2	C	C	1	2	3	B	0	1	
2	C	C	2	1	1	B	0	1	
2	C	C	2	2	1	B	0	1	
2	C	C	1	2	2	B	0	2	
2	C	C	1	2	1	B	0	6	
2	C	C	1	2	2	B	0	3	
2	C	C	1	2	2	B	0	4	
2	C	C	1	1	2	B	0	1	
2	C	C	1	2	2	B	0	5	
2	C	C	2	2	1	B	0	2	
2	3	C	1	1	1	P	0	1	
2	3	C	1	1	1	P	0	2	
2	3	C	2	1	2	P	0	1	
2	3	C	2	1	1	P	0	1	
2	3	C	1	1	2	P	0	1	
2	3	C	2	1	2	P	0	2	
2	3	C	2	1	2	P	0	3	
2	3	C	2	1	1	P	0	2	
2	3	C	1	1	2	P	0	2	
2	3	C	1	2	1	P	0	1	
2	3	C	1	2	2	P	0	1	
2	3	C	1	1	2	P	0	3	
2	3	C	1	1	2	P	0	4	
2	3	C	2	1	1	P	0	3	
2	3	C	2	1	1	P	0	4	
2	3	C	2	1	2	P	0	4	
2	3	C	4	1	2	P	0	1	
2	3	C	3	1	1	P	0	1	
2	3	C	1	1	2	P	0	5	
2	3	C	3	1	1	P	0	2	
2	3	C	2	1	1	P	0	5	
2	3	C	2	1	1	P	0	6	
2	3	C	2	1	2	P	0	5	
2	3	C	3	1	1	P	0	3	
2	3	C	2	1	2	P	0	6	
2	3	C	2	1	1	P	0	7	
2	3	C	2	1	2	P	0	7	
2	3	C	3	1	1	P	0	4	
2	3	C	3	1	2	P	0	1	
2	3	C	3	1	1	P	0	5	
2	3	C	3	1	2	P	0	2	
2	3	C	1	1	2	P	0	6	
2	3	C	2	1	1	P	0	8	
2	3	C	2	1	2	P	0	8	
2	3	C	3	1	2	P	0	3	
2	3	C	3	1	1	P	0	6	
2	3	C	3	1	1	P	0	7	
2	3	C	3	1	2	P	0	4	
2	3	C	3	1	1	P	0	8	
2	3	C	3	1	2	P	0	5	
2	3	C	4	1	1	P	0	1	
2	3	C	4	1	1	P	0	2	
2	3	C	1	2	1	P	0	2	
2	3	C	1	2	2	P	0	2	
2	3	C	2	2	2	P	0	1	
2	3	C	3	1	1	P	0	9	
2	3	C	3	1	2	P	0	6	
2	3	C	4	1	2	P	0	2	
2	3	C	3	1	2	P	0	7	
2	3	C	4	1	2	P	0	3	

【卒業要件】

大学共通基礎科目の中から10単位以上、学部共通基礎科目の中から14単位以上修得すること。

専門教育科目の中から102単位以上修得すること。

基礎科目、専門教育科目を合わせて126単位以上修得すること。

保健科学部　臨床工学科

【ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】
①自律性：医療者として必要な倫理観や責任感をもち、臨床工学技士の業務及び法令を遵守するとともに、医療の発展に貢献ができる。
②コミュニケーション能力：医療従事者として、他職種、患者様ならびにご家族と、医療を遂行する上で必要となるコミュニケーション力を発揮することができる。
③問題発見・解決能力：臨床工学の立場から、治療方針に対する提言ができる。
④多様性の理解：医療職の一員として他職種の考えを理解し、連携・協働ができる。
⑤専門的知識・技能の活用力：医療と工学の専門的知識をもとに、医療における安全管理体制を構築し実践できる。

分野別		科目	開講年	単位数 必修	単位数 選択	開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のため ◎特に重要、○重要、△望ましい ①	②	③	④	⑤	備考	ナンバリング 学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番1	通番2	備考
大学共通基礎科目	共通 英語	英語Ⅰ	1	2		前	30		◎				大学共通基礎科目の中から10単位以上修得	9	C	C	1	1	1	B	0	1	
		英語Ⅱ	1		2	後	30		◎					9	C	C	1	2	2	B	0	1	
	教報	情報処理入門	1		2	前	30	◎						9	C	C	1	2	1	B	0	1	
		情報処理演習	1		2	後	30	◎						9	C	C	1	2	2	B	0	2	
	総合教育	キャリア教育	2		2	前	30	◎		○	○			9	C	C	2	2	1	B	0	1	
		コミュニケーション論	1		2	前	30	◎		○	○			9	C	C	1	2	1	B	0	2	
		ＱＯＬ概論と人間の尊厳	1	2		前	30	◎			○			9	C	C	1	1	1	B	0	2	
		日向国地域論	1		2	後	30				△			9	C	C	1	2	2	B	0	3	
		国際保健福祉論	2		2	前	30				△			9	C	C	2	2	1	B	0	2	
		ボランティア活動	1		2	通	30				△			9	C	C	1	2	3	B	0	1	
学部共通基礎科目	人間と生活	保健科学	1		2	前	30						学部共通基礎科目の中から14単位以上修得	2	C	C	1	2	1	B	0	1	
		医学概論	1	2		前	30	◎		○	○	◎		2	C	C	1	1	1	B	0	1	
		生命倫理学	1		2	後	30				△			2	C	C	1	2	2	B	0	1	
		医療経済学	1		2	前	30				△			2	C	C	1	2	1	B	0	2	
	健康教育	健康科学論	1		2	前	30				△			2	C	C	1	2	1	B	0	3	
		生涯スポーツ論	1		2	前	30				△			2	C	C	1	2	1	B	0	4	
		生涯スポーツ実習	1		2	通	60				△			2	C	C	1	2	3	B	0	1	
	科学的思考の基盤	医療統計学演習	2		2	前	30				△			2	C	C	2	2	1	B	0	1	
		英語コミュニケーション	2		2	前	30		○		△			2	C	C	2	2	1	B	0	2	
		医療英語	2		2	後	30		○		△			2	C	C	2	2	2	B	0	1	
		社会福祉学	1		2	前	30				△			2	C	C	1	2	1	B	0	5	
		哲学	1		2	後	30				△			2	C	C	1	2	2	B	0	2	
		社会学	1		2	後	30				△			2	C	C	1	2	2	B	0	3	
		生物学	1		2	後	30				△	○		2	C	C	1	2	2	B	0	4	
		心理学	2		2	後	30				△			2	C	C	2	2	2	B	0	2	
		教育学	2		2	前	30				△			2	C	C	2	2	1	B	0	3	
専門教育科目		病理学	3	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	1	P	0	1	
		病理学演習	3		1	後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	2	2	P	0	1	
		解剖学	1	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	1	1	P	0	1	
		解剖学演習	1		1	後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	2	2	P	0	1	
		生理学	1	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	1	1	P	0	2	
		生理学演習	1		1	後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	2	2	P	0	2	
		生化学	2	2		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	2	1	2	P	0	1	
		基礎医工学実習	1	1		前	45	◎	○	○	○	◎		2	4	C	1	1	1	P	0	3	
		公衆衛生学	1	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	1	1	P	0	4	
		臨床感染免疫学	3	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	1	P	0	2	
		臨床薬理学	3	2		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	2	P	0	1	
		医用電気工学Ⅰ	1	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	1	1	P	0	5	
		医用電気工学Ⅱ	1	2		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	1	2	P	0	1	
		医用電気工学演習Ⅰ	1	1		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	1	1	P	0	6	
		医用電気工学演習Ⅱ	1	1		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	1	2	P	0	2	
		医用電気工学実習	2	1		前	45	◎	○	○	○	◎		2	4	C	2	1	1	P	0	1	
		医用電子工学Ⅰ	2	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	2	1	1	P	0	2	
		医用電子工学Ⅱ	2	2		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	2	1	2	P	0	2	
		医用電子工学演習Ⅰ	2	1		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	2	1	1	P	0	3	
		医用電子工学演習Ⅱ	2	1		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	2	1	2	P	0	3	
		医用電子工学実習	2	1		後	45	◎	○	○	○	◎		2	4	C	2	1	2	P	0	4	
		物性工学	3	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	1	P	0	3	
		物性工学演習	3		1	後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	2	2	P	0	2	
		材料工学	3	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	1	P	0	4	
		材料工学演習	3		1	後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	2	2	P	0	3	
		医用機器工学	3	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	1	P	0	5	
		医用機器工学演習	3		1	後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	2	2	P	0	4	
		医用化学	1	2		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	1	2	P	0	3	
		応用数学	2	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	2	1	1	P	0	4	
		応用数学演習	2	1		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	2	1	1	P	0	5	
		医療情報処理工学	1	2		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	1	2	P	0	4	
		医療情報処理工学実習	1	1		後	45	◎	○	○	○	◎		2	4	C	1	1	2	P	0	5	
		システム工学	3	2		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	2	P	0	2	
		臨床工学概論	1	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	1	1	P	0	7	
		臨床工学演習	1		1	後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	2	2	P	0	3	
		医用工学	1	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	1	1	P	0	8	
		医用工学演習	1	1		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	1	2	P	0	6	
		生体機能工学	3		2	後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	2	2	P	0	5	
		画像診断学	3		2	後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	2	2	P	0	6	
		生体計測装置学Ⅰ	1	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	1	1	1	P	0	9	
		生体計測装置学Ⅱ	3	2		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	2	P	0	3	
		生体計測装置学演習	3		1	前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	2	1	P	0	1	
		生体計測装置学実習	3	1		後	45	◎	○	○	○	◎		2	4	C	3	1	2	P	0	4	
		臨床検査機器学	2	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	2	1	1	P	0	6	
		医用治療機器学	2	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	2	1	1	P	0	7	
		医用治療機器学演習	2		1	前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	2	2	1	P	0	1	
		医用治療機器学実習	2	1		後	45	◎	○	○	○	◎		2	4	C	2	1	2	P	0	5	
		生体機能代行装置学Ⅰ	2	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	2	1	1	P	0	8	
		生体機能代行装置学Ⅱ	3	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	1	P	0	6	
		生体機能代行装置学Ⅲ	3	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	1	P	0	7	
		生体機能代行装置学演習Ⅰ	2	1		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	2	1	2	P	0	6	
		生体機能代行装置学演習Ⅱ	3	1		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	2	P	0	5	
		生体機能代行装置学演習Ⅲ	3	1		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	2	P	0	6	
		生体機能代行装置学演習Ⅳ	4	1		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	4	1	2	P	0	1	
		生体機能代行装置学実習Ⅰ	2	1		後	45	◎	○	○	○	◎		2	4	C	2	1	2	P	0	7	
		生体機能代行装置学実習Ⅱ	3	1		後	45	◎	○	○	○	◎		2	4	C	3	1	2	P	0	7	
		生体機能代行装置学実習Ⅲ	3	1		後	45	◎	○	○	○	◎		2	4	C	3	1	2	P	0	8	
		医用機器安全管理学	3	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	1	P	0	8	
		医用機器安全管理学演習	3	1		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	2	P	0	9	
		医用機器安全管理学実習	3	1		後	45	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	2	P	1	0	
		患者安全管理学	3	2		後	30	◎	◎	○	○	◎		2	4	C	3	1	2	P	2	1	
		臨床医学総論Ⅰ	2	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	2	1	1	P	0	9	
		臨床医学総論Ⅱ	2	2		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	2	1	2	P	0	8	
		臨床医学総論Ⅲ	3	2		前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	1	P	0	9	
		臨床医学総論Ⅳ	3	2		後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	3	1	2	P	3	2	
		看護学概論	3	2		後	30	◎	◎	○	○	◎		2	4	C	3	1	2	P	4	3	
		臨床工学特論Ⅰ	4		2	前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	4	2	1	P	0	1	
		臨床工学特論Ⅱ	4		2	前	30	◎		○	○	◎		2	4	C	4	2	1	P	0	2	
		臨床工学特論Ⅲ	4		2	後	30	◎		○	○	◎		2	4	C	4	2	2	P	0	1	
		臨床実習	4		4	通	180	◎	◎	○	○	◎		2	4	C	4	2	3	P	0	1	
		臨床指導	4	1		前	30	◎	○	○	○	◎		2	4	C	4	1	1	P	0	1	
		総合演習	4	1		前	30	◎	○	○	○	◎		2	4	C	4	1	1	P	0	2	
		卒業研究	4	2		通	60	◎	○	○	○	◎		2	4	C	4	1	3	P	0	1	

【卒業要件】
大学共通基礎科目の中から10単位以上、学部共通基礎科目の中から14単位以上修得すること。
専門教育科目の中から102単位以上修得すること。
基礎科目、専門教育科目を合わせて126単位以上修得すること。

薬学部　薬学科

【ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】
①薬剤師としての倫理観
医療人として高い倫理観と豊かな人間性を持ち、患者、家族、生活者の人権や尊厳に配慮して、人の命と健康な生活を守るために行動できる。
②患者を中心としたチーム医療への参画
常に患者の立場に立ち、コミュニケーション能力をもって患者・患者家族・他の医療職種と相互の立場を尊重した人間関係を構築してチーム医療へ参画できる。
③最適な薬物療法の実践
医薬品・化学物質等の生体及び環境に対する影響を理解した上で、適切に管理・供給し、個々の患者に適した安全で効果的な薬物療法を実践できる。
④地域の保健医療への貢献
地域住民の視点に立ち、地域の保健医療のニーズを理解した上で、他職種と連携して人々の健康増進と公衆衛生の向上に貢献できる。
⑤医療の進歩への貢献
自己研鑽に努め、問題点や社会的動向を把握し、解決に向けて取り組む姿勢を持つとともに、次世代を担う人材の養成を行い、薬学・医療の進歩と改善に貢献できる。

分野別		科目	開講年	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】◎特に重要、○重要、△望ましい ①	②	③	④	⑤	備考
大学共通基礎科目	共通 英語	英語Ⅰ	1	2			前	30				△	○	必修科目10単位、選択科目2単位以上、小計12単位以上修得のこと
		英語Ⅱ	1		2		後	30				△	○	
	教育 情報	情報処理入門	1	2			前	30		◎			△	
		情報処理演習	2		2		前	30		◎			△	
	総合教育	キャリア教育	1	2			前	30	◎	◎				
		コミュニケーション論	1	2			前	30	◎	◎			◎	
		ＱＯＬ概論と人間の尊厳	1	2			前	30	◎	○				
		日向国地域論	1		2		後	30				○		
		国際保健福祉論	2		2		前	30				○	△	
		ボランティア活動	1		2		通	30				○	△	
学科基礎科目		外書講読Ⅰ	1	1			後	24					◎	必修科目16単位、選択科目2単位以上、小計18単位以上修得のこと
		外書講読Ⅱ	2	1			前	24	△	○	△	△	◎	
		外書講読Ⅲ	3	1			前	24		○	◎	○		
		理科系作文法Ⅰ	1	1			前	24	○	◎	○	○	◎	
		理科系作文法Ⅱ	1	1			後	24	△	○				
		法学	1	1			前	24	◎	◎		○	○	
		医事法学総論	1	1			後	24	◎	◎		○	○	
		生物学	1	1			前	24	○		◎	○		
		基礎機能形態学	1	1			前	24			○			
		物理化学Ⅰ	2	1			前	24	△	△	○	△	△	
		物理学Ⅱ	1		1		前	24			○		△	
		化学Ⅰ	1	1			前	24			◎		○	
		化学Ⅱ	1		1		前	24			◎		○	
		化学演習Ⅰ	1			1	前	24			◎		○	
		化学演習Ⅱ	1			1	後	24			◎			
		薬学数学	1	1			前	24		△	◎	○	◎	
		薬学数学演習	1			1	後	24		△	◎	○	◎	
		倫理学	1		1		前	24	◎					
		哲学	2		1		前	24	○					
		病気を知る	1	1			前	24	○		○			
		総合学習Ⅰ	1	1			前	24		△	○			
		総合学習Ⅱ	2	1			前	24			◎	△	○	
		総合学習Ⅲ	3	1			前	24	○	○	○	○	○	
専門教育科目		薬学入門	1	1			前	24	◎	◎	△	○	○	
		プレゼンテーション概論	1	1			前	24		◎				
		医薬情報学	3	1			後	24	◎					
		医薬情報学演習	4	1			後	24	◎					
		くすりの歩み	2		1		前	24	◎		○		◎	
		薬学と生命倫理Ⅰ	2	1			前	24	◎	◎		○	○	
		薬学と生命倫理Ⅱ	3	1			前	24	◎	○	○	◎	◎	
		医療概論	1	1			後	24	◎	○	○	◎	◎	
		コミュニケーション演習	4	1			後	24	◎					
		薬学英語Ⅰ	2		1		後	24		△			○	
		薬学英語Ⅱ	4		1		後	24	△	◎	△	○	◎	
		無機化学Ⅰ	1	1			後	24			◎		○	
		無機化学Ⅱ	2	1			前	24			◎		○	
		有機化学Ⅰ	1	1			後	24			◎		○	
		有機化学Ⅱ	2	1			前	24			◎		○	
		有機化学Ⅲ	2	1			後	24			◎		○	
		有機化学Ⅳ	3	1			後	24			◎		○	
		医薬品化学	4	1			前	24			◎	△	○	
		放射化学・薬品学	2	1			前	24		△	◎	○	△	
		生物有機化学	3	1			前	24			◎	△	○	
		反応有機化学	3	1			後	24			◎		○	
		分析化学Ⅰ	1	1			後	24			◎		○	
		分析化学Ⅱ	2	1			前	24			◎		△	
		分析化学Ⅲ	2	1			後	24		△	◎	△		
		機器分析学	3	1			前	24		△	◎	○	○	
		応用機器分析学	3	1			後	24			◎	○	◎	
		物理化学Ⅰ	2	1			前	24			○			
		物理化学Ⅱ	2	1			後	24			○			
		基礎生化学	1	1			後	24			◎	○		
		生化学Ⅰ	2	1			前	24	◎	○	○		◎	
		生化学Ⅱ	2	1			後	24			◎	○		
		生化学Ⅲ	2	1			後	24		△	◎	△	○	
		ウイルス学	2	1			後	24		△	◎	△	○	
		細菌学	3	1			前	24		△	◎	△	○	
		生物統計学	2	1			前	24			◎		○	
		細胞生物学	3	1			前	24		△	◎	△	○	
		遺伝子工学	4	1			前	24	○		◎	○	△	
		腫瘍治療学	4	1			後	24	◎	○	○		◎	
		薬用植物学	1	1			後	24			○	○	◎	
		生薬学	2	1			前	24			◎	○	◎	
		天然医薬品化学Ⅰ	3	1			後	24			◎	○	◎	
		天然医薬品化学Ⅱ	4	1			前	24			◎	○	◎	
		和漢薬学	2	1			後	24		◎	◎	○	○	
		東洋医薬学	3	1			後	24		◎	○	○	△	
		漢方治療学	4	1			前	24		◎	◎	△	△	
		機能形態学Ⅰ	1	1			後	24			◎			
		機能形態学Ⅱ	1	1			後	24			◎			
		機能形態学Ⅲ	2	1			前	24			◎			
		病理学	2	1			前	24	◎	○	○	○	◎	
		生理・薬理学Ⅰ	2	1			前	24			◎			
		生理・薬理学Ⅱ	2	1			前	24			◎			
		生理・薬理学Ⅲ	2	1			後	24			◎			
		生理・薬理学Ⅳ	2	1			後	24			◎			
		生理・薬理学Ⅴ	3	1			前	24			◎			
		生理・薬理学Ⅵ	3	1			前	24			◎			
		応用薬理学	3	1			後	24			◎		◎	
		免疫学	3	1			後	24		△	◎	△	○	
		臨床医学概論	4	1			後	24	◎	○	○	◎	◎	

ナンバリング 学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番1	通番2	備考
9	C	C	1	1	1	B	0	1	
9	C	C	1	2	2	B	0	1	
9	C	C	1	1	1	B	0	2	
9	C	C	2	2	1	B	0	1	
9	C	C	1	1	1	B	0	3	
9	C	C	1	1	1	B	0	4	
9	C	C	1	1	1	B	0	5	
9	C	C	1	2	2	B	0	2	
9	C	C	2	2	1	B	0	2	
9	C	C	1	2	3	B	0	3	
3	1	C	1	1	2	B	0	1	
3	1	C	2	1	1	B	0	1	
3	1	C	3	1	1	B	0	1	
3	1	C	1	1	1	B	0	1	
3	1	C	1	1	1	B	0	1	
3	1	C	1	1	2	B	0	2	
3	1	C	1	1	1	B	0	2	
3	1	C	1	1	2	B	0	3	
3	1	C	1	1	1	B	0	3	
3	1	C	1	1	1	B	0	4	
3	1	C	2	1	1	P	0	6	
3	1	C	1	2	1	B	0	1	
3	1	C	1	1	1	B	0	6	
3	1	C	1	2	1	B	0	2	
3	1	C	1	3	1	B	0	1	
3	1	C	1	3	2	B	0	1	
3	1	C	1	1	1	B	0	7	
3	1	C	1	3	2	B	0	2	
3	1	C	1	2	1	B	0	3	
3	1	C	2	2	1	B	0	1	
3	1	C	1	1	1	B	0	8	
3	1	C	1	1	1	B	0	9	
3	1	C	2	1	1	B	0	2	
3	1	C	3	1	1	B	0	2	
3	1	C	1	1	1	P	0	1	
3	1	C	1	1	1	P	0	2	
3	1	C	3	1	2	P	0	1	
3	1	C	4	1	2	P	0	1	
3	1	C	2	2	1	P	0	1	
3	1	C	2	1	1	P	0	1	
3	1	C	3	1	1	P	0	1	
3	1	C	1	1	2	P	0	1	
3	1	C	4	1	2	P	0	2	
3	1	C	2	2	2	P	0	1	
3	1	C	4	2	2	P	0	1	
3	1	C	1	1	2	P	0	2	
3	1	C	2	1	1	P	0	2	
3	1	C	1	1	2	P	0	3	
3	1	C	2	1	1	P	0	3	
3	1	C	2	1	2	P	0	1	
3	1	C	3	1	2	P	0	2	
3	1	C	4	1	1	P	0	1	
3	1	C	2	1	1	P	0	4	
3	1	C	3	1	1	P	0	2	
3	1	C	3	1	2	P	0	3	
3	1	C	1	1	2	P	0	4	
3	1	C	2	1	1	P	0	5	
3	1	C	2	1	2	P	0	2	
3	1	C	3	1	1	P	0	3	
3	1	C	3	1	2	P	0	4	
3	1	C	2	1	1	P	0	6	
3	1	C	2	1	2	P	0	3	
3	1	C	1	1	2	P	0	5	
3	1	C	2	1	1	P	0	7	
3	1	C	2	1	2	P	0	4	
3	1	C	2	1	2	P	0	5	
3	1	C	2	1	2	P	0	6	
3	1	C	3	1	1	P	0	4	
3	1	C	2	1	1	P	0	8	
3	1	C	3	1	1	P	0	5	
3	1	C	4	1	1	P	0	2	
3	1	C	4	1	2	P	0	3	
3	1	C	1	1	2	P	0	6	
3	1	C	2	1	1	P	0	9	
3	1	C	3	1	2	P	0	5	
3	1	C	4	1	1	P	0	3	
3	1	C	2	1	2	P	0	7	
3	1	C	3	1	2	P	0	6	
3	1	C	4	1	1	P	0	4	
3	1	C	1	1	2	P	0	7	
3	1	C	1	1	2	P	0	8	
3	1	C	2	1	1	P	1	0	
3	1	C	2	1	1	P	1	1	
3	1	C	2	1	1	P	1	2	
3	1	C	2	1	1	P	1	3	
3	1	C	2	1	2	P	0	8	
3	1	C	2	1	2	P	0	9	
3	1	C	3	1	1	P	0	6	
3	1	C	3	1	1	P	0	7	
3	1	C	3	1	2	P	0	7	
3	1	C	3	1	2	P	0	8	
3	1	C	4	1	2	P	0	4	

分野別	科　　目	開講年	単位数			開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】◎特に重要、○重要、△望ましい					備　考	ナンバリング									
			必修	選択	自由			①	②	③	④	⑤		学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番1	通番2	備考
専門教育科目	衛生化学Ⅰ	2	1			後	24		△	◎	○			3	1	C	2	1	2	P	1	0	
	衛生化学Ⅱ	3	1			前	24		△	◎	○			3	1	C	3	1	1	P	0	8	
	臨床検査学	3	1			前	24		○	◎	△	○		3	1	C	3	1	1	P	0	9	
	薬物代謝学	3	1			後	24		○	◎		○		3	1	C	3	1	2	P	0	9	
	公衆衛生学	3	1			後	24		△	◎	◎			3	1	C	3	1	2	P	1	0	
	身体の特殊な働き	2		1		後	24			◎		△		3	1	C	2	2	2	P	0	2	
	環境科学	1	1			前	24		△	◎	◎			3	1	C	1	1	1	P	0	3	
	食品栄養学	4		1		前	24		△	◎	○			3	1	C	4	2	1	P	0	1	
	栄養管理学	4		1		後	24	○	◎	◎	◎	○		3	1	C	4	2	2	P	0	2	
	薬局方概論	3	1			後	24			○		○		3	1	C	3	1	2	P	1	1	
	薬剤学Ⅰ	2	1			後	24	○	△	◎	○	◎		3	1	C	2	1	2	P	1	1	
	薬剤学Ⅱ	2	1			後	24	○	○	◎	◎	◎		3	1	C	2	1	2	P	1	2	
	薬剤学Ⅲ	3	1			前	24	○	○	◎	◎	◎		3	1	C	3	1	1	P	1	0	
	製剤学	3	1			前	24			◎	○	○		3	1	C	3	1	1	P	1	1	
	調剤学	3	1			後	24	◎	○	◎	○	○		3	1	C	3	1	2	P	1	2	
	基礎薬物動態学	2		1		後	24			◎		○		3	1	C	2	2	2	P	0	3	
	薬物動態学Ⅰ	3	1			前	24			◎		○		3	1	C	3	1	1	P	1	2	
	薬物動態学Ⅱ	3	1			後	24			◎		○		3	1	C	3	1	2	P	1	3	
	薬物治療学Ⅰ	3	1			後	24		△	◎	○	○		3	1	C	3	1	2	P	1	4	
	薬物治療学Ⅱ	3	1			後	24	○	○	◎	○	○		3	1	C	3	1	2	P	1	5	
	薬物治療学Ⅲ	4	1			前	24		○	◎	○	○		3	1	C	4	1	1	P	0	5	
	薬物治療学Ⅳ	4	1			前	24		○	◎		○		3	1	C	4	1	1	P	0	6	
	薬物治療学Ⅴ	4	1			後	24	○		◎		○		3	1	C	4	1	2	P	0	5	
	薬物治療学Ⅵ	4	1			後	24	△	◎	◎	○			3	1	C	4	1	2	P	0	6	
	一般用医薬品学	4	1			前	24	○	○	◎	◎	○		3	1	C	4	1	1	P	0	7	
	医事法学演習	4	1			後	24	◎	○		○	○		3	1	C	4	1	2	P	0	7	
	薬事関係法規Ⅰ	4	1			前	24	◎	◎		○	○		3	1	C	4	1	1	P	0	8	
	薬事関係法規Ⅱ	6	1			前	24	◎	◎		○	○		3	1	C	6	1	1	P	0	1	
	治験ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ論	6	1			前	24	◎	◎	◎	○	○		3	1	C	6	1	1	P	0	2	
	基礎薬学総合演習	4	8			通	192	◎	◎	◎	◎	◎		3	1	C	4	1	3	P	0	1	
	セーフティマネージメント演習	5	1			通	24	○	○	◎	○	◎		3	1	C	5	1	3	P	0	1	
	先端医療学	5	1			通	24	◎	○	○	◎	◎		3	1	C	5	1	3	P	0	2	
	病院薬学演習	5	1			通	24	○	◎	◎	○	◎		3	1	C	5	1	3	P	0	3	
	一般用医薬品学演習	5	1			通	24	◎						3	1	C	5	1	3	P	0	4	
	食品医薬品相互作用論	5	1			通	24		○	◎		○		3	1	C	5	1	3	P	0	5	
	乱用薬物・毒物学	5	1			通	24		△	◎	○			3	1	C	5	1	3	P	0	6	
	漢方治療学演習	5	1			通	24		◎	◎	○	○		3	1	C	5	1	3	P	0	7	
	薬学総合演習Ⅰ	6	5			前	120	○	○	◎	○	○		3	1	C	6	1	1	P	0	3	
	薬学総合演習Ⅱ	6	5			後	120	○	○	◎	○	○		3	1	C	6	1	2	P	0	1	
	薬化学実習	2	1			後	45			◎	△	○		3	1	C	2	1	2	P	1	3	
	分析学実習	2	1			後	45			◎	△	○		3	1	C	2	1	2	P	1	4	
	生薬学実習	3	1			前	45		◎	◎	○	◎		3	1	C	3	1	1	P	1	3	
	基礎生化学実習	2	1			後	45	◎	○	○		◎		3	1	C	2	1	2	P	1	5	
	生化学実習	3	1			前	45		△	◎	△	◎		3	1	C	3	1	1	P	1	4	
	基礎薬理学実習	3	1			前	45		○	◎		○		3	1	C	3	1	1	P	1	5	
	薬理学実習	3	1			後	45			◎				3	1	C	3	1	2	P	1	6	
	薬剤学実習	3	1			後	45	○	○	◎	○	△		3	1	C	3	1	2	P	1	7	
	衛生薬学実習	3	1			後	45		△	◎	○			3	1	C	3	1	2	P	1	8	
	実務実習事前学習Ⅰa	4	1			前	45	◎						3	1	C	4	1	1	P	0	9	
	実務実習事前学習Ⅰb	4	1			前	45	◎	◎	◎	○	◎		3	1	C	4	1	1	P	1	0	
	実務実習事前学習Ⅰc	4	1			前	45	◎	◎	◎	◎	◎		3	1	C	4	1	1	P	1	1	
	実務実習事前学習Ⅱa	4	1			後	45	◎						3	1	C	4	1	2	P	0	8	
	実務実習事前学習Ⅱb	4	1			後	45	◎	◎	◎	○	◎		3	1	C	4	1	2	P	0	9	
	実務実習事前学習Ⅱc	4	1			後	45	◎	◎	◎	◎	◎		3	1	C	4	1	2	P	1	0	
	特別研究Ⅰ	5	4			通	180	○	○	◎	△	◎		3	1	C	5	1	3	P	0	8	
	特別研究Ⅱ	6	8			前	360	○	○	◎	△	◎		3	1	C	6	1	1	P	0	4	
	実務実習Ⅰ	5	10			通	450	◎						3	1	C	5	1	3	P	0	9	
	実務実習Ⅱ	5	10			通	450	◎						3	1	C	5	1	3	P	1	0	

【卒業要件】
大学共通基礎科目12単位以上、学科共通基礎科目18単位以上、合計30単位以上修得のこと。
専門教育科目の中から156単位以上修得のこと。
基礎科目、専門教育科目を合わせて186単位以上修得のこと。

薬学部　動物生命薬科学科

【ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】
①問題発見・解決能力：動物及び薬の専門職に関する現場において、問題解決学習法（Problem-based Learning：以下PBL）の手法を用いて、問題を発見したうえで解決する能力を身に付けることができる。
②論理的構築能力：動物及び薬の専門職に関する現場において、目的・目標、方法及び計画について、策定し説明する能力を修得している。
③協調性を伴うコミュニケーション能力：動物及び薬の専門職に関する現場において、他者の立場を尊重しながらコミュニケーションを働きかけ、チームとして協働する能力を修得している。
④専門的知識・技能に関する実践能力：動物及び薬の専門職に関する現場において、策定した計画をチームとして実際に行動する能力を修得している。
⑤グローバル化に対応する能力：動物及び薬の専門職に関する現場において、国の内外からの情報を入手し考察して、国際社会に対応する能力を修得している。

分野別			科目	開講年	単位数 必修	単位数 選択	開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のため ◎特に重要、○重要、△望ましい ①	②	③	④	⑤	備考	ナンバリング 学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番1	通番2	備考
基礎科目	大学共通基礎科目	共通英語	英語Ⅰ	1		2	前	30		○	○	○	◎	大学共通基礎科目の中から10単位以上修得	9	C	C	1	2	1	B	0	1	
			英語Ⅱ	1		2	後	30		○	○	○	◎		9	C	C	1	2	2	B	0	1	
		教報	情報処理入門	1		2	後	30			◎	○			9	C	C	1	2	2	B	0	2	
			情報処理演習	2		2	前	30			◎	○			9	C	C	2	2	1	B	0	1	
		総合教育	キャリア教育	1	2		前	30	◎		○				9	C	C	1	1	1	B	0	1	
			コミュニケーション論	1		2	後	30			◎				9	C	C	1	2	2	B	0	3	
			QOL概論と人間の尊厳	1		2	前	30			○	◎	◎		9	C	C	1	2	1	B	0	2	
			日向国地域論	1		2	後	30					○		9	C	C	1	2	2	B	0	4	
			国際保健福祉論	2		2	前	30			○	◎	◎		9	C	C	2	2	1	B	0	2	
			ボランティア活動	1		2	通	30			○		○		9	C	C	1	2	3	B	0	1	
	学科基礎科目		英語Ⅲ	3		2	前	30		○	○		◎	学科基礎科目の中から30単位以上修得すること。	3	2	C	3	2	1	B	0	1	
			英語Ⅳ	3		2	後	30		○	○		◎		3	2	C	3	2	2	B	0	1	
			大学英語Ⅰ	2		2	前	30		○	○		◎		3	2	C	2	2	1	B	0	1	
			大学英語Ⅱ	2		2	後	30		○	○		◎		3	2	C	2	2	2	B	0	1	
			英会話Ⅰ	1		2	前	30		○	◎		◎		3	2	C	1	2	1	B	0	1	
			英会話Ⅱ	1		2	後	30		○	◎		◎		3	2	C	1	2	2	B	0	1	
			大学の英作文Ⅰ	2		2	前	30		○	○		◎		3	2	C	2	2	1	B	0	2	
			大学の英作文Ⅱ	2		2	後	30		○	○		◎		3	2	C	2	2	2	B	0	2	
			実用英語Ⅰ	1		2	前	30		○	○		◎		3	2	C	1	2	1	B	0	2	
			実用英語Ⅱ	2		2	後	30		○			◎		3	2	C	2	2	2	B	0	3	
			文学･人間･社会Ⅰ	2		2	前	30		○		△	◎		3	2	C	2	2	1	B	0	3	
			文学･人間･社会Ⅱ	2		2	後	30		○		△	◎		3	2	C	2	2	2	B	0	4	
			芸術･人間･社会Ⅰ	1		2	前	30		○		△			3	2	C	1	2	1	B	0	3	
			芸術･人間･社会Ⅱ	1		2	後	30		○		△			3	2	C	1	2	2	B	0	2	
			アジアと世界Ⅰ	1		2	後	30		△		△			3	2	C	1	2	2	B	0	3	
			アジアと世界Ⅱ	2		2	前	30		△		△			3	2	C	2	2	1	B	0	4	
			哲学	2		2	前	30		△		△			3	2	C	2	2	1	B	0	5	
			倫理学	1		2	前	30		○		△			3	2	C	1	2	1	B	0	4	
			ＰＢＬⅠ	2	2		前	30	◎	◎	○	○			3	2	C	2	1	1	B	0	1	
			ＰＢＬⅡ	2	2		後	30	◎	◎	○	○			3	2	C	2	1	2	B	0	1	
			国際政治学	1		2	後	30		△			○		3	2	C	1	2	2	B	0	4	
			大学の代数Ⅰ	1		2	前	30		○		○			3	2	C	1	2	1	B	0	5	
			大学の代数Ⅱ	1		2	後	30		○		○			3	2	C	1	2	2	B	0	5	
			化学Ⅰ	1		2	前	30		○		○			3	2	C	1	2	1	B	0	6	
			化学Ⅱ	1		2	後	30		○		○			3	2	C	1	2	2	B	0	6	
			化学Ⅲ	2		2	前	30		○		○			3	2	C	2	2	1	B	0	6	
			生物学Ⅰ	1		2	前	30		○		○			3	2	C	1	2	1	B	0	7	
			生物学Ⅱ	1		2	前	30		○		○			3	2	C	1	2	1	B	0	8	
専門教育科目	専門基礎科目		飼料学	2		2	後	30				◎		専門基礎科目の中から29単位以上修得すること。	3	2	C	2	2	2	P	0	1	
			薬用植物学	1		2	前	30				○			3	2	C	1	2	1	P	0	1	
			解剖学Ⅰ	1	2		前	30				◎			3	2	C	1	1	1	P	0	1	
			解剖学Ⅱ	1	2		後	30				◎			3	2	C	1	1	2	P	0	1	
			解剖学実習Ⅰ	1	2		前	30				◎			3	2	C	1	1	1	P	0	2	
			解剖学実習Ⅱ	1	2		後	30				◎			3	2	C	1	1	2	P	0	2	
			生理学Ⅰ	1	2		前	30				◎			3	2	C	1	1	1	P	0	3	
			生理学Ⅱ	1	2		後	30				◎			3	2	C	1	1	2	P	0	3	
			生理学Ⅲ	1		2	前	30				◎			3	2	C	1	2	1	P	0	2	
			有機化学Ⅰ	1	2		後	30		○		○			3	2	C	1	1	2	P	0	4	
			有機化学Ⅱ	2		2	前	30		○		○			3	2	C	2	2	1	P	0	1	
			基礎生化学	1	2		後	30				◎			3	2	C	1	1	2	P	0	5	
			生化学	2		2	後	30				○			3	2	C	2	2	2	P	0	2	
			基礎生化学演習	2		2	前	30		○		○			3	2	C	2	2	1	P	0	2	
			統計学Ⅰ	2		2	前	30				◎			3	2	C	2	2	1	P	0	3	
			統計学Ⅱ	2		2	後	30				◎			3	2	C	2	2	2	P	0	3	
			実験動物学	2	4		前	60				◎			3	2	C	2	1	1	P	0	1	
			実験動物学演習	3		2	前	30		○		◎			3	2	C	3	2	1	P	0	1	
			実験動物学実習	3		2	前	60		○		◎			3	2	C	3	2	1	P	0	2	
			環境生物学Ⅰ	2		2	前	30				◎			3	2	C	2	2	1	P	0	4	
			環境生物学Ⅱ	2		2	後	30				◎			3	2	C	2	2	2	P	0	4	
			微生物学Ⅰ	2	2		前	30				◎			3	2	C	2	1	1	P	0	2	
			微生物学Ⅱ	2	2		後	30				◎			3	2	C	2	1	2	P	0	1	
			微生物学Ⅲ	3		2	前	30				◎			3	2	C	3	2	1	P	0	3	
			微生物学実習	3	2		前	60		○		◎			3	2	C	3	1	1	P	0	1	
	専門科目		組織学Ⅰ	1		2	前	30				◎		専門科目の中から55単位以上修得すること。	3	2	C	1	2	1	P	0	3	
			組織学Ⅱ	1		2	後	30				◎			3	2	C	1	2	2	P	0	1	
			薬理学Ⅰ	2	2		前	30				◎			3	2	C	2	1	1	P	0	3	
			薬理学Ⅱ	2		2	後	30				◎			3	2	C	2	2	2	P	0	5	
			薬理学Ⅲ	4		2	前	30				◎			3	2	C	4	2	1	P	0	1	
			病理学総論	2	2		前	30				◎			3	2	C	2	1	1	P	0	4	
			病理学各論	2	2		後	30				◎			3	2	C	2	1	2	P	0	2	
			寄生虫学	3	2		前	30				◎			3	2	C	3	1	1	P	0	2	
			栄養学	2		2	後	30				◎			3	2	C	2	2	2	P	0	6	
			動物感染症学	3		2	後	30				◎			3	2	C	3	2	2	P	0	1	
			動物繁殖学	3		2	前	30				◎			3	2	C	3	2	1	P	0	4	
			動物臨床Ⅰ	2		2	後	30				◎			3	2	C	2	2	2	P	0	7	
			動物臨床Ⅱ	3		2	前	30				◎			3	2	C	3	2	1	P	0	5	
			動物臨床Ⅲ	3		2	前	30				◎			3	2	C	3	2	1	P	0	6	
			動物臨床Ⅳ	3		2	後	30				◎			3	2	C	3	2	2	P	0	2	
			動物臨床Ⅴ	3		2	後	30				◎			3	2	C	3	2	2	P	0	3	
			動物臨床Ⅵ	3		2	後	30				◎			3	2	C	3	2	2	P	0	4	
			動物臨床演習	3		2	前	30		○	○	◎			3	2	C	3	2	1	P	0	7	
			動物臨床実習Ⅰ	3		2	前	60		○	○	◎			3	2	C	3	2	1	P	0	8	
			動物臨床実習Ⅱ	3		2	後	60		○	○	◎			3	2	C	3	2	2	P	0	5	
			公衆衛生学Ⅰ	2	2		前	30				◎			3	2	C	2	1	1	P	0	5	
			公衆衛生学Ⅱ	2	2		後	30				◎			3	2	C	2	1	2	P	0	3	
			公衆衛生学Ⅲ	3	2		前	30				◎			3	2	C	3	1	1	P	0	3	
			公衆衛生学Ⅳ	4	2		前	30				◎			3	2	C	4	1	1	P	0	1	
			公衆衛生学演習Ⅰ	3	2		後	30		○	○	◎			3	2	C	3	1	2	P	0	1	
			公衆衛生学演習Ⅱ	4	2		前	30		○	○	◎			3	2	C	4	1	1	P	0	2	
			畜産学Ⅰ	3		2	前	30				◎			3	2	C	3	2	1	P	0	9	
			畜産学Ⅱ	3		2	後	30				◎			3	2	C	3	2	2	P	0	6	
			外書講読Ⅰ	3		2	前	30		○			◎		3	2	C	3	2	1	P	1	0	
			外書講読Ⅱ	3		2	後	30		○			◎		3	2	C	3	2	2	P	0	7	
			外書講読Ⅲ	4		2	前	30		○			◎		3	2	C	4	2	1	P	0	2	
			外書講読Ⅳ	4		2	後	30		○			◎		3	2	C	4	2	2	P	0	1	
			生涯学習概論	3		2	前	30		○		◎			3	2	C	3	2	1	P	1	1	
			博物館概論	3		2	前	30		○		◎			3	2	C	3	2	1	P	1	2	
			博物館経営論	4		2	後	30		○		◎			3	2	C	4	2	2	P	0	2	
			博物館資料論Ⅰ	3		1	前	15		○		◎			3	2	C	3	2	1	P	1	3	
			博物館資料論Ⅱ	3		1	後	15		○		◎			3	2	C	3	2	2	P	0	8	
			博物館資料保存論	3		2	後	30		○		◎			3	2	C	3	2	2	P	0	9	
			博物館展示論Ⅰ	3		1	前	15		○		◎			3	2	C	3	2	1	P	1	4	
			博物館展示論Ⅱ	3		1	後	15		○		◎			3	2	C	3	2	2	P	1	0	
			博物館教育論	3		2	前	30		○		◎			3	2	C	3	2	1	P	1	5	
			博物館情報・メディア	3		2	前	30		○		◎			3	2	C	3	2	1	P	1	6	
			博物館実習	4		3	前	90		○	○	◎			3	2	C	4	2	1	P	0	3	
			動物と芸術	2		2	前	30			△	○			3	2	C	2	2	1	P	0	5	
			動物と音楽	2		2	後	30			△	○			3	2	C	2	2	2	P	0	8	
			基礎実習Ⅰ	1	2		前	60			○	◎			3	2	C	1	1	1	P	0	4	
			基礎実習Ⅱ	1	2		後	60			○	◎			3	2	C	1	1	2	P	0	6	
			飼育実習Ⅰ	3	2		前	60			○	◎			3	2	C	3	1	1	P	0	4	
			飼育実習Ⅱ	3	2		後	60			○	◎			3	2	C	3	1	2	P	0	2	
			飼育実習Ⅲ	4	2		前	60			○	◎			3	2	C	4	1	1	P	0	3	
			飼育実習Ⅳ	4	2		後	60			○	◎			3	2	C	4	1	2	P	0	1	
			特別演習	3		2	後	30		○	○	◎			3	2	C	3	2	2	P	1	1	
			課外実習	3		1	前	30		○	◎	◎			3	2	C	3	2	1	P	1	7	
			総合演習Ⅰ	3	2		前	30		○	○	◎			3	2	C	3	1	1	P	0	5	
			総合演習Ⅱ	3	2		後	30		○	○	◎			3	2	C	3	1	2	P	0	3	
			総合演習Ⅲ	4	2		前	30		○	○	◎			3	2	C	4	1	1	P	0	4	
			総合演習Ⅳ	4	2		後	30		○	○	◎			3	2	C	4	1	2	P	0	2	
			卒業研究	4	2		後	30	○	◎	○	◎	○		3	2	C	4	1	2	P	0	3	

【卒業要件】
大学共通基礎科目の中から10単位以上、学科基礎科目の中から30単位以上、合計40単位以上修得すること。
専門基礎科目の中から29単位以上、専門科目の中から55単位以上、合計84単位以上修得すること。
基礎科目、専門教育科目を合わせて124単位以上修得すること。
※食品衛生管理者及び食品衛生監視員資格に関する科目をすべて修得すること。

生命医科学部　生命医科学科

【教育目標(学習成果)】
①自律的行動力：細胞検査士、臨床検査技師または生命医科学者として、自らの目標を明確に掲げ、医療・科学をはじめとした諸問題を、主体的かつ自律的に取り組める。
②人間力：豊かな人間性を持つと共に、医療行政や地域社会の動向をふまえ、医療・科学に必要とされる倫理観を身につけ、社会や他者のために責任ある行動を取れる。
③汎用的能力：細胞検査士、臨床検査技師または生命医科学者として、ジェネリックスキル(汎用的能力)を駆使して、対象(例えば医療現場では患者やその家族など)がもつ背景や属性、価値観ほかの多様性を理解し、相手の立場を尊重できる。
④問題解決能力：細胞検査士、臨床検査技師または生命医科学者として、医療・科学現場における諸課題について、様々な問題を発見し、理解できる。その上で問題解決に必要な論理的・実践的知識を活用し、また、独創的創造力を背景として、適切な研究・実践方法を選択、計画し、行動することができる。アウトカムズアセスメントを検証できるスキルを汎用的に活用できる。
⑤コミュニケーション能力：細胞検査士、臨床検査技師または生命医科学者として、円滑なコミュニケーション能力を用いて、相手の立場を尊重した人間関係を構築できる。
⑥プレゼンテーション能力：細胞検査士、臨床検査技師または生命医科学者として、諸課題の本質を的確にとらえ、情報を収集・分析・考察した上で、それらを効果的にプレゼンテーションできる。
⑦自己研鑽力：細胞検査士資格認定試験・臨床検査技師国家試験を受験するに値する十分な学力を有し、生命科学者として必要とされる統合的な学習経験と高度な専門知識、学修成果を状況に応じ総合的に活用できる。加えて、医学・医療の現状を認識しつつ、生涯にわたり、自己研鑽を継続できる。
⑧チーム医療推進実践力：細胞検査士、臨床検査技師として他職種(例えば医療従事者全般)の特性を理解し、連携・協働できる。

分野別			科目	開講年	単位数 必修	単位数 選択	開講期	時間数	①ディプロマポリシー実現のために ◎特に重要、○重要、△望ましい ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	備考
基礎科目	大学共通基礎科目	共通 英語	英語Ⅰ	1	2		前	30			△		○				大学共通基礎科目の中から10単位以上修得すること。
			英語Ⅱ	1		2	後	30			△		○				
		教育 情報	メディアリテラシー	1		2	前	30				○	◎		○		
			情報処理入門	1		2	後	30				○	◎		○		
			情報処理演習	2		2	前	30				○	◎		○		
		総合教育	エンカレッジ教育	1		2	後	30	○		△		◎			○	
			キャリア教育	2		2	前	30	○		△					◎	
			コミュニケーション論	1		2	前	30					◎	○		○	
			QOL概論	1	1		前	15		◎	○						
			人間の尊厳	1	1		前	15		◎	○						
			日向国地域論	1		2	後	30			○						
			国際保健福祉論	2		2	前	30		○	△						
			国際人道援助論	2		2	後	30		○	△						
			ボランティア活動	1		2	通	30		○	△		○			○	
	学科基礎科目		英会話	1		2	前	30			△		○				学科基礎科目の中から14単位以上修得すること。
			実践英語Ⅰ	2		2	前	30			△						
			実践英語Ⅱ	2		2	後	30			△						
			実践英語Ⅲ	3		2	前	30			△						
			実践英語Ⅳ	3		2	後	30			△						
			物理学	1		2	前	30							○	△	
			化学	1		2	前	30							○	△	
			生物学	1		2	前	30							○	△	
			分子生物学	1	2		後	30							○	△	
			基礎免疫学	1	2		前	30							○	△	
			法学	1		2	前	30		◎	○					○	
			哲学	1		2	後	30		○	○					○	
			生命倫理学	1	2		後	30		◎	○					△	
			心理学	1		2	前	30	◎	○	○	△			○	△	
			統計学	1		2	後	30				○			○	△	
			情報科学概論	2	2		前	30				○			○	△	
専門教育科目	専門科目		生命医科学概論Ⅰ	1	2		前	30				○			○	△	※の2科目のうち、必ず1科目修得すること。
			生命医科学概論Ⅱ	1	2		後	30				○		◎	○	△	
			医学概論	1	2		前	30		△		○			◎	△	
			公衆衛生学	3		2	前	30		○		○			◎	△	
			解剖学Ⅰ	1	2		後	30		△		○			◎	△	
			解剖学Ⅱ	2	2		後	30		△		○			◎	△	
			解剖学実習	2	1		後	45	○	△		◎	○		○	△	
			生理学Ⅰ	1	2		前	30		△		○			◎	△	
			生理学Ⅱ	1	2		後	30		△		○	△		◎	△	
			生理学実習	2	1		前	45	○	△		◎	○		○	△	
			病理学Ⅰ	2	2		前	30		△		○			◎	△	
			病理学Ⅱ	2	2		後	30		△		○			◎	△	
			病理学実習	3	1		前	45	○	△		◎	○		○	△	
			生化学Ⅰ	1	2		前	30		△		○			◎	△	
			生化学Ⅱ	1	2		後	30		△		○			◎	△	
			生化学実習	2	1		前	45	○	△		◎	○		○	△	
			微生物学Ⅰ	1	2		後	30		△		○			◎	△	
			微生物学Ⅱ	2	2		前	30		△		○			◎	△	
			微生物学実習	2	1		後	45	○	△		◎	○		○	△	
			医動物学	3	2		後	30		△		○			◎	△	
			医動物学実習	3	1		後	45	○	△		◎	○		○	△	
			検査機器総論Ⅰ	1	2		前	30				○			◎	△	
			検査機器総論Ⅱ	1	2		後	30				○			◎	△	
			検査基礎実習	1		1	後	45	○	△		◎	○		○	△	
			医用工学概論	1	2		前	30				○			◎	△	
			医用工学実習	1	1		後	45	○	△		◎			○	△	
			臨床血液学Ⅰ	2	2		前	30		△		○	○		◎	△	
			臨床血液学Ⅱ	2	2		後	30		△		○			◎	△	
			臨床血液学実習	3	2		後	90	○	△		◎	○		○	△	
			臨床免疫学Ⅰ	2	2		前	30		△		○			◎	△	
			臨床免疫学Ⅱ	2	2		後	30		△		○			◎	△	
			臨床免疫学Ⅲ	3	2		前	30		△		○			◎	△	
			臨床免疫学実習Ⅰ	3	1		前	45	○	△	△	◎	○	◎	○	△	
			臨床免疫学実習Ⅱ	3	2		後	90		△		◎	○		○	△	
			臨床検査総論	2	2		前	30		△		○			◎	△	
			臨床検査総論実習	2	2		後	90	○	△		◎	○		○	△	
			臨床生理学Ⅰ	2	2		前	30		△		○			◎	△	
			臨床生理学Ⅱ	2	2		後	30		△		○			◎	△	
			臨床生理学Ⅲ	3	2		前	30		△		○			◎	△	
			臨床生理学実習	3	2		後	90	○	△		◎	○		○	△	
			臨床化学Ⅰ	2	2		前	30		△		○			◎	△	
			臨床化学Ⅱ	2	2		後	30		△		○			◎	△	
			臨床化学実習Ⅰ	3	1		前	45	○	△		◎	○		○	△	
			臨床化学実習Ⅱ	3	2		前	90	○	△		◎	○		○	△	
			ＲＩ検査学	2	2		後	30		△		○			◎	△	
			医療安全管理学	3	2		前	30		△		○			◎	△	
			医療安全管理学実習	3	1		後	45	○	△		◎	○		○	△	
			検査管理総論（関係法規含む）	3	2		後	30		△		○			◎	△	
			遺伝子検査学	2		2	前	30		△	△	○			○	△	
			臨床医学総論	3		2	前	30		○		○			○	△	
			臨床検査医学総論	3		2	後	30		○		◎		◎	○	△	
			臨床実習	3	5		後	225	○	○	○	○	○	△	○	◎	
			臨床検査学演習Ⅰ	4		2	前	60		△		○			○	△	
			臨床検査学演習Ⅱ	4		2	後	60		△		○			○	△	
			臨床細胞学総論Ⅰ	1		2	後	30		△		○			○		
			臨床細胞学総論Ⅱ	2		2	前	30		△		○			○		
			臨床細胞学総論Ⅲ	2		2	後	30		△		○			○		
			臨床細胞学演習Ⅰ	3		1	前	30		△		○			○		
			臨床細胞学演習Ⅱ	3		1	後	30		△		○			○		
			細胞診断学特論Ⅰ	4		4	前	120		△		○			○		
			細胞診断学特論Ⅱ	4		4	後	120		△		○			○		
			生命医科学卒業研究Ⅰ	4		8	通	240	◎	△	△	◎	○	◎	○	○	
			生命医科学卒業研究Ⅱ	4		8	通	240	◎	△	△	◎	○	◎	○	○	

ナンバリング 学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番1	通番2	備考
9	C	C	1	1	1	B	0	1	
9	C	C	1	2	2	B	0	1	
9	C	C	1	2	1	B	0	1	
9	C	C	1	2	2	B	0	2	
9	C	C	2	2	1	B	0	1	
9	C	C	1	2	2	B	0	3	
9	C	C	2	2	1	B	0	2	
9	C	C	1	2	1	B	0	2	
9	C	C	1	1	1	B	0	2	
9	C	C	1	1	1	B	0	3	
9	C	C	1	2	2	B	0	4	
9	C	C	2	2	1	B	0	3	
9	C	C	2	2	2	B	0	1	
9	C	C	1	2	3	B	0	1	
4	1	C	1	2	1	B	0	1	
4	1	C	2	2	1	B	0	1	
4	1	C	2	2	2	B	0	1	
4	1	C	3	2	1	B	0	1	
4	1	C	3	2	2	B	0	1	
4	1	C	1	2	1	B	0	2	
4	1	C	1	2	1	B	0	3	
4	1	C	1	2	1	B	0	4	
4	1	C	1	1	2	B	0	1	
4	1	C	1	1	1	B	0	1	
4	1	C	1	2	1	B	0	5	
4	1	C	1	2	2	B	0	1	
4	1	C	1	1	2	B	0	2	
4	1	C	1	2	1	B	0	6	
4	1	C	1	2	2	B	0	2	
4	1	C	2	1	1	B	0	1	
4	1	C	1	1	1	P	0	1	
4	1	C	1	1	2	P	0	1	
4	1	C	1	1	1	P	0	2	
4	1	C	3	2	1	P	0	1	
4	1	C	1	1	2	P	0	2	
4	1	C	2	1	2	P	0	1	
4	1	C	2	1	2	P	0	2	
4	1	C	1	1	1	P	0	3	
4	1	C	1	1	2	P	0	3	
4	1	C	2	1	1	P	0	1	
4	1	C	2	1	1	P	0	2	
4	1	C	3	1	1	P	0	1	
4	1	C	1	1	1	P	0	4	
4	1	C	1	1	2	P	0	4	
4	1	C	2	1	1	P	0	3	
4	1	C	1	1	2	P	0	5	
4	1	C	2	1	1	P	0	4	
4	1	C	2	1	2	P	0	4	
4	1	C	3	1	2	P	0	1	
4	1	C	3	1	2	P	0	2	
4	1	C	1	1	1	P	0	5	
4	1	C	1	1	2	P	0	6	
4	1	C	1	2	2	P	0	1	
4	1	C	1	1	1	P	0	6	
4	1	C	1	1	2	P	0	7	
4	1	C	2	1	1	P	0	5	
4	1	C	2	1	2	P	0	5	
4	1	C	3	1	2	P	0	3	
4	1	C	2	1	1	P	0	6	
4	1	C	2	1	2	P	0	6	
4	1	C	3	1	1	P	0	2	
4	1	C	3	1	1	P	0	3	
4	1	C	3	1	2	P	0	4	
4	1	C	2	1	1	P	0	7	
4	1	C	2	1	2	P	0	7	
4	1	C	2	1	1	P	0	8	
4	1	C	2	1	2	P	0	8	
4	1	C	3	1	1	P	0	4	
4	1	C	3	1	2	P	0	5	
4	1	C	2	1	1	P	0	9	
4	1	C	2	1	2	P	0	9	
4	1	C	3	1	1	P	0	5	
4	1	C	3	1	1	P	0	6	
4	1	C	2	1	2	P	1	0	
4	1	C	3	1	1	P	0	7	
4	1	C	3	1	2	P	0	6	
4	1	C	3	1	2	P	0	7	
4	1	C	2	2	1	P	0	1	
4	1	C	3	2	1	P	0	2	
4	1	C	3	2	2	P	0	1	
4	1	C	3	1	2	P	0	8	
4	1	C	4	2	1	P	0	1	
4	1	C	4	2	2	P	0	1	
4	1	C	1	2	2	P	0	2	
4	1	C	2	2	1	P	0	2	
4	1	C	2	2	2	P	0	1	
4	1	C	3	2	1	P	0	3	
4	1	C	3	2	2	P	0	2	
4	1	C	4	2	1	P	0	2	
4	1	C	4	2	2	P	0	2	
4	1	C	4	2	3	P	0	1	
4	1	C	4	2	3	P	0	2	

【卒業要件】
大学共通基礎科目の中から10単位以上、学科基礎科目の中から14単位以上、合計24単位以上修得すること。
専門基礎科目の専門科目の中から100単位以上修得すること。
基礎科目、専門教育科目を合わせて124単位以上修得すること。

ナンバリングについて

本学では、授業科目のそれぞれに個別の識別コード（番号、アルファベット）を付し、科目の難易度や履修の推奨順序などを明確に示しております。

本学で行うナンバリング体系は、以下に基づき、付番を行っております。

1桁目	大分類（学部）	2桁目	大分類（学科）	3桁目	大分類（専攻・コース）	4桁目	学年（難易度）	5桁目	単位区分	6桁目	開講期	7桁目	科目区分	8桁目	通番（1桁目）	9桁目	通番（2桁目）	その他・備考
1	社会福祉	4	スポ健	S	鍼灸のみ	1	1	1	必修	1	前期	B	基礎科目	0	0	1	1	
		3	臨床福祉	W	臨床福祉(welfare)	2	2	2	選択	2	後期	P	専門教育科目	1	1	2	2	
2	保健科学	1	作業療法	K	介護のみ	3	3	3	自由	3	通年	T	教職科目	2	2	3	3	
		2	言語	P	臨床心理(psychology)	4	4			4	前・後			3	3	4	4	
		3	視能			5	5							4	4	5	5	
		4	臨工			6	6							5	5	6	6	
3	薬学	1	薬											6	6	7	7	
		2	動生											7	7	8	8	
4	生命医科	1	生命医科											8	8	9	9	
8	通信教育	1	臨床福祉											9	9	0	0	
9	大学全体	C	共通（common）	C	共通（common）													